
都市生活学部

都市生活学科

都市生活学部 都市生活学科

人材の養成および 教育研究上の目的

都市生活学部は、魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく、企画・実行業務を担う実践力のある人材を養成することを目的とする。(学則 第4条の2別表6より)

カリキュラムポリシー

教育課程の編成方針

都市生活学部では、持続的で魅力的な都市生活の創造にかかわる企画・業務において、国内は勿論、グローバルな場で活躍できる人材を育成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

1. 複雑化する都市社会の中で確かな価値を見抜く力を養うとともに、国際人として活躍できるコミュニケーション能力の獲得を目指して、社会、歴史、文化、芸術分野を幅広く含む「教養科目」と、「外国語科目」および「海外留学プログラム」を設置する。
2. 経営学的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して「演習科目」を設置するとともに、都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する。
3. 特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得するため、「プロジェクト演習」および「卒業研究」を設定する。

ディプロマポリシー

学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。

1. 社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している。
2. 社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している。
3. 都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得している。

備考

1. 都市生活学部のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の大学設置基準、日本学会会議の経営学分野および土木工学・建築学分野の参照基準に準拠している。
2. カリキュラムポリシーとしては宅地建物取引士資格、1・2級建築士資格受験、公務員受験に必要とされる科目群も参照基準としている。
3. 領域別の教育到達目標レベルは、各領域で定めている。
4. 領域内の系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧などに掲載している。

1. 都市を創る人材の育成

「都市生活」という学部名から皆さんはどのような内容を想像されるでしょうか？これまで「都市」と言えば工学、「生活」と言えば生活科学などを対象とする分野として考えられる傾向がありました。しかし、私達の学部は東京都市大学が新しい発想で創る「都市」をテーマに総合的に学ぶ社会科学系の学部としてスタートした学部です。都市は、工学的見地から捉えようとする建築や工作物などのハードウェアを中心にした見方になり、生活科学から見た場合には、家の中や限られた周辺環境の発想にとどまりがちになります。しかし、現実の都市には人々が集まって、働き、暮らし、楽しむ場としての重要な機能があり、そこには人間のドラマや、そこで生まれる活動やそれを演出する空間があります。こうした人間社会を対象とする分野は社会科学が得意とする領域ですが、都市と結びつけた考え方は、これまでわが国の大学教育の枠組みからは抜け落ちていました。このため、私たちはこうした都市の中で営まれるライフスタイルの創造を目標に据え、愉しみの源となる都市の文化、それを生み出す舞台としての街、活動する人達の居場所としての住まいの分野を対象にした教育研究を行うため、2009年に「都市生活学部」を開設いたしました。

今後、都市とそこで働き、住まい、楽しむ人々にとって、新しい世代の価値観を構築する必要があります。グローバルスタンダード、金融、消費、成長を中心に組み立てられたモノ中心の社会構造から、より精神的な豊かさ、人と人との新たな繋がり、歴史や文化へのリスペクトに根ざしたコト中心の都市社会の構築へと舵を切らなければならないと考えています。このため都市生活学部では、国際社会に臆せず飛び込み、多様な視点から都市を創る楽しさを知っている「新しい都市生活の創造者」となる人材を育てていくことを目指しています。

まず第1に、わが国では、総人口はゆるやかに減少している状況が継続しています。しかし、その傾向の中でも、東京を始めとする大都市への人口集中つまり都市化の傾向が長い間続いてきました。この傾向は欧米先進国にも共通しており、また、人口が増加している発展途上国では急速に都市化が進んでいます。これら世界的な都市化の動きは、資産・情報・文化・産業の集積へと繋がり、都市は活力と個性を獲得してきました。そして、国家という枠を一気に飛び超え、都市間競争の時代を迎えています。

しかし、同時に様々な歪が生まれ、これまでの考え方だけでは解決し得ない複合した「社会課題 (Social Issue)」を生み出しています。それらを横断的に分析し、統合的な解決案を提示し、人々がより精神的な豊かさを実感しながら働き楽しみ生活する＝「価値ある都市生活 (Value of Urban Life)」の場と機会を創り出すことが大切になってきました。

第2に、日本は長年続いてきた製造業を核とした産業構造から、サービス・マネジメント・オペレーションといった社会や人々の生活を持続的に魅力あるものと育てていく、新しい産業と製造業との両輪型の産業構造に急速に移行しつつあります。その課題に取り組むときに、都市はフローからストックの時代を迎えていることを認識しなければなりません。新しい建物や施設を建設することから、既存の社会資本を活用し、街をより安全で快適で魅力のあるものに育てていくこと、それを実現するマネジメントが求められています。そのためには、地球環境を見据えて将来の世代に引き継いでいける価値ある生活環境の構築や、歴史やローカル文化・風土との共生を志向する価値観や理念を確立し、それを支える新しいルールと社会関係資本を形成していくことが求められます。歴史的には工学系を軸として発展してきた東京都市大学で、都市生活学部が担うべき責務は、そうした職能を担っていける人材の育成ということになります。

第3に、中国やアジア・オセアニアを中心とした発展途上にある国では、人口増加と経済規模の拡大が急速に進んでいます。人件費の安い国に工場を作って安い製品を輸入するといった考え方は既に過去のもので、これらの国々が今後消費の中心にあるのは疑う余地もありません。まだ発展の初期段階にある国も急速に経済力を押し上げてきているのが現状です。国際競争の中で、日本は、技術力に加えマネジメント力とデザイン力を磨き、価格競争ではなく、商品・サービス・空間の価値創造力で戦っていく必要があります。更には、それらの国々も、近い将来消費一辺倒を脱し、人々は豊かさ、価値の軸足を移していくことになり、サービス・マネジメント・オペレーションのニーズが認識されていくでしょう。

東京都市大学は、オーストラリアのパスを拠点とした東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)、国際化に向けたカリキュラム構築、国際インターンシップの開発など、2015年度から、国際化に向けて大きな舵を切りました。都市生活学部はその先導役を果たし、その中心になることが求められています。都市生活学部では毎年全学部の中でも多い90名弱の学生が東京都市大学オーストラリアプログラム TAP に参加しています。さらに TE0IC600 点以上の英語力をもつ学生についてはニュージーランドのカンタベリー大学への留学プログラム TUCP を通してトップアップも図っていきます。また、日本を牽引してきた大企業だけではなく、製造、流通、サービス、そして都市開発や管理運営分野の企業の多くが国内外というバウンダリーを超え、アジア・オセアニアを中心とした海外で、あるいは、海外とのビジネスを進めています。ICT

技術や輸送ノウハウの進歩と国家間の障壁を低くする様々な仕組みづくりが、それに拍車をかけています。都市生活学部としては、この大きな流れの中でしっかり戦える人材を、社会に送り出していくことが、国際化に対する答えであると考えます。

第4に、社会の構造や価値観の変化とともに、旧来からの、近隣で完結するあるいは血縁や所属組織を核としたコミュニティの考え方が、成り立たなくなってきました。SNS の発達等が、良くも悪くも、時には距離や国や履歴を超えて、人と人を新しく結び付けることを可能にしています。そのような新しい時代に相応しい、個々の様々な発想やテーマごとの集合による新しい連携と、旧来型の地域中心の連携を再生しながら融合させていく、新しいソーシャル・コミュニティの構築が求められています。また、都市や地域の課題や中心を担う世代や人物は更新されていくので、変化や不確実性に対して緩やかで打たれ強いマネジメントが必要です。社会全体の豊かさや価値の創造とは、国や自治体による公共政策や法律・制度・計画と、民間資本による市場原理に基づくビジネスが、地域やテーマによるコミュニティと相互にフィードバックしながら、イノヴェートしていくことの積み重ねであると考えます。

第5に、企業や組織の中ですべての業務が完結しない時代を迎えました。これを個人のネットワークの時代という人もいます。実践的教育を標榜する以上、質量両面で、産業界、行政、他の教育機関と協同していくことが教育の1つの柱になると考えます。まずは、様々なシンポジウム、イベント、ワークショップ、コンペティションへの積極的な参加、都市生活学部の特徴を活かして一定の役割を担う産官学協同プロジェクトへの参加、更には、都市生活学部の1つのあるいは複数の研究室が核になる社会連携プロジェクトの実行に、学部をあげて挑戦することが望まれます。また、将来的には、本学部の枠を超え、他の学部・学科と単位互換のルール作りを進め、多くの企業と連携を図り、より統合的横断的な教育・研究環境を整備すべきでしょう。足場を固めた後には、他大学との連携も積極的に図る方向を模索すべきです。

このように、国内外の都市における、今後ますます複雑で横断的になっていくと想定される「社会課題 (Social Issue) 」を分析し解決策を提案し、人々の「価値ある都市生活 (Value of Urban Life) 」すなわち質の高い働き方、暮らし方、楽しみ方、賑わい、そして人と人の新しい繋がりを企画し、実現し、運営していく人材が、世界中で必要とされています。私たちの生活の質を向上させる商品やサービス、街の賑わいや個性的な空間、人々の心を刺激し豊かにする文化、環境と共生する穏やかな社会、それらを支える制度とシステム、そして、これらがもたらすであろう魅力的で持続可能な都市生活の創造という新しい価値創造が求められているのです。

都市生活学部では、都市生活の様々な社会課題を調査分析し、構想・企画へと描きあげ、その実現と継続のためのマネジメントを担う人材を教育と研究の両面で育成します。商学・経営学にベースを置き、工学技術マインド、意匠造形マインドを有し、国際的な視野を持って、企画・実行・運営業務を担う人材を、実践的に養成していきます。

2. 横断型人材育成のストラクチャー

都市生活学部が目指す横断型人材は、工学部のように1つの分野を中心に深く掘り下げる専門家ではなく、また、教養学部のように浅く広い分野の知識を身につけることが目的ではありません。いわば、その中間にあたり、1つの領域の専門知識とスキルを持ちながら4つの領域の幅広い知識を有する人物像です。現在は、プロジェクト演習・卒業研究がその役割を最も色濃く担っていますが、演習、専門科目の両方で、1つの専門領域に軸足を置きつつ、他の3領域を学べるカリキュラム体系と履修要件にする必要があります。

横断型人材は、様々な利害関係者をマネジメントする能力育成が不可欠です。国際化を目指すのであればその重要度は今後ますます増していくでしょう。幅広い知識習得とともに、コミュニケーション能力育成が最も重要で基礎的な要素になります。主として演習科目がその目的を担うことになります。自分の考えを自分の言葉で話すことから始まり、言葉や文章のほかに CAD・BIM・ICT・模型等の多様なツールを利用してのプレゼンテーション力を磨き、チームで成果を出すことのトレーニングを行い、合意形成をしていくことのできる人材を育成することに重点を置きたいと考えます。

これらを実現する人材を具体的に示すと以下のようになります。

- ・都市空間を生み出す人：東京臨海副都心、みなとみらい21、渋谷・二子玉川など新しい街の建設では、建築のみならず、環境、文化、社会、経済など、様々な分野を視野に入れ、都市や街づくりのプランを作成し、各分野の専門家や技術者と協力してプロジェクトを実現させていく人達があります。その活躍の舞台は、中国・アジア・オセアニアをはじめ世界へと広がっています。
- ・街をカタチにする人：東京、上海、ニューヨーク、ロンドンなどでは、毎年のように新しい建物が完成し、街の景観が

どんどん変化していきます。このように、独自の個性や魅力的な景観を持った都市空間を実現するため、新しい都市開発や街づくりのコンセプトに合わせて建築や都市空間をデザインしていく人達がいます。

- ・街の仕組みをつくり経営を実践する人：まちづくりやその運営には都市の特徴や文化に根差しながら未来を見据えたルールづくりが必要です。また、道路や広場の整備には財源が必要であり、都市の開発には資金調達と収入の確保が不可欠です。そのため行政や不動産、金融の専門家たちが活躍しています。これらすべてが都市を舞台にした、私たちの生活を豊かにするための活動です。
- ・生活の豊かさを顧客に手渡す人：素晴らしい商品やサービスがあって初めて、街での生活は豊かなものとなり、その街の魅力が形成されていきます。このような高感度な商品やサービスを創造し提供する人もまた、街の文化を創造する人たちです。商品やサービスを企画開発する人、その商品やサービスを営業という手段で顧客に手渡していく人、これらの人々のすべての活動が連なって人々の生活が豊かになっていきます。
- ・楽しさを演出する人：イベント、お祭り、エンターテインメント、テーマパークなど都市には楽しみが集まっています。これらを演出し、街に人々を集客するには、伝統を掘り起こしたり、エンターテイナーを呼び寄せたり、空間を魅力的に演出したりして、楽しさを様々に提供する人達が活躍しています。
- ・商品やサービスの魅力を伝える人：商品やサービス、空間もその魅力を引き出し伝えることが重要です。センスの良い広告によって伝えたり、雑誌やインターネットなどの媒体によって紹介したり、観光商品化して人々を呼び寄せたりしている人達が、広告、出版、ネット、旅行など、多岐にわたる業界で活躍しています。
- ・住む空間をデザインする人：家に住む、マンションに住む、ホテルに住むなど、都市に暮らす人々の様々な価値観や、ライフスタイルに合った居住空間が求められています。グローバルな現代社会では、居住空間を商品として多様なサービスを含めて提供することも重要となっています。また、スクラップアンドビルドだけではなく、空間の価値と採算性を考慮して、リノベーションを行ったり、非居住空間を住空間へ再生したり、質の高い工業化住宅の開発に取り組む人達がいます。

これらの人々すべてが都市を舞台に私たちの生活を豊かにするための活動を行っています。そのため、都市生活学部では、新しいライフスタイルを生み出す商品やサービス、美しい街や快適な住まい、そして、これらがもたらす魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、商学・経営学をベースに、工学マインド、意匠造形マインドをもって企画・実行業務を担う実践力のある人材を育成していきます。

3. 4つの領域とその要素

「社会課題（Social Issue）」と「価値ある都市生活（Value of Urban Life）」を構成する領域は、都市のライフスタイル Lifestyle、都市のマネジメント Management、都市のデザイン Design、都市のしくみ System の4領域です。

都市のライフスタイル（Lifestyle）の領域を構成する要素としては、都市生活をより創造的なものにする文化・芸術・楽しみ、それを世界の人と共有する観光と集客、都市の経済を活性化し商品やサービス、それらを支える経営戦略、マーケティング、物流、金融のシステムです。

都市のマネジメント（Management）の領域を構成する要素は、都市の将来像を中長期に渡って描くマスタープラン、都市開発を支える不動産マネジメントとプロジェクトマネジメント、都市生活の新しい人と組織の関係を創造するソーシャル・コミュニティマネジメント、都市の経営運営を担うタウンマネジメント・エリアマネジメント、施設の経営運営を担うプロパティマネジメントとオペレーションとなります。

都市のデザイン（Design）の領域を構成する要素は、都市の美しい景観や豊かな都市空間の創造を担う都市デザイン、都市の活動の拠点となる建築・空間、人々の生活の基本である居住を支えるハウジングと居住環境のコミュニティデザイン、CAD、CG、プログラミング、BIMなどのデザインや企画・設計を支える技術です。

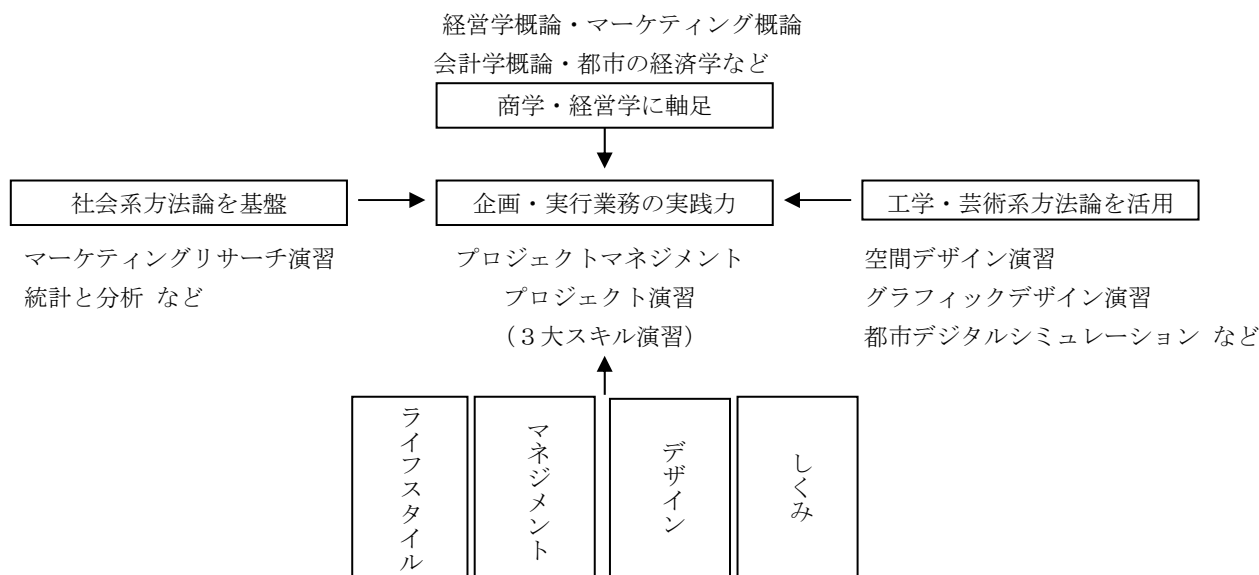
都市のしくみ（System）を構成する要素は、都市の様々なアクティビティを支える社会制度とインフラ、豊かな都市生活を共有するための環境、様々な都市の活動を有効に機能させるために不可欠の公共政策、高齢化社会に向けた社会福祉のシステムとデザインと考えます。

これらは、時代とともに、その形式や価値を常にイノヴェートしなければいけません。それを、学習し、研究する学部が都市生活学部です。

4. 教育の理念と体系

都市生活学部においては、都市の中で営まれるライフスタイルの創造を目標に据え、商学・経営学に軸足を置き、社会（生活者、市場など）に対する方法論を基盤に据えつつ、工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を活用し、都市における空間、商品・サービスに関する生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく企画・実行力を身につけるための教育研究を行うことを理念とします。

このような企画・実行力を身につけるための実践的な教育体系は、以下の図のようになります。



また、この体系の下、具体的には下記の専門領域ごとに下記の要素を学習する諸科目を配置しています。

(1) 都市のライフスタイル Lifestyle

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Culture, Art, & Amusement 文化・芸術・アミューズメント
- ②Product & Service 商品・サービス
- ③Marketing マーケティング
- ④Logistics 物流・商流
- ⑤Finance & Accounting 金融・会計
- ⑥Tourism 観光
- ⑦Human Attract 集客

(2) 都市のマネジメント Management

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Master Plan マスタープラン
- ②Real estate 不動産
- ③Project management プロジェクトマネジメント
- ④Area・Town management エリア・タウンマネジメント
- ⑤Property Management & Operation 管理運営
- ⑥Community Management コミュニティマネジメント

(3) 都市のデザイン Design

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Urban design 都市デザイン
- ②Space & Architecture 空間と建築
- ③Housing & Community Design 住居とコミュニティデザイン
- ④Computer Technology コンピュータ技術

(4) 都市のしくみ System

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Infrastructure インフラ
- ②System 制度・システム
- ③Public Policy 公共政策
- ④Environment 環境
- ⑤Social Welfare 社会福祉
- ⑥Urban Mobility 開発経済

カリキュラムには、これらは次のように具体的に反映されています。

①都市のライフスタイル、まちづくり、居住環境等についての実践的な教育研究

都市の文化、まちづくり、居住環境に関する4つの専門領域を設け、都市のライフスタイル領域、都市のマネジメント領域、都市のデザイン領域、都市のしくみ領域の専門科目を設置し、実践的な教育研究を行います。

②構想・企画を描きあげ事業推進、管理運営を行う企画・実行業務の実践力育成

「プロジェクトマネジメント」により企画・実行力を育成し、演習科目の「コンピュータ演習」、「グラフィックデザイン演習」、「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、「マーケティングリサーチ演習」のスキルを身に付けることにより実践力を発揮することができます。

③商学・経営学をベース

必須科目の「マーケティング概論」、「経営学概論」のほか、「経営財務」、「会計学概論」、「都市の財政学」、「経営戦略論」を学ぶことにより商学・経営学のエッセンスを学びとります。

④社会（生活者、市場など）系方法論を基盤

社会系方法論の学習として「マーケティングリサーチ演習」により、社会調査、マーケティングリサーチのスキルを身に付けます。

また、社会（生活者、市場など）への対応方法としての「統計と分析」、「ブランド戦略」、「広告コミュニケーション」、「まちの観察」、「ユニバーサルデザイン」などにより生活者、市場の知識を学びます。

⑤工学・芸術（技術、意匠造形）系の方法論を活用

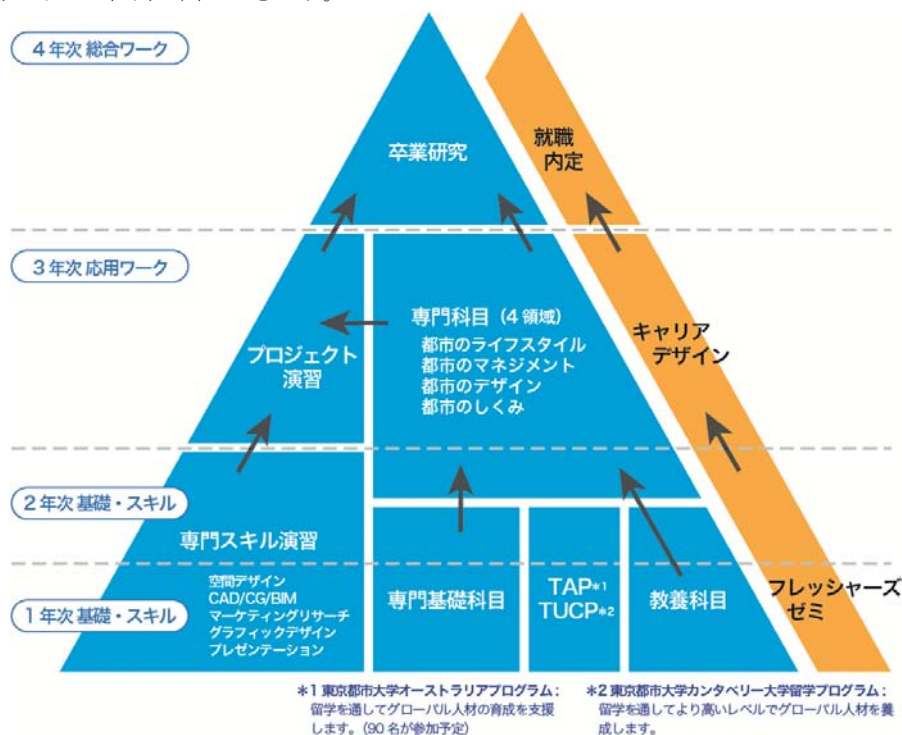
工学・芸術（技術、意匠造形）双方の方法論として「グラフィックデザイン演習」、「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、でデザインのスキルを身に付けます。

都市生活学部では、社会系の方法論を基盤に工学・芸術系の方法論を活用するという複合的な教育体系の中で学習していくことから、さまざまな資格への挑戦が可能となります。その中で、特に建築デザイン分野は、工学部の建築学科と専門的に一部、近い関係となります。建築学科では建築空間を対象に工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を基盤に据えつつ社会（生活者、市場など）の方法論を活用していく立場となるのに対して、都市生活学部都市生活学科では、都市における空間のみならず商品・サービスをも対象として商学・経営学にベースをおき、社会（生活者、市場など）に対する方法論を基盤に据えつつ、工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を活用して、「都市文化のクリエイター」、「街づくりのプロデューサー」、「住環境・商環境のデザイナー」になれる素養を有した人材を育てていきます。

これらの点から、都市生活学部卒業生は建築学科と異なり、全員がものづくりに携わるのではなく、営業、開発、事務をはじめ多岐の業務に携わります。そのため、スキルの教育に当たっては「ものづくり」教育よりも「理解する」教育を主眼としています。当学部卒業生が実社会で活躍する場合、幅広く商品・サービスの企画開発と事業展開を行っていくためには、都市建築系やデザイン系の専門家、行政、住民との協同作業が頻繁にあることが予想されますが、その際、協同作業者に自分の企画内容を的確に伝えて技術的、意匠的に深めてもらうためには、最低限必要なスキルと知識を習得することが必要となり、そのため、ものづくりを「理解する」力を養うためのスキル教育を用意しています。

5. カリキュラムの特徴

都市生活学部は、1～2年次を中心に教養科目や専門の基礎となる科目を学んだのち、2～3年次を中心に4領域の専門科目で知識を深めていきます。それと併行して、1～2年次で専門スキルを演習形式で身に付け、3年次のプロジェクト演習や4年次の卒業研究で学んできた専門知識と結び付けて応用展開し、個人毎の専門能力を育成します。一方、大学生活やキャリア形成を行うため、少人数クラス制のフレッシュャーズゼミ、キャリアデザインによって個人単位でのきめ細かい指導を行い、進路の適切な選択、決定へと導きます。こうした専門能力の育成と進路選択という二筋の教育によって実践力のある人材となって社会に出ていきます。



1) 4つの専門領域の科目と進路

専門科目を「都市のライフスタイル」「都市のマネジメント」「都市のデザイン」「都市のしくみ」の4領域に分類し、将来の進路に適切な科目を選択できるようにしています。コースや専攻とは異なり、科目群を横断しての選択ができますので、興味や関心に応じた学習を行い、異なった進路を目指すことが出来ます。

【専門領域1 都市のライフスタイル】

- ①専門科目：人々の創造性を刺激し、生活を楽しくしてくれる都市の文化を企画・実施する能力の涵養
都市の社会学，経営戦略論，エリアマーケティング，都市の財政学，集客観光学，広告コミュニケーション，ブランド戦略，集客学
- ②将来の進路：都市文化のクリエイターの育成
商品開発クリエイター（流通，メーカー），文化・芸術イベントのプロデューサー，広告プランナー（広告代理店），編集者（出版社），トラベルコーディネーター（旅行業，航空，鉄道），インターネット開発クリエイター など

【専門領域2 都市のマネジメント】

- ①専門科目：美しく暮らしやすい都市の空間を企画・開発・運営する能力の涵養
プロジェクトマネジメント，住宅と不動産，都市空間の演出，都市開発プロジェクト，不動産ビジネス，商環境とホテルの企画，エリアマネジメント，コミュニティマネジメント
- ②将来の進路：街づくりのプロデューサーの育成
都市開発プロデューサー（デベロッパー），都市プランナー，まちづくりコンサルタント，不動産ビジネスマン（不動産会社），資産投資マネージャー（金融），公務員（街づくり担当） など

【専門領域3 都市のデザイン】

- ①専門科目：社会ニーズに合った環境に優しい、安全で快適な住環境や商環境をデザインする能力の涵養
都市デザイン、建築空間論、ランドスケープデザイン、都市の環境、インテリアデザインと実務、建築史、住宅計画、リノベーションとコンバージョン
- ②将来の進路：建築士・住環境や商環境デザイナーの育成
建築士（設計事務所・建設会社）、住宅・商業関連商品開発クリエイター（メーカー）、住宅デザイナー・営業（ハウスメーカー）、インテリアデザイナー・コーディネーター、建築家、建築コンサルタント など

【専門領域4 都市のしくみ】

- ①専門科目：都市をシステムと捉え、機能的な活動と快適な生活環境を支えるための知的能力の涵養
都市政策、都市と交通、ユニバーサルデザイン、都市の開発と経済、住まいの構法・生産・流通、まちの防災、住まいと環境、都市計画(2)
- ②将来の進路：都市社会の制度設計者、都市自治体を経営する公務員、公益事業の企画経営者の育成
国家公務員、地方公務員、中央・地方の独立行政法人職員、公益法人職員、建設コンサルタント、建設会社員、鉄道会社・バス会社社員、電力・ガス・通信事業会社社員、ソーシャルビジネスの起業家など

2) 3・4年次のプロジェクト経験

3年次での「プロジェクト演習」は、専門科目で学んだ知識と演習で身に付けた専門スキルを結びつけ、応用展開するものです。4年次の「卒業研究」ではそれをさらに深化させ、4年間の学習の総仕上げを行います。

プロジェクト演習と卒業研究では、それぞれ専門分野毎の研究室に所属し、実際の都市プロジェクトに参画したり、具体的な研究テーマをもとに深く都市を研究する貴重な経験を積むことができます。

3) 少人数クラスのベストケア

10～15名程度の学生を教員1名が担当するクラス担任制を導入しています。学習をはじめ、大学生活全般にわたる個人指導を行います。1年次でのフレッシュャーズゼミ、2・3年次でのキャリアデザインなど、大学生活の始動や進路探索、就職支援に関するプログラムを用意して、学生一人ひとりの興味や能力を把握した上での指導を行ないます。

クラス配属は、1年次～3年次前期は入学時に学籍番号を基準として行い、3年次後期～4年次においては研究内容や進路希望の申請をもとに定員を配慮して研究室ごとに振り分けを行ないます。

- ①大学生活始動：フレッシュャーズゼミ（1年次）
 - キャンパスプランの作成
 - 専門教育のための基礎的能力育成
- ②進路探索：キャリアデザイン（2年次後期～3年次後期）
 - 進路選択指導
 - インターンシップ指導
- ③就職支援：ゼミでの個人指導（3年次後期～4年次）
 - エントリー指導
 - 面接指導
 - 就職活動カルテによる指導

4) 情報化社会のビジネススキル

ノートPC必携で基礎から応用まで、情報化社会に不可欠なICTスキルを身に付けて社会に出て行きます。入学時にノートパソコンを購入し、まずコンピュータの基礎スキルを修得します。そして、「空間を創造できる能力」、「コンピュータでデザインする能力」、「情報の収集・分析能力」といった3種類のスキルを習得するため、1・2年次に「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、「マーケティングリサーチ演習」の各科目を配置します。さらに、2年次では「プレゼンテーション」の授業で、社会では不可欠なプレゼンテーション能力を養います。

5) 街における実体験学習

①街観察のフィールドワーク

都市を学ぶ上で、「実物」を観察することが何より大切です。自由が丘や代官山、渋谷など、キャンパスの近くにある人気の街を学びの舞台にして、景観や建築デザイン、環境、ファッションなどの調査を行います。

②海外研修

希望者を対象に、世界の都市を視察し、フィールドサーベイを行う海外研修を予定しています。海外の複数の都市を自分の目で観察し、視野を広げるのが目的で、これまでの実績は以下の通りです。

・「世界の都市」研修—ヨーロッパ編

研修先：イタリア・フランス・イギリス

実施年：H22.03, H23.03, H24.03, H25.03, H26.03, H27.03, H29.03, H30.03, H31.02～03

・「世界の都市」研修—中国編 [中国都市開発ビジネスインターンシップ]

研修先：上海

実施年：H23.09

・「世界の都市」研修—アジア編

研修先：シンガポール・ベトナム

実施年：H26.02, H27.02, H28.02

③東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)

オーストラリア、西豪州パースのエディスコワン大学 (ECU) または、マードック大学 (MU) に短期留学しています。

都市生活学部においては、サイクル A (2 月～6 月まで, H31 より 2 月～5 月まで) での実施となります

短期留学先：エディスコワン大学 (ECU) または、マードック大学 (MU)

実施年：H28.2～6, H29.2～6, H30.2～6, H31.2～5

④東京都市大学カンタベリー大学留学プログラム (TCUP)

TE0IC600 点以上の英語力をもつ学生については、ニュージーランドのカンタベリー大学への短期留学プログラム (TCUP) への支援をとおして、より高いレベルでの学生のトップアップも図っていきます。

⑤その他

特別プログラムとして、以下の実体験を行ったこともありました。

・「東北地方ボランティア活動と復興視察プログラム」

研修先：石巻市・女川町・南三陸町など

実施年：H23.09

H31 都市生活学部 都市生活学科 教育課程表 1

○印必修 △選択必修

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
001	人文学系	哲学(1) G	2	2							他キャンパス開講	00-111	
002		哲学(2) G	2		2						他キャンパス開講	00-112	
003		倫理学(1)	2	2							他キャンパス開講	00-113	
004		倫理学(2)	2		2						他キャンパス開講	00-114	
005		倫理学	2		2						他キャンパス開講	00-115	
006		文化人類学	2		2						他キャンパス開講	00-116	
007		視覚芸術史(1) G	2	2							他キャンパス開講	00-117	
008		視覚芸術史(2) G	2		2						他キャンパス開講	00-118	
009		デザイン概論(1) G	2			2					他キャンパス開講	00-211	
010		デザイン概論(2) G	2				2				他キャンパス開講	00-212	
011		日本文学 G	2			2					木内英実	00-213	
012		日本史(1) G	2	2							他キャンパス開講	00-11F	
013		日本史(2) G	2		2						他キャンパス開講	00-11G	
014		西洋史(1) G	2	2							他キャンパス開講	00-11A	
015		西洋史(2) G	2		2						他キャンパス開講	00-11B	
016		民俗学 G	2		2						他キャンパス開講	00-11C	
017		宗教学 G	2	2							他キャンパス開講	00-11E	
018	社会科学系	社会学(1)	2	2							塚田修一	00-121	
019		社会学(2)	2		2						塚田修一	00-122	
020		社会学入門	2	2							他キャンパス開講	00-123	
021		経済学(1)	2	2							伊藤潤平	00-124	
022		経済学(2)	2		2						伊藤潤平	00-125	
023		日本経済論 G	2					2			他キャンパス開講	00-321	
024		政治学(1)	2	2							他キャンパス開講	00-126	
025		政治学(2)	2		2						他キャンパス開講	00-127	
026		日本の政治 G	2			2					他キャンパス開講	00-221	
027		国際関係論(1) G	2	2							宮下大夢	00-128	
028		国際関係論(2) G	2		2						宮下大夢	00-129	
029		日本国憲法	2	2	(2)						他キャンパス開講	00-12A	
030		民法	2		2						他キャンパス開講	00-12C	
031		法学	2	2							他キャンパス開講	00-12B	
032		西洋経済史 G	2	(2)	2						他キャンパス開講	00-12E	
033		人文地理学	2	2							他キャンパス開講	00-12F	
034		現代中国論 G	2		2						他キャンパス開講	00-12G	
035	人間科学系	教育学(1)	2	2							他キャンパス開講	00-131	
036		教育学(2)	2		2						他キャンパス開講	00-132	
037		スポーツ・健康論	2	2	(2)						他キャンパス開講	00-133	
038		心理学(1)	2	2							他キャンパス開講	00-136	
039		心理学(2)	2		2						他キャンパス開講	00-137	
040		心理学概論	2	2							森山徹	00-138	
041		心理学入門	2	2							他キャンパス開講	00-139	
042		社会とジェンダー	2		2						他キャンパス開講	00-13A	
043		国際化と異文化理解 G	2						2		山中美子	00-331	
044		日本文化の伝承 G	2		2						榎本宗白	00-13B	
045	自然・情報科学系	論理学(1)	2	2							他キャンパス開講	00-141	
046		論理学(2)	2		2						他キャンパス開講	00-142	
047		生活とメディア	2			2					松浦李恵	00-242	
048		公衆衛生学	2					2			早坂信哉	00-341	
049		現代の物理	2			2					他キャンパス開講	00-143	
050		科学技術と社会	2				2				他キャンパス開講	00-241	
051	その他	PBL による産学協働演習	2								他キャンパス開講	00-151	
052		ボランティア(1)	1								信太洋行	00-951	
053		ボランティア(2)	1								信太洋行	00-952	
054		教養ゼミナール(1)	2	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない。科目詳細は、シラバスを参照すること。					別指定	00-953	
055		教養ゼミナール(2)	2	2	(2)						別指定	00-954	
056		教養特別講義(1)	2	2	(2)						別指定	00-955	
057	教養特別講義(2)	2	2	(2)	別指定						00-956		

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100 分を 2 時間（1 コマ）としてカウントします。

単位数の計算もこの原則に基づいて行います（「1-2. 単位数」の項参照）。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
058	英語科目 (スキル)	Communication Skills(1)	○	1	2							グレコ, 中村, 小谷	02-111
059		Communication Skills(2)	○	1		2						グレコ, 中村, 小谷	02-113
060		Reading and Writing(1)	○	1	2							小谷, 磯野, 植野	02-115
061		Reading and Writing(2)	○	1		2						小谷, 磯野, 植野	02-117
062		Basic English Training		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-211
063		Grammar(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-213
064		Grammar(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-215
065		Test Taking Skills(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-217
066		Test Taking Skills(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-219
067		Test Taking Skills(3)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-311
068		Critical Reading(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21B
069		Critical Reading(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21D
070		Critical Reading(3)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-313
071		Critical Listening(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21F
072		Critical Listening(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21H
073		Critical Listening(3)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-315
074		Communication Strategies(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21J
075		Communication Strategies(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21L
076		Communication Strategies(3)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-317
077		Academic English(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21N
078		Academic English(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-21P
079		Academic English(3)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-319
080	英語科目 (教養)	Literature in English(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-221
081		Literature in English(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-223
082		Global Culture(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-225
083		Global Culture(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-227
084		Language Sciences(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-229
085		Language Sciences(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-22B
086		Global Society(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-22D
087		Global Society(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-22F
088	共通	海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)						他キャンパス開講	02-931
089		外国語特別講義		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-932
090	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-241
091		ドイツ語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-243
092		フランス語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-245
093		フランス語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-247
094		スペイン語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-249
095		スペイン語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24B
096		イタリア語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24D
097		イタリア語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24F
098		中国語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24H
099		中国語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24J
100		アラビア語(1)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24L
101		アラビア語(2)		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24N
102	韓国語(1)		2			2	(2)				長渡陽一	02-24P	
103	韓国語(2)		2			2	(2)				長渡陽一	02-24R	
104	日本語表現		2			2	(2)				他キャンパス開講	02-24T	
105	体育科目	基礎体育(1)		1	2							他キャンパス開講	01-111
106		基礎体育(2)		1		2						他キャンパス開講	01-112
107		応用体育(1) *集中授業あり		1			*2	(*2)				他キャンパス開講	01-211
108		応用体育(2) *集中授業あり		1			*2	(*2)				他キャンパス開講	01-212

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付しています。

H31 都市生活学部 都市生活学科 教育課程表 2

○印必修 △選択必修

区 分	科目 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
109	基幹科目	マーケティング概論	○	2	2							北見幸一	41-111	
110		経営学概論	○	2	2							橋本倫明	41-112	
111		都市計画(1)	○	2	2							明石達生, 末繁雄一	41-113	
112		都市の経済学	○	2		2						橋本倫明, 林和眞	41-114	
113	基礎共通科目	世界の住まい	△	2	2							三井所清史	41-115	
114		都市の文化・芸術	△	2			2					茅原佳乃, 宮崎俊哉	41-116	
115		世界の都市	△	2		2						川口和, 山根, 川口英, 末繁	41-117	
116		民法と商法	△	2					2			高橋明弘	41-118	
117		会計学概論	△	2				2				永江総宜	41-119	
118		経営財務	△	2					2			永江総宜	41-11A	
119		統計と分析	△	2						2		林和眞	41-11B	
120	専門基礎科目	コンピュータ演習	○	2	2							橋本, 諫川, 諫訪, 武田	41-121	
121		グラフィックデザイン演習	○	2	2							諫川, 田久保, 斉藤恵, 末繁	41-122	
122		まちの観察	○	2			2					末繁雄一	41-123	
123		プレゼンテーション	△	2			2					坂井文, 北見幸一	41-124	
124		空間デザイン演習(1)	○	3	4							中島, 基, 伊藤, 押尾, 添田	41-125	
125		空間デザイン演習(2)	△	2		2						川口英, 高柳, 中島, 押尾, 佐々木, 基	41-126	
126		空間デザイン演習(3)	△	2		2						川口英, 高柳, 中島, 押尾, 佐々木, 基	41-127	
127		空間デザイン演習(4)	△	2			2					川口英俊, 未定	41-128	
128		都市デジタルシミュレーション(1)	○	2		2						末繁, 齊藤圭, 諫川, 山川, 木原	41-129	
129		都市デジタルシミュレーション(2)	△	2				2				高柳, 信太, 齊藤圭, 末繁, 木原	41-12A	
130		都市デジタルシミュレーション(3)	△	2				2				高柳, 信太, 齊藤圭, 末繁, 木原	41-12B	
131		マーケティングリサーチ演習(1)	○	2		2						西山, 北見, 坂倉,, 林, 橋本	41-12C	
132		マーケティングリサーチ演習(2)	△	2				2				坂倉, 永江, 西山, 林, 花上	41-12D	
133		マーケティングリサーチ演習(3)	△	2				2				坂倉, 永江, 西山, 林, 花上	41-12E	
134	専門科目	都市の社会学	△	2		2						坂倉杏介	41-231	
135		経営戦略論	△	2					2			橋本倫明	41-331	
136		エリアマーケティング		2				2				林和眞	41-232	
137		都市の財政学		2			2					大島誠	41-233	
138		集客観光学		2						2		田邊文彦	41-332	
139		広告コミュニケーション		2						2		京井良彦	41-333	
140		ブランド戦略		2						2		北見幸一	41-334	
141		集客学		2				2				川口和英	41-234	
142		都市のマネジメント	プロジェクトマネジメント	△	2					2			山根格	41-341
143			住宅と不動産		2			2					宇都正哲	41-241
144			都市空間の演出		2				2				山根格	41-242
145			都市開発プロジェクト		2						2		沖浦文彦, 江尻裕一	41-342
146			不動産ビジネス		2			2					宇都正哲	41-243
147			商環境とホテルの企画		2					2			山根格	41-343
148	エリアマネジメント		△	2				2				坂井文	41-244	
149	コミュニティマネジメント			2			2					坂倉杏介	41-245	
150	都市のデザイン	都市デザイン	△	2		2						川口英俊	41-251	
151		建築空間論	△	2					2			中島伸	41-351	
152		ランドスケープデザイン		2					2			坂井文	41-352	
153		都市の環境		2						2		齊藤圭	41-353	
154		インテリアデザインと実務		2			2					高柳英明	41-252	
155		建築史		2			2					岩谷洋子	41-253	
156		住宅計画		2						2		佐々木龍郎	41-354	
157		リノベーションとコンバージョン		2					2			吉村淳	41-355	

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントします。

単位数の計算もこの原則に基づいて行います（「1-2.単位数」の項参照）。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成31年度現在)	科目 ナンバ リング
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	都市のしくみ	都市政策	△	2		2						明石達生	41-261
		都市と交通		2				2				明石、西山、諫川	41-361
		ユニバーサルデザイン	△	2				2				西山敏樹	41-262
		都市の開発と経済		2			2					未定	41-263
		住まいの構法・生産・流通		2				2				信太洋行	41-264
		まちの防災		2			2					諫川輝之	41-265
		住まいと環境		2				2				齊藤圭	41-266
		都市計画(2)		2					2			明石達生	41-362
		建築士対応科目	建築法規		2				2				信太洋行
	建築材料			2				2				信太洋行	41-272
	建築構造			2						2		下久保亘	41-371
	構造力学(1)及び演習			3					4			遠藤龍司	41-372
	構造力学(2)及び演習			3						4		遠藤龍司	41-373
	鉄筋コンクリート構造			2						2		遠藤龍司	41-374
	環境と設備			2					2			木原己人	41-375
	総合領域1	フレッシュヤーズゼミ	○	1	1	1						諫川輝之 他	41-281
		キャリアデザイン(1)	○	1				2				永江総宜、北見幸一	41-282
		キャリアデザイン(2)	○	1					2			永江総宜、北見幸一	41-381
		キャリアデザイン(3)	○	1						2		信太洋行、宇都正哲	41-382
		プロジェクト演習(1)	○	2					4			橋本倫明 他	41-383
		プロジェクト演習(2)	○	2						4		橋本倫明 他	41-384
		総合領域2	海外研修(1)		2								末繁雄一
	海外研修(2)			1								山根格	41-582
	インターンシップ(1)			1								信太洋行	41-583
インターンシップ(2)			1								信太洋行	41-584	
卒業研究(1)	○		3							6	(6)	山根格 他	41-481
卒業研究(2)	○		3							(6)	6	山根格 他	41-482
まちづくり演習(1)			2									各教員	41-585
まちづくり演習(2)			1									各教員	41-586
まちづくり演習(3)			1									各教員	41-587
特別講義(1)			2									山根格	41-588
特別講義(2)			2									諫川輝之	41-589
特別講義(3)			2									各教員	41-58A

注 卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合 計	1 2 4 単位	以下を含むこと	
教養科目	1 0 単位		
外国語科目	8 単位	右記を含むこと	○必修 4 単位
専門基礎科目	3 7 単位	右記を含むこと	○必修 2 1 単位 △選択必修 1 6 単位 (演習領域 8 単位を含む)
専門科目	5 4 単位	右記を含むこと	○必修 1 4 単位 △選択必修 1 0 単位

科目ナンバリング： YY-LMD

YY:科目区分 41:都市生活学科 専門科目				
L:レベル	1:基礎	2:応用	3:発展	4:卒業研究 5:その他
M:科目群	1:専門基礎科目	2:演習科目	3:都市のライフスタイル	4:都市のマネジメント 5:都市のデザイン
	6:都市のしくみ	7:建築士対応科目	8:総合領域	
D:識別番号				

履修要綱

履修要綱は、本学の学則第5章及び第8章に基づき定められたものです。学生諸君はこの要綱を精読し、記載された内容とルールに従って授業を履修してください。

1. 単位

1-1. 単位制度

本学の教育課程は「単位制度」に基づいて編成されています。この単位制度は学修の基本ですので、各自が十分に理解する必要があります。「単位」は履修した科目の学力が一定レベルに達したと認められた場合に与えられるものです。そのためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、予習、復習、宿題などの「自学自習」を必要とします。

大学の授業は講義、演習、実験、実習及び実技等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、学則第18条の基準に従い、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合せて45時間として計算されます。本学では講義および演習については、2時間の授業に対して、4時間の自学自習を行わせることを基準にしています。

なお、本学都市生活学部を卒業するためには、4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければなりません。

1-2. 単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なりますから、週1時限（2時間）の授業に対して与えられる単位数は次の通りです。（学則第18条参照）

(1) 講義・演習

① 2時間の授業、4時間の自学自習、週1回半期15週では、

$(2 + 4) \times 15 = 90$ 時間 $90 \div 45 = 2$ 単位

② 通年30週の場合：**4単位**

(2) 実験・実習・製図・実技

① 2時間の授業、1時間の自学自習、週1回半期15週では、

$(2 + 1) \times 15 = 45$ 時間 $45 \div 45 = 1$ 単位

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数増加してあります。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果がある場合、この期間を変更する場合があります。科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合がありますが、詳細は授業時間表で確認してください。

1-3. 単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験（中間試験その他の評価を含む）によりその成果を判定した上で単位を与えます。この場合の履修とは単位制度に基づくもので、所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければなりません。

なお、履修したが合格点に達せず単位を与えられなかった科目のうち、単位の修得が義務づけられた科目（必修科目）は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければなりません。

1-4. 標準履修の目安

学生諸君は、4年次においてはその1/2～2/3の時間が卒業研究に費やされますから、3年次末までには115程度の単位を修得することが望めます。そのための目安として、**1日に2科目以上を履修**し、それらが合格すれば、標準の単位数を修得することができます。

2. 授業科目

2-1. 科目の区分

授業科目はその内容により、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門基礎科目」「専門科目」に区分されています。それぞれに属する各授業科目については、別ページに掲げる「教育課程表」にすべて記載されているので同表を参照してください。

2-2. 科目の種類

授業科目は必修科目、選択必修科目、および選択科目に分かれます。その定義は次の通りです。

- (1) 必修科目……………必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）
- (2) 選択必修科目………学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）
- (3) 選択科目……………自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお、科目の選択は各自の履修上特に慎重な配慮を要するので、選択にあたっては必ず以下の＜3. 履修心得＞の項を参照してください。

3. 履修心得（卒業要件と履修登録上の心得）

3-1. 卒業の要件

本学を卒業するためには4年以上在学して、次の表に従いそれぞれの区分の単位を修得する必要があります。

なお、この表は各自の履修の基準になるので、必ず学年始毎に参照し確認するようにしてください。

区 分	卒 業 要 件 (必要最少単位数)
教養科目	10単位
外国語科目	8単位
専門基礎科目	37単位
専門科目	54単位
小 計	109単位
自由選択※ (体育科目を含む)	15単位
合 計	124単位以上

必修科目（○印）4単位を含む。

必修科目（○印）21単位、選択必修科目（△印）から16単位を含む。

（うち演習領域8単位）を含む。

必修科目（○印）14単位、選択必修科目（△印）から10単位

※自由選択として、各区分の卒業要件を超える分を合算して15単位以上修得しなければならない。「体育科目」は自由選択に含める。

3-2. 履修科目区分

以下は履修上の科目区分の一覧で、それぞれ必要最少修得単位数が決められています。これに従って履修計画を立ててください。

- (1) **教養科目：** 必要最少単位数は**10単位**です。この中には、「教養ゼミナール」「教養特別講義」をそれぞれ4単位まで算入できます。
 なお、それぞれ4単位を超えると、卒業要件に算入できない修得単位（卒業要件非加算の特別履修）となります。
 また、等々力キャンパスで開講する科目のほか、世田谷キャンパスで開講する科目もありますので、よく確認してください。
- (2) **外国語科目：** 必要最少単位数は**8単位**です。このうち、外国語科目**4単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。また、選択科目として、必修科目以外の英語科目（スキル）、英語科目（教養）、共通科目、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、中国語、アラビア語、韓国語、日本語表現の中から4単位を修得することで、必要最小単位数を充たすことになります。

- (3) **専門基礎科目**： 必要最少単位数は**37単位**です。このうち、**21単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。また、選択必修科目として**16単位**（うち演習領域8単位）を修得しなければなりません。
- (4) **専門科目**： 必要最少単位数は**54単位**です。このうち、**14単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。また、選択必修科目として**10単位**を修得しなければなりません。
- (5) **自由選択**： 上記4区分の必要最少単位数の小計は109単位となりますが、卒業要件を充たすには、各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して15単位以上修得しなければならず、この**15単位**分を「自由選択」とします。これにより、卒業要件は**合計124単位**となります。
- (6) **体育科目**： 「体育科目」区分として履修した単位数は、「自由選択」に含めます。なお、この科目は世田谷キャンパスで開講されます。

3-3. 履修方針の作成

- (1) 学期の始めに当り、「教授要目」を熟読するとともに入学した年度の教育課程表を充分理解した上で、各自一年間の履修方針を策定してください。
- (2) 当該年度に組まれている授業時間表に従い、必修科目、選択必修科目、選択科目の順に、履修方針に基づき選択した上で、学部履修申告をしなければなりません。
- (3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度の下では、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することは困難です。従って、科目選択に当たっては、クラス担任教員等の助言を受け、無理のないように適切に選択することが必要です。
- (4) 所属学年に組まれている授業科目は、できるだけその学年で修得するよう努力すべきです。次の年度で再履修しようとしても、他の授業時間や試験時間と重複して履修できない場合があります。また、学年進行に伴うカリキュラム変更等により、当該年度の開講をもって廃止となる場合や新規に開講する科目に振替える場合がありますので、各自キャンパス内掲示板やポータルサイト等で十分に確認、注意をしてください。

3-4. 履修登録の流れ

「履修登録」とは、その学期に履修する科目を登録することです。登録手続きはWEB上から指示された期日までに必ず行うことが必要です。この手続きを経ない科目は、受講の上試験に合格しても単位は与えられません。以下は、履修申告に関する各学期の流れです。

(1) 履修科目の選択・調整期間

学期開始から履修登録までに1～2週間の期間があります。この時間を活用し、前項に従い自分の履修科目を選択し確定します。その際、「学修要覧」「教授要目」等を参考にし、実際に授業を体験するなど十分検討してください。なお、この期間に履修者を調整する科目もあります。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので、1週目の授業は特に重要ですから必ず出席してください。

(2) 履修科目の登録

履修登録はWEB上から行います。なお、登録期間後の履修科目の追加はできません。また、本人の不注意による履修登録の誤りは、すべて自己の責任となりますので、特に慎重な注意が必要です。

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合には、WEB上での登録ではなく、別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）によって提出します。科目によっては、担当者の許可印を必要とする場合があります。

なお、必修科目も自動的にその履修が登録されるようなことはありません。すべての科目は所定の手続きにより各自が登録を行う必要があるので十分注意してください。

(3) 履修登録の確認

履修登録の1～2週間後、履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けています。

(4) クォーター開講科目の履修登録

科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合がありますが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要がありますので注意してください。

(5) 大学院先行履修制度

本大学では、学部在学中に、大学院修士課程の授業科目を先行履修することができます。（ただし在学年次、受講資格等制限があります）。

なお、本大学院に進学後、各研究科各専攻において、修得した単位を「10単位」を超えない範囲で認定することができます。申請手続等詳細については、事務局で確認してください。

3-5. 習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては、入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合があります。詳細は、別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照してください。

3-6. 履修登録単位数の制限

1学期あたりの履修登録単位数は**24単位を上限**とします。

なお、通年科目については、単位数に1/2を乗じた値を1学期分の単位数とします。

3-7. 履修登録上の注意事項**(1) 履修登録方法**

履修登録は、WEB上から行います。他学部、他大学などの科目を履修する場合は、WEB上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要です（前項参照）。詳しくは、事務局に照会してください。

(2) 再履修とは

過去に不合格になった科目を、再度履修する場合の履修を「再履修」として取り扱います。

(3) 合格科目の再履修

既に合格（単位修得）した科目を再度履修することはできません。（すなわち、一度履修して合格した科目の成績評価の変更はできません。）

(4) 高学年配当科目の履修

自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できません。

(5) 履修者指定のある科目

科目によっては、所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合があります。また、授業開始前の希望者事前審査や、授業開始時の出席状況により、受講者指定や履修者の人数制限をする科目もあります。

(6) 2年次以降の履修登録注意事項

2年次以降に履修登録する際には、以下の事項に注意してください。

- ・履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録する。
- ・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修する。

(7) 他学部・他大学の科目の履修について

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合については、WEB上での登録ではなく別途申請が必要となります。詳細は「13. 他学部・他大学の科目の履修」を参照してください。

4. 履修心得（科目履修上の心得）**4-1. 出席の定義**

「出席」とは、授業の開始時間から終了時間まで受講していることであり、それ以外は、原則として「出席」と認められません。欠席はもちろんのこと、どんなやむをえない事情の遅刻や早退も、授業を受講していない以上は「出席」にはならないということです。

(1) 欠席

事務局には「欠席届」(短日の欠席により授業科目ごとに提示する書式と、インフルエンザなど長期欠席の際にまとめて提示する書式があります)や「課外活動の公式[試合・行事]参加証明書」という書類がありますが、これらは授業に「欠席」したことの理由を明示する書類に過ぎません。

欠席の際に提出を義務づけられているものではありませんし、このような書類を提出したことによって、「出席」扱いになるわけでもありません。

ただし、当該担当教員が欠席理由を鑑みた上で、当該授業科目の学修目標を達成するための自主的課題を指示するなどの配慮がされることがあります。これらの措置は担当教員の裁量に委ねられます。

(2) 遅刻・早退

授業の開始時間から終了時間まで受講していないものは「出席」とは認められません。担当教員によっては「遅刻」や「早退」などの記録をとる場合がありますが、「出席」扱いにするためのものではありません。その取扱いは担当教員に確認して下さい。

なお、20分以上の遅刻・早退、および入退室等の時間が明確に確認できない場合は欠席として扱われます。

4-2. 出席管理

等々力キャンパスで開講する科目については、出席管理の方法として、学生証のICカード機能を利用した「出席管理システム」を利用しています。各自でリーダーが読み取ったことを必ず確認してください。

この他、重複して出席カードの利用、呼び上げ確認を行うなど、出席確認の方法は担当教員の裁量に委ねられています。学生は、科目ごと、担当教員からの指示による方法で、出席の確認を受けてください。

なお、代返等是不正行為であり、処分の対象となります。

4-3. 出席に関する各種対応

前述までの基本的なルールを前提に、「出席」のルールは担当教員の裁量に委ねられる部分もあります。また、出席に関する具体的な対応についてまとめました。

(1) 対象となる科目

この書面に記された「出席」に関するルールと取り扱いは、都市生活学部の学生が、都市生活学部で開講する科目を受講する際において適用されます。

(2) 学生証を紛失して、出席管理システムに登録できない場合

学生は、学生証携帯の義務があり、学生証がないと本来は受講そのものができません。したがって学生証紛失の場合は、自己責任により、当該科目の出席は登録されないことになります。

ただし、緊急的な措置として「(3)学生証を忘れた場合」により、緊急対応をすることが可能です。

なお、学生証の再発行は、事務局で所定の手続き(有料:3000円)を行えば、交付されます。

お渡し日については、別途事務局にて確認してください。

(3) 学生証を忘れた場合

学生は、学生証携帯の義務があり、学生証がないと本来は受講そのものができません。したがって学生証不携帯の場合は、自己責任により、当該科目の出席は登録されないことになります。

ただし、緊急的な措置として、事務局で発行する「受験(受講)のための証明書(1通200円)」を、学生証の代替措置とすることを認めます。1日に1枚の証明書が必要です。

交付手続きには5分ほどかかりますので、余裕をもって手配してください。

また、担当教員に提示した時間が出席登録の時間になります。授業終了時に提示した場合は既に無効になるわけですから十分に注意してください。

(4) 電車が遅れて遅刻したことによる「遅延証明書」

通学電車等の日常的な遅延には特に注意し、普段から余裕をもった生活行動をとるように心がけてください。

したがって、原則として「遅延証明書」は無効であり、提出する必要はありません。

ただし、ストライキ等による全面運休や事故等による長時間にわたる遅延で、20分以上の遅刻により「欠席」になる場合は、「欠席届」に「遅延証明書」を添付しても構いません。あくまでも欠席であることには変わりありませんが、担当教員により、自主的課題の指示などがあれば従ってください。

4-4. 授業に関連する伝達事項

授業に関連して、担当教員から受講学生に伝達事項がある場合、以下の方法があります。科目ごとに運用が異なりますので、授業中の指示に注意するほか、日常的に各伝達方法を確認するようにしてください。

なお、最も主たる伝達方法は掲示（学内の掲示板・電子掲示板）としています。

(1) 掲示板

学内の掲示板・電子掲示板は、最も主たる伝達方法となりますので日常的に確認してください。

(2) WEB

WEB上の「ポータルサイト」における「お知らせ」や、「授業支援システム」における「WEB掲示板」に伝達事項を掲載することがあります。

(3) 電子メール

特に個人別の伝達事項の場合は、大学から学生に付与された「g（学生番号）@tcu.ac.jp」に限り連絡します。携帯の電子メールアドレスは対象外となります。

4-5. 課題提出

授業では適宜、課題提出を求める場合があります。提出方法として、WEB上の「授業支援システム」や、電子メール（添付ファイル）等を利用する場合がありますので指示に従ってください。

(1) 授業時間内提出・提出ポスト

授業時間内に課題提出をする場合や、研究室や事務局の課題提出ポストへ提出するよう指示する場合があります。

(2) WEB

WEB上の「授業支援システム」から課題提出を指示する場合があります。

(3) 電子メール

電子メールからの課題提出は、大学から学生に付与された「g（学生番号）@tcu.ac.jp」のアドレスを利用してください。それ以外のアドレスについて、特に携帯電話からのメールなどは提出者情報の確認ができず、提出や連絡が認められない場合があります。

5. 授業時間

各時限の授業時間は次の通りです。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

6. 休講措置

学校行事や、担当教員の都合などにより授業を休講とする場合があります。その場合は補講措置、代行措置を含め、事前に掲示板等にて連絡します。

なお、休講の掲示やその他特段に指示がなく、授業開始時間から30分以上遅れても授業が行われない場合は、休講の扱いとします。

7. ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置

7-1. 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止した場合

以下の状況に応じて段階的な措置をとります。

1	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

7-2. 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止しない場合

JR東日本やその他の電車がストライキ等により運行を停止しても、授業は平常どおり行います。

7-3. 台風による暴風警報が発表された場合

東京地方（23区西部、23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合、以下の状況に応じて段階的な措置をとります。

1	午前6時までに暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前6時から午前9時までの間に暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時以降に暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお、暴風警報が発表されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することが想定されます。状況に応じて休講の措置をとることもあるので、大学発表の情報を必ず確認してください。また、授業開始以後に暴風警報が発表された場合は、学内放送等で授業措置の情報を発信します。

7-4. その他

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

そのような場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自で確認してください。

8. 科目試験

8-1. 試験の内容

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」があります。また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定しています。

なお、担当教員により、これらの指定期間とは別に、授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他、中間試験その他を行うことがあります。また、レポート、論文等をもって試験に替える場合もあります。

受験に際しては次の事項に留意してください。

- (1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示します（その際に受験についての注意事項を併せて掲示します）。
- (2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできません。たとえ受験しても無効とします。
 - a. 科目の履修登録をしていない者
 - b. 学生証を所持しない者
 - c. 試験開始後20分以上遅刻した者
- (3) 受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければなりません。
- (4) 試験当日学生証の携帯をしていない者は、事務局の証明書自動発行機より「受験（受講）のための証明書」を発行し、机上に置いてください。

- (5) 試験開始後 30 分以内の退場は許可しません。
- (6) 病気・負傷、登校途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて事務局に提出しなければなりません。その場合に限り、再試験を受けることができます。

8-2. 定期試験の試験時間

定期試験の試験時間は以下の通りです。なお、各時限 60 分を原則としており、平常の授業時間（100 分）と異なるので注意してください。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

8-3. 試験の際に不正を行った者に対する処分

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（0 点）にします」とともに、「10 日以上停学または退学」とします。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱います。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入します。
- (3) 処分の内容は決定後公示します。
- (4) 停学の執行開始は、処分を決定した日の翌日からとします。

注 1：下記のような場合を不正行為と断定します。

- (a) 代人に受験させた場合
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合
- (c) 問題配布後で試験開始の合図がある前、および試験終了後に鉛筆などの筆記用具を手を持っている場合
- (d) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を参照したと認められる場合
- (e) 他人の答案を見たとして認められる場合
- (f) 他人に自己の答案を見せたとして認められる場合
- (g) 言語、動作をもって互いに連絡した場合
- (h) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借した場合
- (i) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為（例えばメモ、ノートを机の上においている場合や所持している場合等）を行った場合
- (j) 携帯電話やスマートフォンなどの携帯端末を机の上に置いたり、身に着けていたりした場合

注 2：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受けます。

注 3：処分を受けると当該試験期間に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので、ほぼ確実に 1 年以上の卒業延期となります。

9. 科目成績

9-1. 成績の発表

- (1) 科目試験の結果は、8 月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と 3 月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の 2 回発表します。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとします。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、3 月に本学内に掲示します。

9-2. 成績の評価

学業成績の評価は、秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）の5段階に分け、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。

9-3. 成績順位の算定方法

成績順位は、f-GPA（ファンクショナル・グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定されます。計算式は以下の通りで、算出された評定値の大きい順に順位がつけられます。

$$\frac{\text{履修した各科目のGP} \times \text{単位数の合計}}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

※GP = (科目の得点 - 55) / 10 ただし、科目の得点が60未満の場合は、GPは0とする。

- (1) 評価値算出対象となる科目は「卒業要件対象科目」とします。(教職課程や特別履修で卒業要件非加算科目は対象外)
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とします。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、分母の履修単位数の変更はせずに、分子のGPのみ最新評価結果に替えて算出します。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めません。
- (5) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とします。分子も同じ場合には同順とします。

10. 学年末の指導

10-1. 単位修得状況による指導

- (1) **1年次前期終了時に修得単位が10単位未満**の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行います。また、**1年次終了時に修得単位が20単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行います。
なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含みません。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応します。
- (2) **2年次終了時に修得単位が40単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、生活状況や進路変更などに関する話し合いを行う他、その後についてより強い指導を行います。
なお、上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含みません。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応します。

10-2. f-GPAによる指導

各年次終了時に、f-GPAが0.3未満の者には、退学勧告を行います。

11. 卒業研究の着手条件

4年次に、各指導教員の研究室に所属して、「卒業研究」に着手（履修）するには、下記条件を満たしていることを必要とします。

この条件を満たしていない者は着手（履修）が認められず、卒業は延期されることになります。

- ① 100単位以上修得していること。
なお、卒業要件とならない科目の修得単位数は含みません。
- ② 3年以上在学していること。
なお、休学期間は在学期間を含みません。

注意：「卒業研究」は学年始めの4月からはじまります。3年終了時までには休学期間があると、それが1年未満であっても、着手は次の学年始めの4月まで延期されることになります。

12. 修業年限と卒業延期

12-1. 修業年限

本学を卒業するためには4年以上在学しなければなりません。4年を越えて在学し、なお卒業できない場合でも、在学年数は8年を超えることはできません。ただし、休学中の期間は在学期間に算入されません。

12-2. 卒業延期

4年を越えて在学する場合は、4月30日までに所定の学費を納入しなければなりません。履修登録手続きについては前年度までの方法と同じです。

なお、卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については2カ月毎に審査が行われます。その審査の結果、卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については2カ月の月末に卒業資格が認定されます。

13. 他学部・他大学の科目の履修

13-1. 特別履修

科目の5区分（3-2. 参照）に属さない、他学部（工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・人間科学部）あるいは他大学（単位互換提携をしている大学に限る）の科目を、「特別履修科目」として履修することができます。ただし、「特別履修科目」は、「卒業要件単位数」に加算される場合と、加算されない場合がありますので、事務局に確認してください。卒業要件単位数に加算される場合は、原則として「自由選択」の15単位内に含めることができます。

13-2. 他学部の科目の特別履修

他学部で開講される科目の履修については以下のとおりです。

(1) 履修の手続き

履修する場合は、「特別履修申告書」（各自ポータルサイトよりダウンロード）に必要事項を記入の上、第1週目の授業に出席し科目担当者の認印を受けてから、事務局に提出してください。履修にあたっては、事務局に備え付けの該当学部「学修要覧」、「教授要目」、「授業時間表」を参考にしてください。

(2) 履修の制限

- ・履修の可否は、他学部内の他学科で開講される科目の取り扱いに準じます。
- ・所属学年よりも上の学年の配当科目は履修できません。
- ・履修順序の指定がある科目で、前提となる科目を履修していない場合は、当該科目を履修することはできません。
- ・履修希望者数が多く、履修人数を制限する場合は、開講学部の学生が優先されます。

(3) 試験日程および成績評価

履修科目の試験日程および成績評価は、開講学部の日程および基準によります。

14. 他大学の科目の特別履修

東京理工系4大学単位互換

東京理工系4大学の交流協定に基づき、工学院大学、芝浦工業大学、東京電機大学で開講される科目のうち、単位互換可能科目を所属学科の許可を得て履修することができます。修得した科目は学則で定める最大の単位数までを卒業要件に算入できます。ただし、本学において開講している科目と同一内容の科目については、履修を許可できません。単位互換が可能な科目と履修手続は事務局で確認してください。他大学での受講については、クラス担任の指導・助言を受けてください。

履修モデル

1. 進路・職業のイメージ

将来どの分野に進むのか、どのような職業につき、どのような企業に就職するのか。進路・職業を考えて、履修科目を選択する必要があります。本学部には①都市のライフスタイル、②都市のマネジメント、③都市のデザイン、④都市のしくみの4つの領域があります。下の表は、この4分野のもとに小分類を設け、卒業後の進路・職業のイメージを示したものです。もちろん、都市生活に関する産業、職業は多様で、これら以外の進路・就職先も十分考えられますので、これに縛られる必要はありません。あくまで例示したものとして参考にしてください。

<都市のライフスタイル>

大分類	小分類（職業、職種の例）
流通・広告・メーカー関係	デパートやブランド・ショップ等の仕入・商品構成・展示・営業・管理担当、広告会社の企画・営業担当、メーカーの市場調査・営業担当、等。
文化・出版関係	文化施設（美術館、劇場、コンサートホール等）の企画、運営担当、出版社・インターネット関連企業等の企画、編集、営業開発担当、等。
交通・観光関係	鉄道・航空会社等・旅行代理店・ホテル等の企画・商品開発・営業・企画・接客、等。

<都市のマネジメント>

大分類	小分類（職業、職種の例）
都市開発、マネジメント関係	都市開発会社社員、商業開発会社社員、商業プロパティマネジメント会社社員、建設会社社員、ビルマネジメント会社社員、鉄道会社開発部門社員、等。
都市計画、都市行政	地方公務員、独立行政法人、公益法人職員、まちづくりコンサルタント、等。
不動産仲介・住宅産業	宅地建物取引士、不動産仲介会社社員、ハウスメーカー社員、等。
不動産投資、金融関係	資産投資マネージャー、信託銀行などの銀行員、不動産鑑定法人職員、等。

<都市のデザイン>

大分類	小分類（職業、職種の例）
住宅産業関係	インテリアコーディネーター、ハウスメーカー設計・営業担当、住宅設備機器メーカー社員、開発プランナー、住宅関連独立行政法人、住宅不動産会社社員、等。
建築設計・都市行政関係	建築家、建築士、インテリアプランナー、商業施設士、インテリアデザイナー、建築設計事務所所員、ディスプレイ会社社員、インテリアデザイン事務所所員、地方公務員、等。
建設産業関係	建設会社設計・施工部社員、建設資材・設備機器メーカー社員、建築士、施工管理技士、等。

<都市のしくみ>

大分類	小分類（職業、職種の例）
都市計画、都市行政関係	地方公務員（都市自治体の職員）、国家公務員、中央・地方の独立行政法人、公益法人職員、等。
建設コンサルタント・国際協力関係	建設コンサルタント会社社員、社会調査会社社員、建設会社社員、国際協力機関の専門家職員、途上国開発援助コンサルタント会社社員、等。
インフラ関連事業関係	鉄道会社・バス会社社員、公営企業職員、電力・ガス・通信事業会社社員、等。
不動産管理・生活サービス	宅地建物取引士、ビル管理・マンション管理業社員、ソーシャルビジネスの起業家、等。

2. 進路・職業と履修モデル

履修モデルは、専門科目を選択する際に、それぞれの進路・職業において必要、有用な科目をそれぞれの分類にあわせて作成してあります。履修科目を選択する際の参考にしてください。もちろん、このモデルだけが全てではありません。様々な組み合わせがあるでしょう。興味と将来のことを十分考えて、科目を選択しましょう。

なお、履修要綱3-1卒業の要件に示されているように、卒業にはそれぞれの区分に従い合計124単位以上を修得する必要があります。

- | | | | |
|----------------------|-------|---------------------|-------|
| (1) 都市のライフスタイルの履修モデル | 70ページ | (2) 都市のマネジメントの履修モデル | 71ページ |
| (3) 都市のデザインの履修モデル | 72ページ | (4) 都市のしくみの履修モデル | 73ページ |

専門領域の科目一覧

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目
経営学概論							(基幹科目)
都市計画(1)							
世界の住まい	世界の都市	都市の文化・芸術	会計学概論	民法と商法	統計と分析		(基礎共通科目)
				経営財務			
コンピュータ演習		まちの観察					(演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)	プレゼンテーション	都市デジタルシミュレーション(2)				専門基礎科目 37単位を修得 (必修21単位, 選択必修16単位※) ※演習領域8単位を含む
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)	空間デザイン演習(4)	都市デジタルシミュレーション(3)				
	空間デザイン演習(3)		マーケティングリサーチ演習(2)				
	マーケティングリサーチ演習(1)		マーケティングリサーチ演習(3)				
	都市の社会学			経営戦略論			専門科目
		都市の財政学	エリアマーケティング		広告コミュニケーション		(ライフスタイル)
			集客学		集客観光学		
					ブランド戦略		
			エリアマネジメント	プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	都市空間の演出	商環境とホテルの企画	都市開発プロジェクト		
		不動産ビジネス					
		コミュニティマネジメント					
	都市デザイン			建築空間論			(デザイン)
		インテリアデザインと施		ランドスケープデザイン	都市の環境		
		建築史		リノベーションとコンバージョン	住宅計画		
	都市政策		ユニバーサルデザイン				(しくみ)
		都市の開発と経済	住まいの構法・生産・流通	都市と交通			専門科目 54単位を修得 (必修14単位, 選択必修10単位, 選択30単位)
		まちの防災	住まいと環境	都市計画(2)			
		建築法規		構造力学(1)及び演習	構造力学(2)及び演習		(建築士対応科目)
		建築材料		環境と設備	建築構造		
					鉄筋コンクリート構造		
	フレッシュアーズゼミ		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)		(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究(1)	卒業研究(2)
以下は学年配当なし							
海外研修(1)	海外研修(2)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)				
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)		
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のライフスタイル

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目
経営学概論							(基幹科目)
都市計画 (1)							
	世界の都市	都市の文化・芸術	会計学概論				(基礎共通科目)
				経営財務			
コンピュータ演習		まちの観察					(演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)	プレゼンテーション	都市デジタルシミュレーション(2)				
空間デザイン演習 (1)	空間デザイン演習 (2)						
			マーケティングリサーチ演習 (2)				
	マーケティングリサーチ演習 (1)		マーケティングリサーチ演習 (3)				
	都市の社会学			経営戦略論			専門科目
		都市の財政学	エリアマーケティング		広告コミュニケーション		(ライフスタイル)
			集客学		集客観光学		
					ブランド戦略		
			エリアマネジメント	プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	都市空間の演出	商環境とホテルの企画			
		不動産ビジネス					
		コミュニティマネジメント					
	都市デザイン			建築空間論			(デザイン)
				リノベーションとコンバージョン			
	都市政策		ユニバーサルデザイン				(しくみ)
		都市の開発と経済					
		まちの防災					
							(建築士対応科目)
フレッシュャーズゼミ			キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)		(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究(1)	卒業研究(2)
以下は学年配当なし							
海外研修(1)	海外研修(2)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)				
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)		
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のマネジメント

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目
経営学概論							(基幹科目)
都市計画(1)							
	世界の都市	都市の文化・芸術			統計と分析		(基礎共通科目)
				経営財務			
コンピュータ演習		まちの観察					(演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)	プレゼンテーション	都市デジタルシミュレーション(2)				
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)		都市デジタルシミュレーション(3)				
	空間デザイン演習(3)		マーケティングリサーチ演習(2)				
	マーケティングリサーチ演習(1)		マーケティングリサーチ演習(3)				
	都市の社会学			経営戦略論			専門科目
		都市の財政学	エリアマーケティング				(ライフスタイル)
					ブランド戦略		
			エリアマネジメント	プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	都市空間の演出	商環境とホテルの企画	都市開発プロジェクト		
		不動産ビジネス					
		コミュニティマネジメント					
	都市デザイン			建築空間論			(デザイン)
		建築史		ランドスケープデザイン			
				リノベーションとコンバージョン			
	都市政策		ユニバーサルデザイン				(しくみ)
		都市の開発と経済					
				都市計画(2)			
							(建築士対応科目)
フレッシュアーズゼミ			キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)		(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究(1)	卒業研究(2)
以下は学年配当なし							
海外研修(1)	海外研修(2)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)				
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)		
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のデザイン

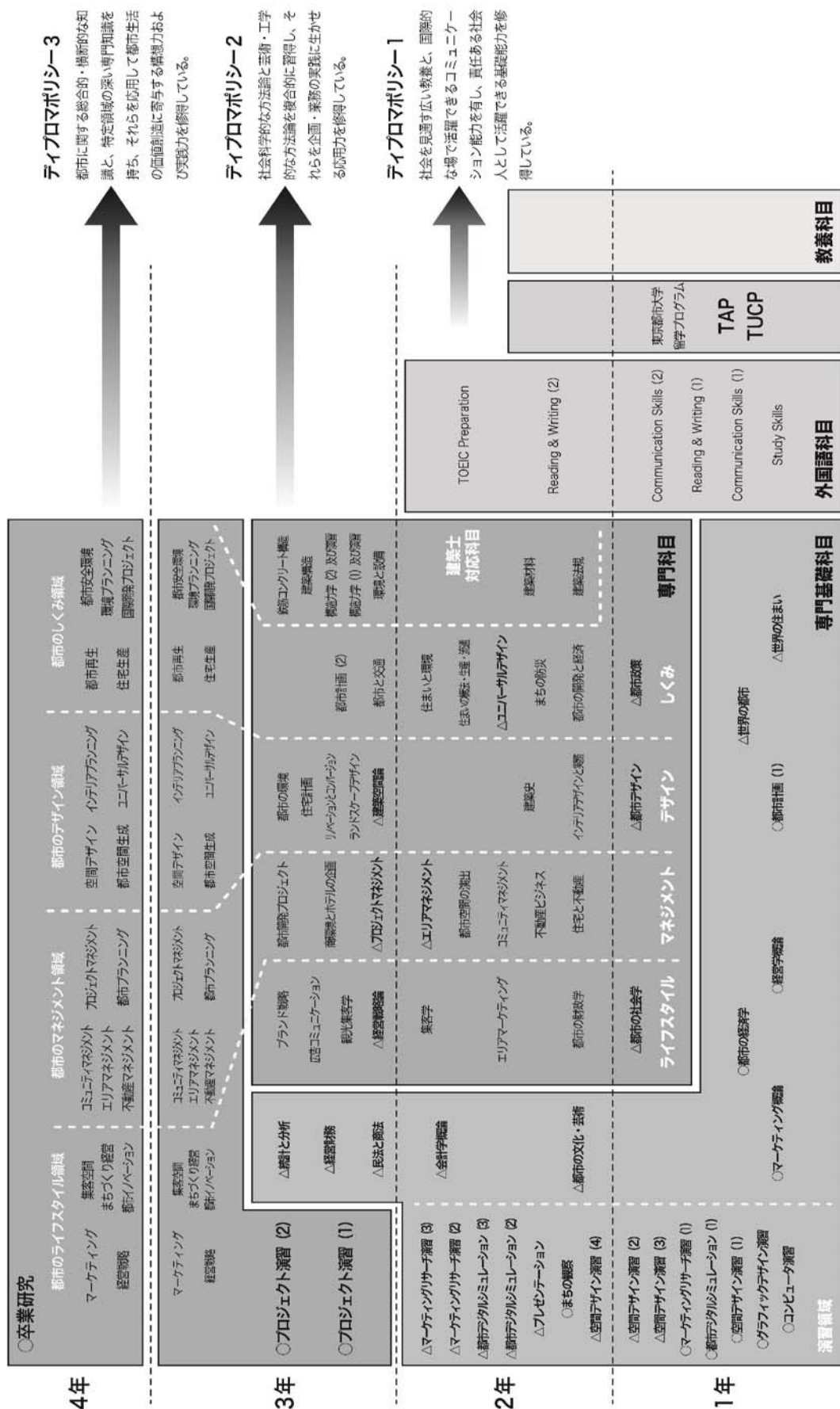
資格の履修科目は「資格」の頁を参照すること

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目 (基幹科目)
経営学概論							
都市計画(1)							
世界の住まい	世界の都市	都市の文化・芸術		民法と商法			(基礎共通科目)
コンピュータ演習		まちの観察					(演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)		都市デジタルシミュレーション(2)				
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)	空間デザイン演習(4)	都市デジタルシミュレーション(3)				
	空間デザイン演習(3)						
	マーケティングリサーチ演習(1)						
	都市の社会学			経営戦略論			専門科目 (ライフスタイル)
			エリアマネジメント	プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	都市空間の演出				
	都市デザイン			建築空間論			(デザイン)
		インテリアデザインと繕		ランドスケープデザイン	都市の環境		
		建築史		リノベーションとコンバージョン	住宅計画		
	都市政策		ユニバーサルデザイン				(しくみ)
			住まいの構法・生産・流通				
			住まいと環境				
		建築法規		構造力学(1)及び演習	構造力学(2)及び演習		(建築士対応科目)
		建築材料		環境と設備	建築構造		
					鉄筋コンクリート構造		
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)			(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究(1)	卒業研究(2)
以下は学年配当なし							
海外研修(1)	海外研修(2)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)				
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)		
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のしくみ

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学					専門基礎科目 (基幹科目)	
経営学概論							
都市計画(1)							
	世界の都市			民法と商法	統計と分析	(基礎共通科目)	
				経営財務			
コンピュータ演習		まちの観察				(演習領域)	
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)	プレゼンテーション	都市デジタルシミュレーション(2)				
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)			マーケティングリサーチ演習(2)			
				マーケティングリサーチ演習(3)			
	マーケティングリサーチ演習(1)						
	都市の社会学			経営戦略論		専門科目 (ライフスタイル)	
		都市の財政学					
			集客学				
				エリアマネジメント	プロジェクトマネジメント	(マネジメント)	
		住宅と不動産			都市開発プロジェクト		
		不動産ビジネス					
	都市デザイン			建築空間論		(デザイン)	
				ランドスケープデザイン	都市の環境		
	都市政策		ユニバーサルデザイン			(しくみ)	
		都市の開発と経済	住まいの技法・生産・流通	都市と交通			
		まちの防災	住まいと環境	都市計画(2)			
		建築法規				(建築士対応科目)	
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)		(総合領域)	
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究(1)	卒業研究(2)
以下は学年配当なし							
海外研修(1)	海外研修(2)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)				
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)		
凡例	必修科目	選択必修科目					

履修系統図



○：必修科目 △：選択必修科目

資格

資格には、国家試験によって得られる「国家資格」をはじめ、各種団体の実施による「公的資格」「民間資格」などがあります。資格取得に際しては、

- (1) 所定単位を修得して卒業すれば、無試験で資格を取得できるもの（実務・研修・講習を含む。）
- (2) 所定の単位を修得して卒業すれば、試験の受験資格を取得できるもの
- (3) 単位の修得や学歴が資格と関係ないもの

などがあります。

ただし、資格・試験が単位修得と関係がなくても、試験科目と関係のある科目がありますので、本要覧に履修を推奨する科目として示していますので、参考にしてください。なお、試験日、試験科目や受験資格など詳細は、それぞれの試験要項などでよく調べてください。

<総括表>

	資格名	類型	資格と単位修得との関係
1	一級建築士、二級建築士、木造建築士	(2)	所定単位修得により受験資格
2	インテリアコーディネーター	(3)	関係なし
3	商業施設士補	(1)	所定単位と講習により資格取得
4	商業施設士	(2)	士補の資格があると、士の学科試験免除／実技試験あり
5	福祉住環境コーディネーター（2級）	(3)	関係なし
6	宅地建物取引士	(3)	関係なし
7	公務員試験	(3)	関係なし
8	建築施工管理技士	(2)	所定単位修得により受験資格

資格・試験ごとの関係科目

1. 一級建築士、二級建築士、木造建築士

(1) 資格の種類

国家資格

(2) 建築士の区分

- ・一級建築士：国土交通大臣の免許を受け、すべての建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。
- ・二級建築士：都道府県知事の免許を受け、建築物の構造や規模等の制限を受け、規定された建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。
- ・木造建築士：都道府県知事の免許を受け、木造の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。

(3) 受験資格

国土交通省が指定する建築に関する科目（指定科目）を修めて卒業後、所定の実務経験により建築士試験受験資格が与えられる。

一級建築士試験および二級・木造建築士試験の受験に必要な卒業時の単位数と、建築士免許の交付を受けるに必要な建築実務の経験年数は、次表の通りである。なお、二級建築士の資格を以って一級建築士試験を受験する場合は、建築実務の経験が4年以上必要である。

指定科目（⑤参照）		一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
必修科目	建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
	建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
	建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
	建築設備	2単位	2単位	2単位			
	構造力学	4単位	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位
	建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
	建築材料	2単位	2単位	2単位			
	建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
	建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
必修科目の総単位数(a)		30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
必修科目以外の総単位数(b)		適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)		60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験		2年	3年	4年	0年	1年	2年

(4) 試験科目

試験科目は、次表の通りである。

	一級建築士試験	二級・木造建築士試験
学科の試験	学科Ⅰ 建築計画, 建築積算等 (20 問) 学科Ⅱ 環境工学, 建築設備等 (20 問) 学科Ⅲ 建築法規等 (30 問) 学科Ⅳ 構造力学, 建築一般構造, 建築材料等 (30 問) 学科Ⅴ 建築施工等 (25 問) 5 科目合計 125 問, 四枝択一	学科Ⅰ 建築計画 (25 問) 学科Ⅱ 建築法規 (25 問) 学科Ⅲ 建築構造 (25 問) ・二級建築士: 構造計算および建築材料を含む ・木造建築士: 建築材料を含む 学科Ⅳ 建築施工 (25 問) 4 科目合計 100 問, 五枝択一
設計製図の試験	あらかじめ公表された設計課題に対する計画, 設計の知識および技能に加え, 記述, 図的表現等による構造および設備計画の基本的な能力も求められる。	あらかじめ公表された設計課題に対する計画, 設計の知識および技能を求められる。

(5) 指定科目

本学都市生活学部都市生活学科は、平成 21（2009）度以来、建築士指定科目が認められた課程である。平成 31（2019）年度入学者については、2020 年 3 月までに変更申請による認可を得る予定であり、下表の指定科目を予定している。認可後の詳細は 2020 年 4 月にあらためて周知する。

学校・課程名 東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科

指定科目の分類 (単位数)		指定科目に該当する科目 (予定)				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数 時間数	備 考
①建築設計製図 実務 0～2 年 (5 単位以上) 実務 3～5 年 (3 単位以上)	①建築設計製図 (7 単位以上)	都市デジタルシミュレーション(1)	1 年後期	必修	2	
		都市デジタルシミュレーション(2)	2 年後期	選択	2	
		都市デジタルシミュレーション(3)	2 年後期	選択	2	
		空間デザイン演習(1)	1 年前期	必修	3	
		空間デザイン演習(2)	1 年後期	選択	2	
		空間デザイン演習(3)	1 年後期	選択	2	
		空間デザイン演習(4)	2 年前期	選択	2	
②～④ 建築計画, 建築環境工学 又は建築設備 実務 0～2 年 (7 単位以上) 実務 3～5 年 (2 単位以上)	②建築計画 (7 単位以上)	建築史	2 年前期	選択	2	
		ユニバーサルデザイン	2 年後期	選択必修	2	
		都市デザイン	1 年後期	選択必修	2	
		住宅計画	3 年後期	選択	2	
		建築空間論	3 年前期	選択必修	2	
		商環境とホテルの企画	3 年前期	選択	2	
		リノベーションとコンバージョン	3 年前期	選択	2	
		コミュニティマネジメント	2 年前期	選択	2	
	③建築環境工学 (2 単位以上)	住まいと環境	2 年後期	選択	2	
	④建築設備 (2 単位以上)	環境と設備	3 年前期	選択	2	

指定科目の分類 (単位数)		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数 時間数	備 考
⑤～⑦ 構造力学, 建築一般構造又は 建築材料 実務0～2年 (6単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造力学(1)及び演習	3年前期	選択	3	
		構造力学(2)及び演習	3年後期	選択	3	
	⑥建築一般構造 (3単位以上)	建築構造	3年後期	選択	2	
		鉄筋コンクリート構造	3年後期	選択	2	
		※建築構法(1)	※建築学科開講科目		2	他学部履修
		※木質構造	※建築学科開講科目		2	他学部履修
	⑦建築材料 (2単位以上)	建築材料	2年前期	選択	2	
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	住まいの構法・生産・流通	2年後期	選択	2	
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	2年前期	選択	2	
⑩その他	⑩その他	世界の住まい	1年前期	選択	2	
		世界の都市	1年後期	選択	2	
		都市の環境	3年後期	選択	2	
		住宅と不動産	2年前期	選択	2	
		都市空間の演出	2年後期	選択	2	
		まちの防災	2年前期	選択	2	
		インテリアデザインと実務	2年前期	選択	2	
		都市計画(2)	3年前期	選択	2	
		都市開発プロジェクト	3年後期	選択	2	
		都市計画(1)	1年前期	必修	2	
		都市政策	1年後期	選択	2	
一級建築士試験の受験に必要な単位数は, 建築実務の経験2年：上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計30単位を含め, 合計60単位以上 建築実務の経験3年：同 合計50単位以上 建築実務の経験4年：同 合計40単位以上						
二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数は, 建築実務の経験0年：上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計20単位を含め, 合計40単位以上 建築実務の経験1年：同 合計30単位以上 建築実務の経験2年：同 合計20単位以上						

注意1：工学部建築学科で受講を認められている指定科目以外の科目を建築学科で受講しても、都市生活学科の指定科目としては認められない。

注意2：「構造力学(1)及び演習」「構造力学(2)及び演習」を履修する場合は、高校の数学および物理（特に力学）を理解している必要がある。

(6) その他

一級建築士の免許の交付を受けるには、上記の指定科目を修得して卒業することと、2年間の実務経験が必要とされるが、本学大学院環境情報学研究科都市生活学専攻に進学した場合は、所定の科目を修得することで2年間のうち1年間分の実務経験とみなされる措置が適用される。

2. インテリアコーディネーター

(1) 資格の種類

社団法人インテリア産業協会が認定する公的資格

(2) 役割

住む人にとって快適な住空間を作るために適切な提案・助言を行うプロフェッショナル。インテリア（家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等）に関する幅広い商品知識を持ち、インテリア計画や商品選択のアドバイスなどを行なう。

(3) 受験資格

単位修得と関係なし

(4) 試験科目

1 次試験 学科（マークシートによる択一式・160 分）

2 次試験 論文試験・プレゼンテーション試験（記述式・180 分）

(5) 試験のために必要とする科目（**太字科目**は必ず履修すること）

「空間デザイン演習(1)」**「空間デザイン演習(2)」**「都市デジタルシミュレーション(1)」

「都市デジタルシミュレーション(2)」**「ユニバーサルデザイン」**「住宅計画」「インテリアデザインと実務」

「住まいと環境」「建築法規」「環境と設備」「建築構造」「建築材料」

3. 商業施設士補

4. 商業施設士

(1) 資格の種類

- ・「社団法人 商業施設技術団体連合会」が認定する公的資格
- ・（社）日本インテリアデザイナー協会、（社）日本ディスプレイ業団体連合会など 10 団体の推薦資格

(2) 資格の目的・特性

- ・商業施設の企画、空間構成、設計、制作施工監理を行うのに必要な専門知識と技術を有すると認める技術者に「商業施設士」の称号を付与し、プロの育成を推進する。
- ・商業の従事者、専門技術者が持つことのできる現状唯一の資格。

(3) 試験内容

- ・学科試験：商業施設と技術に関する共通問題（学科試験受験者必須）、選択問題（生活と商業、企画と計画、施設と設計、監理と施工の 4 科目のうち 2 科目）
- ・構想表現（実技）試験：文章表現または図案表現

(4) 受験資格

- ・学科試験＋実技試験：満 20 歳以上で下表の実技試験受験資格に該当の者
- ・実技試験のみ：下表の実技試験受験資格に該当する者

《実技試験・受験資格一覧表》

	最終卒業学校または資格	実務経験年数	
		商業施設関連課程卒	左記以外の課程卒
学歴＋実務の場合	大学・短期大学	卒業後 1 年以上	卒業後 2 年以上
資格保有者の場合	一級・二級・木造建築士 インテリアプランナー 再開発プランナー 中小企業診断士 一級販売士 インテリアコーディネーター 商業施設士補	0 年	

(5) 商業施設士補資格と認定に関するメリット

- ・商業施設士補は、認定校の学生で、指定する認定課程の各科目の単位を取得しているという要件を満たす者に対して付与する資格（科目単位認定及び講習受講による）。商業施設に関する知識を習得した証となり、商業や街づくりを志す者に有利な資格。
- ・商業施設士補は商業施設士資格試験の学科試験が免除となる。

(6) 商業施設士補指定科目

本学都市生活学部都市生活学科は、商業施設士補の受験資格認定課程となっている。下表「区分・科目」の各要件に対して、「充当する教科目」を充足することで、資格の申請及び講習受講を経て資格取得をすることができる。

東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科
商業施設士補 資格認定課程 教科カリキュラム

区分・科目			充当する教科目	単位数
区分	必須単位	科目		
商業一般	6 単位以上	商業一般に関する科目	マーケティング概論 (1 年・前期) 2 都市の経済学 (1 年・後期) 2 経営学概論 (1 年・前期) 2 会計学概論 (2 年・後期) 2 経営戦略論 (3 年・前期) 2	
商業施設構成計画	10 単位以上	商業施設の企画 商業施設に係わる法規と安全計画 商業施設の計画 商業施設の展示・装置計画 商業施設の設計 以上に関する科目	都市の環境 (3 年・後期) 2 ユニバーサルデザイン (2 年・後期) 2 ブランド戦略 (3 年・後期) 2 都市デザイン (1 年・後期) 2 都市計画(1) (1 年・前期) 2 都市空間の演出 (2 年・後期) 2 集客観光学 (3 年・後期) 2 商環境とホテルの企画 (3 年・前期) 2 都市開発プロジェクト (3 年・後期) 2	
工 建築監理・施工及び	6 単位以上	建築一般に関する科目 及び 商空間の工事監理に関する科目	建築史 (2 年・前期) 2 住まいの構法・生産・流通 (2 年・後期) 2 建築空間論 (3 年・前期) 2 住まいと環境 (2 年・後期) 2 建築構造 (3 年・後期) 2 インテリアデザインと実務 (2 年・前期) 2 リノベーションとコンバージョン (3 年・前期) 2 建築材料 (2 年・前期) 2 建築法規 (2 年・前期) 2 環境と設備 (3 年・前期) 2	
設計製図	9 単位以上	商業施設の設計製図に関する科目	空間デザイン演習(1) (1 年・前期) 3 空間デザイン演習(2) (1 年・後期) 2 空間デザイン演習(3) (1 年・後期) 2 空間デザイン演習(4) (2 年・前期) 2 都市デジタルシミュレーション (1) (1 年・後期) 2 都市デジタルシミュレーション (2) (2 年・後期) 2 都市デジタルシミュレーション (3) (2 年・後期) 2	

※各区分をバランスよく修得するために、**太字科目**の履修を推奨する。

5. 福祉住環境コーディネーター（2級）

- (1) 資格の種類
東京商工会議所が認定する公的資格
- (2) 目的
高齢者や障害者に対して住みよい住環境を提案するアドバイザーを目指す。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。
- (3) 主な業務
介護保険制度下での住宅改修に係わるケアマネジャーとの連携
福祉施策、福祉・保険サービスなどの情報提供
福祉用具、介護用品から家具までの選択と利用法のアドバイス
バリアフリー住宅への新築、建て替え、リフォームにおけるコーディネート
- (4) 受験資格
単位修得と関係なし
- (5) 出題内容（公式テキストより出題）
 - ・高齢者、障害者を取り巻く社会環境と住環境
 - ・リハビリテーションと自立支援
 - ・高齢者・障害者の心身の特性
 - ・福祉用具
 - ・福祉住環境整備とケアマネジメント
 - ・建築図面の読み方、建築関連法規、建築構造の基礎知識
- (6) 試験のために履修を推奨する科目

A：推奨科目（資格試験の内容に対応した科目）
「ユニバーサルデザイン」

B：有益科目（資格試験に関連する科目／上記科目とあわせて受講することが望ましい）
「インテリアデザインと実務」「空間デザイン演習（1）」「住まいと環境」「建築材料」「建築法規」

6. 宅地建物取引士

- (1) 資格の種類
国家資格
- (2) 資格の意義
不動産取引業に欠かせない資格。事務所ごとに、業務に従事する者5名に1人以上の専任の主任者の設置義務があり、宅地建物取引業者（一般にいう不動産会社）の相手方に対して、宅地又は建物の売買、交換又は貸借の契約が成立するまでの間に、重要事項説明などの不動産取引業務に従事する。
- (3) 試験分野
権利関係（財産法など）、宅建業法、法令上の制限（都市計画法、建築基準法など）、税・価格の評定、土地・建物、需給・実務
- (4) 受験資格
単位修得と関係なし
- (5) 試験のために履修を推奨する科目
「民法」「都市計画（1）」「都市計画（2）」「建築法規」「住宅と不動産」「不動産ビジネス」「経営財務」「会計学概論」等

7. 公務員試験

(1) 公務員という職業

公務員とは、国や地方公共団体の機関に勤務する職員のことです。「全体の奉仕者」（憲法第 15 条）と言われるように日々の仕事そのものが社会貢献であることに特徴があります。公務員の仕事の分野は社会のあらゆる側面に関わるほど多岐に渡るが、とくに地方公共団体（都道府県や市町村）が行う「まちづくり行政」の分野は、都市生活学部の学生にとって専門科目で学習する内容ととても関わりが深く、教育課程表において「都市のしくみ」や「都市のマネジメント」に分類されている科目を中心に多くの科目を学修すれば、まちづくり行政の職務分野の感覚が自然に身についたものになる。

(2) 資格の種類

公務員の採用は、職務に適する能力を持った者を公平な基準によって選抜するため、公務員採用試験に合格した者のうちから行われる。公務員試験には種々の試験区分があるが、以下の試験が大学卒業者（卒業見込み者を含む）が受験する一般的な試験区分である。

- ・国家公務員総合職（省庁の幹部職員候補者の採用試験）
- ・国家公務員一般職（省庁の中堅職員又は出先機関の幹部職員候補者の採用試験）
- ・地方上級公務員（都道府県と市区町村、採用試験はそれぞれの地方公共団体ごとに実施）

(3) 職種

公務員には職種があり、大きくは事務職、技術職、専門職に大別され、採用試験の区分が異なり、採用後の主たるポストや異動範囲が異なっている。技術職はさらに土木職、建築職、機械職などに分かれ、事務職も行政機関によって一般事務職、社会福祉職などに分かれている場合がある。この他、専門職（資格・免許職）として保育士、栄養士、司書などがある。また、警察官、消防士、交通局職員などは別途の採用試験による。

(4) 試験科目

国、各々の地方公共団体、さらに職種によって異なるが、基本的には一次試験（多肢択一型）、二次試験（記述式の試験）および面接試験の順に進む。一次試験は、一般に出題数が多く、出題範囲が非常に幅広い。例えば、教養試験（択一式 40～50 問。内容は一般知能（文章読解と数的処理）及び一般知識（社会・人文・自然科学および時事・社会事情）と専門試験（択一式 40 問程度。事務系の場合は憲法、民法、行政法、政治学、経済学、社会学、会計学、経営学、国際関係など）という場合が多い。詳しくは、過去の出題例の問題集が書店に並んでいるので、進路として公務員を検討している者は、試験時間を設定して自宅で模擬試験をやってみることをお勧めする。

(5) 資格の種類

単位修得と関係なし。なお、都市生活学部の学生は通常は事務職を受験するが、建築職、土木職でも受験できる。

(6) 試験のために履修を推奨する科目

公務員試験は非常に幅広い分野から出題されるため、これだけをマスターしておけばといった特定の科目というものはないが、日頃から社会や経済に関心を持つとともに、人文・社会科学系の科目を広く受講しておくことをお勧めする。例えば、以下の科目がある。

「民法」「都市政策」「経営財務」「会計学概論」「都市の財政学」「マーケティング概論」「経営学概論」「経営戦略論」「日本国憲法」「法学」「社会学（１）」「社会学（２）」「政治学（１）」「政治学（２）」「国際関係論（１）」「国際関係論（２）」等

(7) 試験・採用までの日程

採用試験の申込みや試験の日程は、役所や試験区分ごとに違っています。例えば、東京都特別区職員の場合は、特別区人事委員会のホームページで周知され、例年 1 月下旬に日程の公表、I 類一般方式の場合 3 月上旬に告示、申込受付期間が 4 月上旬のみ、1 次試験が 5 月上旬、2 次試験が 7 月中旬、8 月上旬に試験の合格発表があり、その後各区の面接を受けて、内定が決まります。申込期間が早く短いので、逃さないように注意が必要です。東京都庁も概ね同様ですが、試験日が違うので両方受けることができます。また、その他の県庁や市役所などはそれぞれに日程が違い、申込期間や試験日が夏季や秋口になる役所もあれば、数回に分けて募集する役所もあります。そのため、自身の関心のある役所のホームページの採用情報を早めにチェックし、あらかじめ日程計画をたてておく必要があります。

8. 建築施工管理技士

(1) 資格の種類

国家資格（国土交通省）

(2) 建築施工管理技士の効用

- ・一般建設業、特定建設業の許可基準の一つである営業所ごとに置く専任の技術者、建設工事の現場に置く主任技術者及び監理技術者の有資格者として認められる。
- ・経営事項審査における技術力の評価において、計上する技術者数にカウントされる。
施工技術の指導的技術者として社会的に高い評価を受けることになる。

(3) 建築施工管理技士の区分

- ・1級建築施工管理技士：特定建設業の営業所の専任技術者および監理技術者となり得る国家資格。
- ・2級建築施工管理技士：一般建設業の営業所の専任技術者および主任技術者となり得る国家資格。
2級は、建築・躯体・仕上げの種別に細分される。

(4) 受験資格

都市生活学部都市生活学科は平成28年9月、国土交通省令で定める学科に準ずると認める学科(指定学科)として、認定された。よって、下記に示す教科において指定する条件を満たし卒業したのち、受験しようとする種目に関し、1級の場合は指導監督の実務経験1年以上を含む3年以上の実務経験を有する者、2級の場合は1年以上の実務経験を有する者であれば、受験資格を得られる。

(5) 指定科目

下表の科目のうち、11単位以上を修得することが必要である。

科目名	履修学年	必修・選択	単位数 時間数	備考
空間デザイン演習(2)	1年後期	選択	2	
空間デザイン演習(3)	1年後期	選択	2	
空間デザイン演習(4)	2年前期	選択	2	
都市デジタルシミュレーション(2)	2年後期	選択	2	
都市デジタルシミュレーション(3)	2年後期	選択	2	
建築空間論	3年前期	選択	2	
インテリアデザインと実務	2年前期	選択	2	
建築法規	2年前期	選択	2	
建築史	2年前期	選択	2	
建築材料	2年前期	選択	2	
住宅計画	3年後期	選択	2	
建築構造	3年後期	選択	2	
構造力学(1)及び演習	3年前期	選択	3	
構造力学(2)及び演習	3年後期	選択	3	
鉄筋コンクリート構造	3年後期	選択	2	
住まいの構法・生産・流通	2年後期	選択	2	
住まいと環境	2年後期	選択	2	

東京都市大学留学プログラム (TAP・TUCP)

本学の留学プログラムは、「東京都市大学オーストラリアプログラム (以下,TAP)」と「東京都市大学とカンタベリー大学との留学プログラム (以下,TUCP)」の2つのプログラムがあります。これらのプログラムは、本学が独自に開発した留学プログラムです。

2015年より始まったTAPは、西豪州パースの大学に16週にわたり留学します。参加条件を問いませんので、英語に自信が無い場合でも安心して留学することが可能です。1年次には、準備教育として、前期後期合わせて100日間の英会話レッスンもあります。

TUCPは、ニュージーランド・クライストチャーチ市のカンタベリー大学に16週にわたり留学します。参加条件としてTOEIC®600点以上が求められます。カンタベリー大学の学生と共に現地の科目を受講できることがこのプログラムの特徴です。



プログラムの概要

現在は以下の2プログラムが用意されています。英語レベルに合わせて参加するプログラムを決定します。

	 東京都市大学 オーストラリアプログラム	 TUCP カンタベリー大学 留学プログラム																																				
概要	TAP 東京都市大学オーストラリアプログラム 初体験でも安心してチャレンジできる留学システム。 国内での準備教育とオーストラリア留学の2年間にわたる大規模プログラム。	TUCP 東京都市大学&カンタベリー大学留学プログラム 現地学生と共に専門科目を学ぶ上級者向けプログラム																																				
募集定員	<table><tr><td rowspan="4">サイクル A</td><td>環境学部</td><td>環境創生学科</td><td>45 名</td></tr><tr><td></td><td>環境経営システム学科</td><td>35 名</td></tr><tr><td>メディア情報学部</td><td>社会メディア学科</td><td>35 名</td></tr><tr><td></td><td>情報システム学科</td><td>12 名</td></tr><tr><td rowspan="3"></td><td>都市生活学部</td><td>都市生活学科</td><td>90 名</td></tr><tr><td>人間科学部</td><td>児童学科</td><td>4 名</td></tr><tr><td>サイクル B</td><td>工学部</td><td>全 8 学科</td><td>180 名</td></tr><tr><td></td><td>知識工学部</td><td>全 3 学科</td><td>70 名</td></tr><tr><td colspan="4">合計</td></tr><tr><td colspan="3">サイクル A : 221 名 サイクル B : 250 名</td><td>471 名</td></tr></table> 学部学科によりサイクル（留学の時期）を指定。 募集人員を超えた場合は選考あり。	サイクル A	環境学部	環境創生学科	45 名		環境経営システム学科	35 名	メディア情報学部	社会メディア学科	35 名		情報システム学科	12 名		都市生活学部	都市生活学科	90 名	人間科学部	児童学科	4 名	サイクル B	工学部	全 8 学科	180 名		知識工学部	全 3 学科	70 名	合計				サイクル A : 221 名 サイクル B : 250 名			471 名	45 名 学部 2 年生以上及び大学院生にも開かれたプログラムです
サイクル A	環境学部		環境創生学科	45 名																																		
			環境経営システム学科	35 名																																		
	メディア情報学部		社会メディア学科	35 名																																		
		情報システム学科	12 名																																			
	都市生活学部	都市生活学科	90 名																																			
	人間科学部	児童学科	4 名																																			
	サイクル B	工学部	全 8 学科	180 名																																		
	知識工学部	全 3 学科	70 名																																			
合計																																						
サイクル A : 221 名 サイクル B : 250 名			471 名																																			
英語要件	特になし	TOEIC®600 点以上																																				
語学準備講座	参加必須(1 年次 前後期 100 日間)	参加可能																																				
プログラム期間	<table><tr><td rowspan="2">サイクル A</td><td>語学準備講座</td><td>2019 年 5〜7 月,9〜12 月</td></tr><tr><td>豪州留学</td><td>2020 年 2〜5 月</td></tr><tr><td rowspan="2">サイクル B</td><td>語学準備講座</td><td>2019 年 5〜7 月,9〜12 月</td></tr><tr><td>豪州留学</td><td>2020 年 8〜11 月</td></tr></table>	サイクル A	語学準備講座	2019 年 5〜7 月,9〜12 月	豪州留学	2020 年 2〜5 月	サイクル B	語学準備講座	2019 年 5〜7 月,9〜12 月	豪州留学	2020 年 8〜11 月	ニュージーランド留学 : 2020 年 2〜5 月 ニュージーランド留学 : 2020 年 8〜11 月																										
サイクル A	語学準備講座		2019 年 5〜7 月,9〜12 月																																			
	豪州留学	2020 年 2〜5 月																																				
サイクル B	語学準備講座	2019 年 5〜7 月,9〜12 月																																				
	豪州留学	2020 年 8〜11 月																																				
派遣先大学	エディスコーワン大学／マードック大学 [西オーストラリア州 パース]	カンタベリー大学 [ニュージーランド クライストチャーチ]																																				
学修内容と修得単位	英語科目/教養科目等 計 12 単位 詳細は別表参照	英語科目/専門基礎科目等 計 12 単位 詳細は別表参照																																				

留学中の学修

【TAP】4か月間の留学において、1st クォーターは、大学付設の語学学校（能力別クラス）で他国の留学生とともに英語を学びます。2nd クォーターは国際人として必要な教養を身につけるために、教養の科目を英語で学びます。現地における科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の教務委員（または TAP 担当教員）に確認してください。

[2019年度入学者用]TAPにおける海外大学で修得した単位の認定について

派遣 先大 学名	海外大学の開講科目名 ※1	単位数	都市大での認定科目名	単位数	工学部	知識工学部	環境学部	メディア情報学部	都市生活学部	人間科学部
					認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分	認定科目区分
ECU	前半	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位 C S (1), C S (2), R W (1), R W (2) <1年次配当> の4単位で認定 (上記科目の履修は免除)					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(1)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
	Australia Today	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	Collaborative Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	教養科目	教養科目
	Social, Cultural, and Media Studies	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	教養科目
MU	前半	4	Communication Skills(1)	1	Improving English 4単位を外国語必修単位 C S (1), C S (2), R W (1), R W (2) <1年次配当> の4単位で認定 (上記科目の履修は免除)					
			Communication Skills(2)	1						
			Reading and Writing(1)	1						
			Reading and Writing(2)	1						
	Australia Today	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	Australia and Asia	2	※2	2	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	Digital Storytelling	2	※2	2	—	—	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	教養科目
後半	Using Web Data	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	—	—	—	—
	Sustainable Urban Design	2	※2	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	教養科目

※1 海外大学での開講科目(名)は変更となる場合がある。

※2 海外大学で単位を修得した科目の名称のまま、学則第43条に則り、都市大で単位を認定する。

【TUCP】最初の4週間は大学付設の語学学校で集中的に英語を学び、その後カンタベリー大学の正規学生とともに、専門基礎科目等の科目を学びます。現地における開講予定科目と、本学における認定科目については以下のとおりですが、詳細は学科の教務委員に確認してください。

[2019年度以降実施]TUCP科目の各学部での単位認定表

プログラム名	派遣先大学名	海外大学の開講科目名 ※1	単位数	都市大での認定科目名 ※2	単位数						
						工学部 認定科目区分	知識工学部 認定科目区分	環境学部 認定科目区分	メディア情報学部 認定科目区分	都市生活学部 認定科目区分	人間科学部 認定科目区分
TUCP	UC	Improving English Intensive	4	Improving English Intensive(1)	1	2018年度以前入学生 Improving English Intensive 4単位を外国語必修単位CS(1),CS(2)<1年次配当>, RW(2), TP <2年次配当> の4単位で認定。 2019年度以降入学生 Improving English Intensive 4単位を外国語必修単位CS(1),CS(2), RW(1),RW(2)<1年次配当> の4単位で認定。 ※英語の必修科目を修得済みの場合は、外国語科目・選択で認定。					
				Improving English Intensive(2)	1						
				Improving English Intensive(3)	1						
				Improving English Intensive(4)	1						
		参加者は下記の科目群から2科目を履修する									
		③Strengthening communities through Social Innovation	2	※3	2	工学基礎科目・選択	知識工学基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択必修	教養科目
		④Enterprise in Action	2	※3	2			専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	
		④Introduction to Environmental Science	2	※3	2			専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	
		④Education, Culture and Society	2	※3	2			教養科目	専門基礎科目・選択	教養科目	
		Intensive Course (eng)	4	※3	4			専門基礎科目・選択	専門基礎科目・選択	専門科目・選択	

※1 海外大学での開講科目(名)は変更となる場合がある。

※2 入学年度により都市大での認定科目は異なる。

※3 海外大学で単位を修得した科目の名称のまま、学則第43条に則り、都市大で単位を認定する。

上記の記載内容（開講科目名など）は変更される場合がありますのでご了承ください。

留学プログラムに関するご質問等は以下の窓口まで。

国際センター（事務局国際部） 世田谷キャンパス 1 号館 1 階 メールアドレス kokusaibu@tcu.ac.jp

科目概要

教養科目

哲学(1)

001

Philosophy(1)

「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自身が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

哲学(2)

002

Philosophy(2)

我々は夢の中で、現実ではないことを現実であるかのように経験し、しかもそれが夢であることに通例気づきません。だとすると、今我々が経験していることすべてが、実は夢の中の出来事で、実体のない幻である可能性が生じることになります。そしてさらにその結果我々は、全ては疑わしいという疑念の底無沼に突き落とされることになります。

この底無沼から脱出するには、どのようなやり方が考えられるのでしょうか。一つの脱出方法として想定できるのが、何か一つ絶対疑えない確実なものを見つけ出し、それを足場に疑念の底無沼からの脱出を果たすというやり方でしょう。そしてまさにこのようなやり方をとって、実際に疑念の底無沼からの帰還を果たしたのがデカルトという哲学者であり、またその際に彼がまず見つけ出した絶対確実なものが「私」という存在に他なりません。では、デカルトはいったいどのようにして「私」を絶対確実なものとして見つけ出し、すべてが疑わしいという状況から脱出を果たしてゆくのでしょうか。またデカルトが見つけ出す絶対確実な「私」とは、どのようなものなのでしょうか。後期の講義ではその点について、『第一哲学についての省察』という著作の内容検討を行いながら確認する作業を行ってゆきます。

倫理学(1)

003

Ethics(1)

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。私と他者、そして両者を架橋する言葉の問題を中心に講義する。

倫理学(2)

004

Ethics(2)

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、自らの問いとして考えてみよう。

倫理学

005

Ethics

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

文化人類学

006

Cultural Anthropology

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みをとともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

視覚芸術史(1)

007

History of Visual Arts(1)

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

視覚芸術史(2)

008

History of Visual Arts(2)

17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって 18 世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。

デザイン概論(1) 009

Introduction to Design:Theory and History(1)
「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

デザイン概論(2) 010

Introduction to Design:Theory and History(2)
本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

日本文学 011

Japanese Literature

文学は、自分が生きてきた背景や培ってきた価値観等に基づいて総合的に人間性を探究する営みである。人間には文学作品を読むことを通してしか学べないことがあり、読書習慣は生涯の心の支えになる。この科目では豊かな教養を身につけるために、科学とは異なる、文学独自の人間の捉え方を学ぶ。

世田谷を背景とする文学作品の読解を通して、地域の自然や環境、住民がどのように文学作品の中に描かれているか探究しその価値を考える。また教科書掲載の一般によく知られた子どもの成長を描いた文学作品の読解を通して、子ども時代の感情と思考の経験を共感的に理解する。

日本史(1) 012

Japanese History(1)

日本の歴史について、主に古代から明治維新までの前近代を中心に概観し、近代に就ても概略を理解する。その際、各時代の特徴的な資料を読みながら、他の資料にも目を配ることにより、その時代の特徴と時代的な推移を多面的、多角的に眺められるようにする。

日本史(2) 013

Japanese History(2)

幕末から現在に至る日本の近現代の歴史を概観する。その際、日本の政治の移り変わりを縦軸に、各時代の社会状況を横軸にとらえながら、時代状況の変化を多面的、多角的に捉えられるようにする。政治の中心ばかりではなく、一般社会の状況にも目を配っていく。

西洋史(1) 014

European History(1)

古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解く。

西洋史(2) 015

European History(2)

ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。

民俗学 016

Folklore Studies

「一日・一年・一生」の民俗学

日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前の生活」でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる三つの異なる時間幅としての「一日」「一年」「一生」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を、皆さん自身の現在に繋げながら理解を深めていきます。

宗教学 017

Religious Studies

三大一神教を中心に、世界で主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、宗教が現代社会において果たす役割について考える。

社会学(1) 018

Sociology(1)

社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

社会学(2)

019

Sociology(2)

社会学とは何か、何を明らかにしていく学問なのか。本講義では、社会学は社会のしくみを捉えるひとつの「ものの見方・考え方」とゆるやかに定義し、毎回様々なトピックを取りあげながらそれについて学ぶことを目的とする。

この講義を通じて、社会学の古典において語られてきた見方を理解するとともに現代社会の諸現象や諸問題、そして私たちの身の回りの諸文化を分析的に見る視点を養うことを目的としている。

特に社会学に触れたことのない学生が多いため、できるだけ身近な事例を用いた説明を心がけていく。

社会学入門

020

Introduction to Sociology

社会学入門では、社会学で培われてきた基本的な考えかたを学ぶことで、私たちが生きる社会のしくみを読み解いていくための基礎体力をつけることを目的とする。社会は個人の存在なくしてはなりたないが、単なる個人の集まりでもない。私たちは社会によって拘束されているが、社会を変えることも不可能ではない。このようなジレンマをひとつひとつ解きほぐしていくことで、社会の「なりたち」が見えてくる。社会のなりたちを理解することで、私たちが生きる社会への見通しをよくしていく。社会学入門とは、そんな講義である。

経済学(1)

021

Economics(1)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心に直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

経済学(2)

022

Economics(2)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心に直観的な理解ができるよう講義していきます。

また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

日本経済論

023

Japanese Economy and Economics

日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

政治学(1)

024

Political Science(1)

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。

政治学(2)

025

Political Science(2)

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同士の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典の文献の講読を通じて検討してゆく。時事問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。

日本の政治

026

Modern Politics in Japan

本科目は日本政治における選挙制度や政治・行政の役割といった、政治学における基本的な知識を学ぶ。この科目は、社会科学的な思考を学び、本授業を通じて政治現象に対する見解を持てるようになることを目的とする。授業内容は大きく分けて、①戦後の日本政治の流れを把握する、②日本政治の制度や現在の日本政治の仕組みについて学ぶ、の2点で構成されている。従って、政治学における基本的な知識を身につけること、戦後の日本政治の流れを把握し、重要なポイントを理解することを達成目標とする。

国際関係論(1)

027

International Relations(1)

国際関係論の基礎を幅広く学び、基礎知識をつける。国際関係論(1)は、国際関係と現代世界の国際秩序について、主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢が現代的課題を扱うというよりは、国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論(2)は、現代世界の平和の課題を主に扱い、そうした課題への国際的な対処をみていく。(2)では、グローバリゼーションを取り上げ、その中で現代の国際社会が直面する課題について学ぶ。国際関係論(1)、(2)は異なる内容のため、いずれかのみ履修も可能だが、両方の履修を推奨する(また、(1)→(2)、(2)→(1)いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

国際関係論(2)

028

International Relations(2)

国際関係論の基礎を幅広く学び、基礎知識をつける。国際関係論(1)は、国際関係と現代世界の国際秩序について、主に歴史的変遷と基盤となる理論を扱う。したがって最新の国際情勢が現代的課題を扱うというよりは、国際関係を考える上で必要な基礎を身につけることに主眼を置く。国際関係論(2)は、現代世界の平和の課題を主に扱い、そうした課題への国際的な対処をみていく。(2)では、グローバリゼーションを取り上げ、その中で現代の国際社会が直面する課題について学ぶ。国際関係論(1)、(2)は異なる内容のため、いずれかのみ履修も可能だが、両方の履修を推奨する(また、(1)→(2)、(2)→(1)いずれの順の履修でも構わない構成をとっている。)

日本国憲法

029

the Constitution of Japan

憲法は、日常生活で意識される機会は多くはないが、国家の基本法であり非常に重要である。本講義では、国家の基本法である憲法の全体像を学ぶ。憲法についてより深く理解するために、まず、法と歴史について概観する。そのうえで、憲法とは何か、その意義および成り立ち、憲法の基本原則、国家の統治機構の枠組み(司法権、行政権、立法権)、人権(精神的自由権、経済的自由権、社会権等)について、条文および判例を中心に学習する。必要に応じて、基本的な法律用語の意味についても説明する。

民法

030

Civil Law

本講義では、日常生活において特に身近な法である民法

について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

法学

031

Jurisprudence

本講義では、法学についての基礎的なことから概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール(総則、物権、債権総論、契約)について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力(法的思考力)も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

西洋経済史

032

Economic History

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

人文地理学

033

Human Geography

地表面における人間の生活や活動のありようを、地域的同質性や差異といった空間的視点から考察する人文地理学という学問について概説します。人文地理学の重要な分析手段である地図や、地域や分布や伝播などの人文地理学における主要概念の理解と応用を目指して、各種の具体的な事例を挙げながら解説します。

現代中国論

034

Contemporary Chinese Society

中国の名目国内総生産(GDP)は2010年に日本を追い抜いて世界第2位となった。2020年代には米国を抜いて第1位になるとの予測もあり、「21世紀は中国の時代」「世界の工場」といった将来性の高さが期待・注目されるが、その一方で、「バブルの崩壊」や「シャドーバンキング(影の銀行)」問題といった先行きへの懸念が取り沙汰されることも増えつつある。中国経済の高成長の背景には1970年代末以降の「改革・開放」政策による

経済的な資本主義制度の導入があるが、政治的には社会主義が堅持され、共産党の一党独裁が維持されている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえある。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

教育学(1)

035

Education(1)

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

教育学(2)

036

Education(2)

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

スポーツ・健康論

037

The theory of Health, Physical Fitness and Sports
現代社会における心身の健康に関する諸問題やスポーツをとりまく現状について考えるとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について解説する。

心理学(1)

038

Psychology(1)

心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学(2)

039

Psychology(2)

人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学概論

040

Basic Psychology

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたかを、最新の知見を通して学んでいく。また、いろいろな分野の知見を学ぶことで、心の不思議さや仕組みの理解・自己や他者への理解を深め、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係の育成といった、学習者としての資質向上をはかることを目指す。

心理学入門

041

Introduction to Psychology

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

社会とジェンダー

042

Gender in Society

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと思える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

国際化と異文化理解

043

Globalization and Intercultural Understanding
国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関

わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解すること、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

日本文化の伝承

044

Transmission of Japanese Culture

日本文化の一つである茶道は書道・華道・香道や能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされている。この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか、茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・点前の意義・懐石の意味やマナー、茶室などの数寄屋建築といった衣食住の重要性を学びます。

現代を生きる知恵を学びましょう。

論理学(1)

045

Logic(1)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である(この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また、そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

論理学(2)

046

Logic(2)

論理学は推論(前提からある主張を結論として導き出すこと)について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが(前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが)、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である(この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる)。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

生活とメディア

047

Media and Society

本講義では、日常的なメディアや、メディア利用状況を取りあげ、それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる。具体的には、ブリクラやケータイ小説、SNS といった、私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて、認知科学や社会文化学的の観点から概説する。またあわせて、講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係を取りあげる。

公衆衛生学

048

Public Health

共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進を図るため、環境保健、疾病予防、保健・福祉、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度および社会保障などの基本的概念を学ぶ。また、プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び、さらに、集団での各種疾病や中毒の予防、診断などについて、疫学、統計学などの技術を学び、科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り、応用として、健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には、シラバスにそって、公衆衛生の観点に立って健康を意識し、視野を高めると同時に、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は、保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において、特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持、増進を図る上で、極めて重要であるばかりでなく、そこで働く保育・教育者の健康の保持・増進においても、最も基本的で重要である。

現代の物理

049

Contemporary Physics

20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

科学技術と社会

050

Science, Technology and Society

現代の社会は、科学と技術の発展をもとに作られていて、科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし、一方で、科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり、地域一地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では、科学と技術の歴史をふまえ、それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

PBLによる産学協働演習

051

Industry-University Collaborative Practice on
Project Based Learning

授業形式は、グループワークによる討議とプレゼンテーションを中心とした演習とする。企業からの課題に対して、専門分野の異なる学生がグループワークを重ね、アイデアをプレゼンテーションし、それを企業が講評するというPBL (Problem based learning) である。グループワークによる実社会の課題への取り組みや発表・討論において、アイデア提案や議論、目標設定や計画の遂行を経験する。これらを通じて、社会人として必要な力を理解し、今後の学修に必要な主体性を体得することを目標とする。

ボランティア(1)～(2)

052～053

Volunteer(1)～(2)

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行う。

教養ゼミナール(1)～(2)

054～055

Cultural Seminar(1)～(2)

この科目は、名称・内容ともに各教員の積極的な提案により、双方向性を前提として少人数の学生を対象に開講する。学生はこの科目において、教員の熱意と蘊蓄を傾けたゼミ内容に魅せられるであろう。また、少人数で学年・学科を問わず履修できるので学生同士や教員との人間的な交流も深められるはずで、学生にとっても極めて有益であろう。

なお、教養ゼミナールは、4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として認められる。開講されるゼミは、年度によっても異なるので、時間割等で確認すること。

教養特別講義(1)(2)

056～057

Special Lecture of the Liberal Arts (1)(2)

外国語科目

Communication Skills(1)

058

Communication Skills(1)

本科目は一年生全員を対象にした必修科目である。プレースメントテストを実施し、その結果を踏まえ履修者を4レベル(基礎、初級、中級、上級)に分け、授業を行う。主にリスニングとスピーキングの練習を通じて、レベルに応じた英語コミュニケーション能力の向上を目標とする。リスニングに関しては、テキストの文字と音

声を照合させながら、音声への抵抗感をなくし、話し言葉における独特のリズムに慣れる。更にペアやグループワークを利用し、平易な英語を用いて、意思疎通が図れるように練習する。原則、基礎から中級レベルまでは日本語を中心とした説明を行い、上級クラスでは英語を中心として授業運営を行う。同じ必修科目のReading and Writing(1)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。The aim

Communication Skills(2)

059

Communication Skills(2)

Communication Skills(1)と同様、一年生全員を対象にした必修科目であり、4つのレベルに分けた授業を展開する。英語でのコミュニケーション能力を更に向上させることを目標とするが、基礎レベルでは基本的な表現を復習し、身近で日常の物事に関する簡単な情報交換を行う力を身につける。初級レベルでは簡単な話を作り、聞き取る実力を身につける。中級レベルではより実践的な会話を高め、英語話者と緊張なく会話ができるための技術を修得し、自信をつける。上級レベルでは更に上の英語運用力の開拓を目指し、自分の考えをより正確かつ流暢に表現できる能力の習得を目指す。本科目は原則、日本語と英語を織り交ぜた演習形式で実施するが、上級クラスでは英語を中心として授業運営を行う。同じ必修科目のReading and Writing(2)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

Reading and Writing(1)

060

Reading and Writing(1)

本科目は一年生全員を対象にした必修科目である。プレースメントテストを実施し、その結果を踏まえ履修者を4レベル(基礎、初級、中級、上級)に分け、授業を行う。平易な英語で書かれた様々な内容の文章を読み、読解力を向上させ、論理的な思考力を養成する。リーディング演習を通して語彙、文法、構文の英語基礎力を向上させ、平易な文章の主題を十分に理解すると共に、読んで得た情報について見解を表現できるようにする。また、トピックの背景を学び、異文化理解、知的好奇心を高める。同じ必修科目のCommunication Skills(1)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

Reading and Writing(2)

061

Reading and Writing(2)

Reading and Writing(1)と同様、一年生全員を対象にした必修科目であり、4つのレベルに分けた授業を展開する。様々な内容の英文を読み、それに関する見解を英

語で書くことを練習し、読解力と表現力の向上および論理的かつ批評的な思考力の養成する。リーディング演習を通して語彙、文法、構文の英語基礎力に加えて、パラグラフや全体の構成を把握し、十分に主題を理解すると共に、幅広い内容について、複数の見解を適切に関連づけ、自分の意見を詳しく記述するライティング力を養成する。また、トピックの背景をより詳しく学びながら、異文化理解を深める。同じ必修科目の Communication Skills(2)とのリンクを図り、同一トピックを各科目で扱うなどして、四技能統合型授業を目指す。

Basic English Training

062

Basic English Training

本科目では、初級レベルの学生を対象に、英語の基礎力を定着させることを目的とする。基本的な語彙や基礎文法の確認をすると共に、平易な英語が聞き取れるようになるよう、リスニング練習を重ねていく。また、比較的短い読み物の読解や、センテンスライティングも行い、読む、書く、聴く、話すという英語の四技能すべての基礎を固めることを目標とする。そして、テレビドラマや音楽、アニメ、絵本などの教材も利用しながら、多面から英語を学ぶ方法を体験し、英語や英語圏文化への興味を深めていく。また、学んだ内容を使って身近な事柄についての表現活動も行う。

Grammar(1)

063

Grammar(1)

本科目では、既習の基本的な文法を確認し、復習することを目的とする。平易な英文を読む際に、その理解の基礎となる文法力を養う。また、身の回りの出来事や個人的な経験について、日常生活語彙を用いて文章で表現する際に必要な文法事項を取り上げ、学習した知識を正確な英文で表現できるような基礎力を養う。また、構文の知識を深めるために、文の分析を行い、文法および構文の形式とそれが表す意味について検討を加えていく。

Grammar(2)

064

Grammar(2)

本科目では、基礎的な既習英文法を体系的に捉え直し、アウトプットに向けて文法理解をより一層深めることを目的とする。身近な事柄に関して、ある程度の文体を整えて文章を書く力を培う。特に、今まで学習した英文法が、単文や複文においてどのように機能するのか演習を通じて理解し、実際に使用できるようにする。また、より専門的な内容に関する言い回しや学術論文における文構造にも目を向ける。到達目標として、幅広い内容において、明瞭かつ詳細な文章を作ることができることを目指す。

Test Taking Skills(1)

065

Test Taking Skills(1)

本科目では、TOEICなどの資格試験の受験経験があまりない学生を対象に、効果的に点数を獲得するためのスキルの修得を目指す。資格試験で頻出の文法事項を初歩から徹底的に復習することで文法基礎知識の定着を図ると共に、語彙力を増強し、リスニング、読解力を養成する。リーディングでは、素早い読解に必要なスキミング、スキミング力を、リスニングでは、短い設問のポイント素早く掴むコツをそれぞれ身につけていく。特にリスニングでは、イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリアなど、国によって異なるイントネーションやアクセントにも対応できるよう演習を重ねる。

Test Taking Skills(2)

066

Test Taking Skills(2)

本科目では、問題演習をこなすことで、資格試験の問題の傾向やパターンへ対応力をしっかり身につけていく。曖昧な点についてはその都度きちんと理解し、疑問点は必ず解消するようにして、苦手な箇所に重点をおきながら学習に取り組んでいく。高得点獲得に必要なスキルに焦点を当てながら、英語学習の方法論や姿勢まで身につけることで、目標スコア到達の先に広がっている可能性を意識し、学習意欲を高めていく。リスニングでは完璧に近い理解をめざし、リーディングでは速読訓練により、問題の解答速度アップを目標にして、本番での対応力を身につけていく。

Test Taking Skills(3)

067

Test Taking Skills(3)

本科目では、主に海外の大学進学希望者を対象に、IELTS、TOEFLなどの資格試験での高得点取得を目指す。授業では、英文の効率的な読み方・聞き方を本格的に修得し、「試験の各設問では何が問われているのか」を確実に把握する。語彙や文法問題が苦手な人には読解を再確認し、日常的に英語に触れる機会のない人にはリスニング力を中心に効果的にスコアを伸ばせる授業をアレンジする。同時に、スコア達成に必要な不可欠なレスポンス力、速読の秘訣、時間配分の育成も図り、早く読む練習、正答率を上げるストラテジーを学んでいくことで、本番での対応力を身につける。

Critical Reading(1)

068

Critical Reading(1)

本科目では、平易な英文をたくさん読むことで、基本的な英語読解力の定着をはかる。精読とは異なるアプローチ（多読・速読中心）により、英語を英語のまま理解する力を伸ばすと共に、読み物の内容や背景について考え

ようとする姿勢も身につける。基本的なリーディングストラテジーを段階的に身につけ、直読直解につなげることを目標とする。さらに、英語を読むことを通じて、積極的に英文のメッセージを読みとろうとする好奇心や、それに対して自分の意見を発信しようとする姿勢を体得する。

Critical Reading(2)

069

Critical Reading(2)

本科目では、基本的な文法事項を学んだ学生を対象にし、雑誌記事や論説文、学術論文などを通じて、英語読解力を鍛え、論理的な議論や表現方法を学ぶ。多種多様な英文を読みこなしていくことで、語彙を増やししながら、定型表現などに触れ、英文の論理を読み解く力を養成する。英語特有の表現方法や、日本語と英語との言語構造や習慣の違いなど、言語に対する洞察を行うことで、より深い英文理解を目指す。ディスカッションや英語で意見を述べるなど、スピーキングやライティングの技能も共に鍛えることで、文章読解のより深いレベルを目指す。

Critical Reading(3)

070

Critical Reading(3)

本科目では、欧米の新聞記事やニュース、学術的な文章などを通じて、物事を深く理解するための多面的な視野を習得する事を目標とする。英文の表面的な意味の把握だけでなく、筆者の主張や立場、その背景にある社会事象や文化などもリーディングを通じて学ぶ。また、英語によるディスカッションやライティングなど、リーディングを土台にしたうえで、コミュニケーションや表現力などアウトプットのスキルも総合的に鍛えることを目指す。基礎的な英文を正確に理解し読みこなす力があることが受講の前提となる。

Critical Listening(1)

071

Critical Listening(1)

本科目では、初級レベルの学生を対象とし、特に聴解力養成に主眼を置いた授業を展開する。授業では、英語と日本語の音声の違いを確認し、英語特有の発音やリズム、そして脱落、同化、弱化、リエゾンなどの音声変化を体系的に習得しながら、英語を正しく聴き取る力を身に付けていく。そして、日常生活での簡単な会話表現を学びながら、ロールプレイやペアワークなどの演習を通して、英語でのコミュニケーション力を養うことを目指す。

Critical Listening(2)

072

Critical Listening(2)

本科目では、主に映像作品や英語圏の音楽などの文化的な教材を活用して英語を学ぶ。リスニング、ディクテ

ション、読みの演習を交えながら、英語特有の音声変化やリズムに慣れ、速いテンポの会話にも聞き取れるようになることを目指すほか、シチュエーションに応じた英語表現を学んでいく。そして、場面の再演、ロールプレイなどを通して、英語での発話力の向上にもつなげる。また、授業で扱う文化的産物に表象された歴史や文化的背景、社会問題を知り、それに関する討論なども行いながら異文化理解を深め、批評的思考を養う。

Critical Listening(3)

073

Critical Listening(3)

本科目でも、映像作品や音楽などの文化的な教材を活用しながら、さらなるリスニング力向上を目指す。標準的な英語の発音だけでなく、様々な国で話される英語のアクセントにも慣れ、また、多岐にわたる場面で発話される英語のニュアンスをくみ取り、それを実際に運用できる能力も養う。さらに、扱う教材に関するリサーチプレゼンテーションや討論も行うことで、批評的に読み、聴き、考える力も高めていく。授業は原則として英語で行われる。

Communication Strategies(1)

074

Communication Strategies(1)

本科目は、初級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。対話形式の演習により、英会話を行う上で必要な基礎的な技術を身に付け、人前で臆せず話せるようになるための自信を培うことを目標とする。4技能を統合した能動型授業活動を通じて、言語発話や内容理解の過程に目を向け、学生自身の考える力も伸ばすことを目指す。そのため会話の演習に留まらず、リーディングやライティング活動を踏まえた討論等の授業活動を重視する。

Communication Strategies(2)

075

Communication Strategies(2)

本科目は、中級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。多種多様な文化的・社会的事項に目を向け、言語としての英語のみならず、英語圏の文化・社会的背景に対する理解を深めることを目標とする。本科目ではリーディングやライティング活動を踏まえた4技能統合型の能動学習活動を促すことに加え、使用に注目した文法理解にも目を向ける。英語に関する教養や技能向上を推し進めることで、上級クラス履修の足掛かりとする。

Communication Strategies(3)

076

Communication Strategies(3) Modern Society

本科目は、上級レベルの学生を対象とした技能向上型の科目である。対話形式の演習を通じて、効果的な意見の

伝え方や発話の言語構造に目を向けることで実践的な英語力向上を目指す。一般会話に縛られた活動を飛び越え、自らの意見を説得力ある形で英語にて産出する演習を重ねる。ペアワーク・ディスカッション活動やスピーチ後の質疑応答等によって、よりアカデミックな考察力や教養を培い、グローバルな社会人としてのスキルを身に付けることを目標とする。本科目はでは英語の使用を原則とする。

Academic English(1)

077

Academic English(1)

今日、大学では学問領域を問わず、いかなる分野でも自らの考えを構成し、効果的に発表するプレゼンテーションやパラグラフ・ライティングの能力が求められる。本科目では、1年次に修得した英語の基礎スキルを土台として、大学生に必要なリサーチ、プレゼンテーション、ライティングの各能力を養成することをねらいとする。テキストとオンライン教材を使ってグローバルな状況を意識した授業を実施する。英語プレゼンテーションでは必須である原稿作成のための文章構成、論の展開、発表スタイル、また質疑応答の仕方について学ぶことができる。

Academic English(2)

078

Academic English(2)

Academic English(1)で習得した・英語プレゼンテーションやパラグラフ・ライティングの能力をさらに高めるため、課題テーマへのグループ・プロジェクトも取り入れる。そのプロセスでは受講生が相互に相互評価し合い、改善について議論を行う。効果的なプレゼンテーション技能の修得、及びライティングによる表現力向上によって、さらに自己発信能力を高めることを目指す。オンライン教材でも利用されるTEDや学術雑誌・論文のサマリーなども教材として活用し、実践的なコミュニケーション能力を向上させることをねらいとする。

Academic English(3)

079

Academic English(3)

海外留学やインターンの希望者や経験者、また将来、職業・研究等で高い英語コミュニケーション能力を必要とする人向けの科目である。受講生の関心に合ったテーマをもとにプロジェクトを設定し、そのプロセスでは英語による問題発見及び解決のためのディスカッションを重ねてテーマを探究する。個人のみならずグループ活動も重視し、対話、交渉、問題解決に必要なコミュニケーション能力の修得をめざす。授業は原則英語で行われる。

Literature in English(1)

080

Literature in English(1)

本科目は、初級レベルといえる英語圏の絵本や、児童文学を含む平易な文学作品をはじめ、様々な作品に多く触れることによって読解能力を伸ばすと共に、文学を知り、理解するための入門コースである。英語圏だけでなく、英訳された他言語圏の文学を扱い、詩、戯曲、小説、自伝など、さまざまな文体と形式をもった作品を活用しながら、文学の土台となる知識を深め、その活用方法についても実践的に学んでいく。文学を聴くこと及び読むことによって理解し、文学作品に含まれるテーマ、登場人物、視点、背景、シンボリズムなど、作品分析に欠かせない要素についての知識を深める。

Literature in English(2)

081

Literature in English(2)

本科目では、Literature in English(1)の既修者や、すでに文学に馴染みのある学習者を対象とし、英語圏だけでなく、英訳された他言語圏の文学も扱いながら、文学理解をさらに向上させる。作品分析・批評の手法を確認しながら、作品の内容のみならず、作家や作品の文化的・歴史的・社会的背景についての知識を深め、読解力、分析力、批評力を高めていく。授業は、発表や討論を中心に進められる他、クリエイティブライティングのコツも学んでいき、簡単な創作活動にも挑戦する試みを行う場合もある。

Global Culture(1)

082

Global Culture(1)

世界には多様な文化がある。複雑化した今日の社会をより理解しようとするためには、様々な民族、宗教、生活様式、歴史等の「文化」を考慮することが多分に求められている。本講座では、世界の文化を学問的に理解するための入門講座として位置づけられている。授業で扱う具体的なテーマ例としては、欧米圏の社会風俗や世界各地の神話伝承、言語の歴史といった内容があげられる。上記等のテーマを通じて異文化に触れ、異文化と自国文化との差異を考察することで、個々の受講者自身にとって重要な気づきを得ることができよう。講義は日本語で行い、受講に関して特別な要件は設けない。

Global Culture(2)

083

Global Culture(2)

一口に文化といっても、その内容には多様性がある。本講座では、世界の文化に関するトピックを取り上げて、それについて多角的に考察し、議論することを目的とする。例えば、アメリカの黒人文化を扱う場合、社会状況、様相、アメリカ大陸へ辿り着いた歴史、使用言語等、様々

な視点でその文化の特徴を考察することで、トピックに関するより深い理解が得られるだろう。またそうした考察、議論を通じて新たな視点が生みだされ、他の事例に応用できることも期待できる。原則として、英語を使用する講座となるため、ある程度英文や英語の音声に慣れている学生の参加を求めたい。

Language Sciences(1) 084

Language Sciences(1)

言語学は過去から現在に至るまでの言語を対象とし、その形式や役割を分析・研究する学問範囲である。人間の主要行動の一つである言語を分析することで、人々がどのようにして言語と向き合い、使用し、発展させているのか、また言語とは何かを問う。本講義は入門科目として、初めて言語学を学ぶ学生（文理を問わない）を対象とする。言語学の諸分野（音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論等）を切り口にして言語の成り立ちや構成、メカニズムを考察する。我々の「ことば」に対する知見を広げることで、教養を高めることを目標とする。講義は日本語で開講し、履修のための特別な事前条件は設けない。

Language Sciences(2) 085

Language Sciences(2)

言語活動は単に意味伝達の手法に限らず、むしろ規律正しく構成された社会行動でもある。本講義は実証的な観点から我々の言語活動を科学する。本科目では言語の実例に基づき、言語の音声分析や会話構造の規律性といったマイクロ分析や、言語学における統計学などマクロ的な手法を導入する。これら分析手法は文理を問わず他分野に応用できる教養である。言語分析を切り口として、各種分析手法の理解や実践を経て、最終的には実際に研究を行い結果の産出が出来るようになることを目標とする。本科目は原則英語で行う。また、入門科目である Language Sciences(1) との同時・事前履修が望ましい。（ただし履修のための必須条件ではない。）

Global Society(1) 086

Global Society(1)

インターネットで繋がれた現代社会においては、情報は瞬時に全世界へと流れていく。そしてその情報の大半は、英語によってもたらされる。この科目では、刻々と変化する現代社会で起きている出来事について、英語を通じて情報収集し、理解し、批判的考察を行うための基礎力を養うことを目的とする。扱う内容は、受講生にとって身近な話題である、世界の同年代の人々の生活や、文化、価値観等で、受講生はソーシャルメディアを含めたメディアを通じてもたらされるこれらの話題について英語

で情報を視聴し、正確に内容を理解し、その事象への興味関心を深めていくことが期待される。

Global Society(2) 087

Global Society(2)

Global Society(1) で学んだ知識を基に、グローバルシチズンシップの感覚を養うことを目的として、英語を通じて情報収集し、理解し、批判的考察を行っていく。この科目を通して、他人を尊重すること、個人の権利と責任、人種・文化の多様性の価値など、グローバルな社会の中で円滑な人間関係を維持するために必要な事柄への気づきや発見を促すことを目的とする。扱う地域や話題は、地球規模で起きている環境問題や人種、紛争問題、その背景となる歴史、経済問題等を主とする。受講生はこれらの話題について正確に内容を理解し、自らの意見を発信することが期待される。

海外・特別選抜セミナー 088

English seminar for Overseas Study

本学が指定した海外の施設や大学等での語学研修に参加する。これらの活動を通じて、対象とする言語の習得を促すとともに、国際的な視野や異文化理解など、現代社会で必要とされるバランス感覚や判断力を磨くことを目指す。必要に応じて事前研修や帰国後の成果発表などを課すことがある。研修先での授業時には、自主的かつ積極的な授業参加を前提とする。語学への学習意欲のほかにも、授業や研修に対して貢献する積極的な態度、異文化への洞察力、本学の学生としての責任感などを持って参加することが望まれる。

外国語特別講義 089

Learning English for Specific Purposes

本科目は、世界各国に関わる様々な議題を扱う上級者向けの講座である。外国語学習と密接に関わる文化・社会背景に注目し、領域横断的な学習活動を経て教養を身に付けるとともに、他者を理解し尊重する姿勢を培う。日本を含む世界各国の歴史、文化、社会情勢、経済問題などについて知識を深めながら、批判的な考察を行い、議論や発表を通して、自らの考えを明確に表現できる力を養う。グローバル社会において様々な他者と関わる中で、自分が何をしたいか、何をすべきか、何ができるかを常に考えながら生きることが出来る基盤を築きたい。

ドイツ語(1) 090

German(1)

本科目はドイツ語初級者向けの授業である。ドイツ語がどのような言語であるかを理解し、人称代名詞や動詞の変化など、最も初歩的な文法事項を習得していく。そし

て、それら基底知識を活用して、短文理解や、挨拶や自己紹介をはじめとした、簡単な会話表現ができるようになることを目指す。授業ではドイツ語技能検定試験（独検）5級レベルを見据え、日常生活でよく使われる簡単な表現や会話を演習を通して身につけると共に、ドイツ語圏の文化や社会にも触れていく。

ドイツ語(2)

091

German(2)

本科目は原則ドイツ語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的な動詞の使い方や、名詞の性と格など初級文法全般を身に付け、日常生活に必要な基礎表現の習得、発音精度の向上を目指し、より幅広い話題での読解力やコミュニケーション能力を会得する。また、また、授業ではドイツ語圏諸国に関する歴史や社会、文化背景などの話題を扱い、異文化理解も深めていく。ドイツ語技能検定試験（独検）4級レベル以上への到達を目指し、簡単な内容のコラムや記事などの文章を読む等のより実践的な演習が中心となる。

フランス語(1)

092

French(1)

本科目はフランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項や発音の習得や、辞書の使い方を定着することで、中級以降へ進むための基盤を培う。実用フランス語技能検定試験（仏検）5級レベルへの到達を目標に設定し、単に文法や単語を覚えるだけでなく、演習を通して、習熟度を高めていく。授業においてはフランス語の基本的な語彙や文法項目を中心に、簡単な作文や日常会話で頻度の高い基本的表現の理解と運用を重視すると共に、フランス語圏文化や社会についても学んでいく。

フランス語(2)

093

French(2)

本科目は原則フランス語(1)を履修済みの学習者を対象とする。フランスの歴史や社会、文化背景など幅広い話題に注目しながら、平易な内容の読解活動などを通じて既習の文法知識を定着させる。フランス語の質問に対し、聴いて理解でき、それに対する応答が臆さずできるようになるだけでなく、フランス語圏諸国に関しての知識を増やししながら、ある程度の分量の文章を正確に読み解く力の習得を目標とする。実用フランス語技能検定試験（仏検）3級～4級レベル到達を目指す。

スペイン語(1)

094

Spanish(1)

本科目はスペイン語初級者向けの授業である。スペイン

語圏の社会・文化について学びながら、スペイン語の基礎的なコミュニケーション能力の獲得を目指す。具体的には発音練習や辞書の使用法への理解を基に、本言語独特な動詞の活用や時制の用法など最も初歩的な文法事項の定着と運用力の構築を目指す。授業では発音練習、基本的な挨拶表現や言い回しの練習から始まり、品詞変化や活用を理解するための演習が中心となる。また、自己・他者紹介や日常生活でよく使われる平易な表現が運用できるよう発話を中心にした活動も行う。

スペイン語(2)

095

Spanish(2)

本科目は原則スペイン語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的なスペイン語を理解し、初歩的な文法を駆使し日常生活に必要な表現や幅広い話題における文の運用に注目する。スペイン語圏諸国の歴史や社会、文化背景を扱いながら、基礎文法の理解を固め、より複雑な文章を理解し運用出来るようにする。授業では、ある程度まとまった文の読解活動や、身近な話題に関する表現や質疑応答を伴う発話活動などを中心に行う。授業においては適時、必要に応じて発音練習や文法事項の解説、語彙の確認を行う。

イタリア語(1)

096

Italian(1)

本科目はイタリア語初級者向けの授業である。イタリア語の最も基礎的な文法事項を学び、発音を習得しながら、イタリア語の初歩的なコミュニケーション力を培う。特に、挨拶や自己紹介など日常生活で必要となる表現が適切に使えるようになることを目指す。辞書の使用法も学びながら、発音練習を重ねると共に、ペアワークなどを通して臆せず発話ができる力を獲得する。授業では、基礎文法の定着を目標とした活動や演習を行うほか、イタリアの文化にも触れていく。

イタリア語(2)

097

Italian(2)

本科目は原則イタリア語(1)を履修済みの学習者を対象とする。発音を含む基礎文法の知識をさらに深めることで、より実践的な水準に到達することを目的とする。一般会話における言い回しや表現を身に付けることに限らず、幅広い話題において比較的簡単な文の発話や筆記が出来るようになることを目指す。授業では歴史や社会、文化などイタリア語に関する背景知識を扱いながら、ある程度まとまった文章の読解活動も行う。授業においては適時、必要に応じて発音練習や文法事項の解説、語彙の確認を行う。

中国語(1)

098

Chinese(1)

本科目は中国語初級者向けの授業である。基本的な語法を学ぶとともに、発音の練習に重点を置き、中国語独特の音声構造が体に染み込むまで徹底的に訓練すると共に、長い歴史に培われてきた中華文明のエッセンスもあわせて紹介する。中国語のローマ字表記が間違いなく発音できるようになること、簡単な中国語を聴き取り、声調 (tone) を判断し、なおかつローマ字で表記できることを目指す。簡単な会話や自己紹介も臆さずできる心持ちも育みたい。

中国語(2)

099

Chinese(2)

本科目は原則中国語(1)を履修済みの学習者を対象とし、そこで学んだ事柄を土台にして中国語の基礎を確立する。発音の反復練習を続けながら、より複雑な語法と表現に踏み込み、短文読解を通して中国語独特のロジックを体感することで、今後とも継続して自学自習できる素地を固めていく。より実践的な会話練習も行いながら、「中国問題」と呼ばれる事象も取り上げ、現代中国の実状にもアプローチする。中国語の簡単な読み書きとリスニングができるレベル、具体的には中国語検定4級以上を目指す。

アラビア語(1)

100

Arabic(1)

本科目はアラビア語初級者向けの授業である。基本的事項としてアラビア語文字といくつかの定型表現への理科を深め、挨拶や日常生活で身近な会話表現や言い回しを学習する。基礎的なアラビア語の発音や規則を理解し、初歩的な文法を使って日常生活に必要な表現や文が運用できることを目標とする。またアラビア語母語話者の文化や生活習慣について学び、アラブ・イスラム文化についての理解を深める。基本は演習形式で進め、ロールプレイなどを用いて日常生活でよく使われる平易な表現を会得できるよう発話を中心にした活動も行う。

アラビア語(2)

101

Arabic(2)

本科目は原則アラビア語(1)を履修済みの学習者を対象とする。基礎的なアラビア語の文法や語彙を復習し、挨拶や簡単な会話内容に限らず、より幅広い場面でのコミュニケーションが行える力を養う。アラビア語の基礎的な文法事項・単語の定着を目標とするほか、アラビア語圏諸国の歴史や社会、文化背景について理解を深めることも目指す。授業では、ある程度まとまった文の読解活動や、身近な話題に関する表現や質疑応答を伴う発話活

動などを中心に行う。

韓国語(1)

102

Korean(1)

本科目は韓国語初級者向けの授業である。韓国語の文字や発音、初歩的規則を学習し、中級以降へ進むための基底能力を付ける。韓国語文字 (ハングル) を定着させ、基本語彙、初歩的文法を習得しながら、日常生活における基本的表現の会得を目指す。授業では辞書の使い方から始まり、発音練習、会話表現の言い回し、読み書きを含む演習を中心に活動する。こうした韓国語の学習を基盤に、韓国の文化、歴史や、韓国人の価値観等も考察し、韓国語・韓国文化への理解を深めていく。

韓国語(2)

103

Korean(2)

本科目は原則韓国語(1)を履修済みの学習者を対象とする。既習の韓国語の文型、語彙、表現を基礎に、新しい表現を徐々に加え、目、口、耳を使った総合的な訓練を繰り返し行う。韓国の歴史や社会、文化背景など幅広い話題に注目しながら、平易な内容の読解活動などを通じて、韓国語能力試験初級以上の取得にも対応できるようにする。授業は基本的に演習形式で、基本的表現の練習や自己表現、相手への質疑応答などを含む発話活動を行う。日常会話に必要な豊富な語彙を習得していくと共に、豊かな表現力を身につけていく事を目標とする。この授業では、韓国語能力試験初級合格も目指したい。

日本語表現

104

Advanced Japanese

本科目は本学で学ぶ留学生に向けた日本語科目である。一定の日本語力を保持しながらも、より高い運用能力の構築や日本に関する知識・教養に興味のある留学生を対象とする。日本語特有の複雑な会話構造や文法、言語に関する態度や規律等、日本語の使用に目を向けた様々な授業活動を行う。また、ペアワークやディスカッション等を活用し、授業内外問わず能動的に日本語が使用できる環境を提供する。日本語能力試験に耐えうる力の育成や、日本における文化背景や社会情勢等に理解を深めることを目指す。

体育科目

基礎体育(1)(2)

105～106

Physical Training(1)(2)

近代科学の発展は、経済的に恵まれた国民生活を誕生させてきた。しかしその一方では、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など、心身の健康に

関する現代的課題が深刻化している。このような状況において、スポーツを通して心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業では、受講者がバレーボール、ソフトボール、テニス、卓球から1種目を選択し、週1回の授業を通して運動習慣を身につけ、生涯スポーツの基礎とする。

応用体育(1)(2)

107～108

Advanced Physical Training(1)(2)

現代社会において、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など心身の健康に関する問題が深刻化している。このような状況の中で、生涯にわたって親しむことができるスポーツを身につけることによって心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業ではテニス、バドミントン、球技等の種目を開設する。週1回の授業を通して運動習慣を身につけ、生涯スポーツの考え方をより深めていく。
※ゴルフ・スキー等の集中授業もあります。

専門基礎科目：基幹科目

マーケティング概論

109

Principle of Marketing

本科目は都市生活学部教育課程の基礎となる「商学」における主要な分野であるマーケティング論の概要を学習する。まず、マーケティング・プロセス全体の流れと、その主要な構成要素を理解することで、マーケティングに関する基礎的な理解を築く。最初に、生産、製品、販売の各コンセプトとの対比でマーケティング・コンセプトの必要性を理解する。次に、マーケティング環境情報の収集と分析に基づくマーケティング戦略立案の基礎を理解する。その後、ターゲット・マーケティング(STP)について、市場の細分化、標的セグメントの選択、選択したセグメントにおける差別化/ポジショニングの基礎的な学習をする。そして、設定したSTPを具現化するためのマーケティング・ミックスの構築方法について学習をする。すなわち、製品施策、価格施策、流通施策、販売促進施策立案に必要な基本についての理解である。また、サービス経済の拡大を反映して、サービスマーケティングについても、製品マーケティングとの対比という視点で解説をする。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するための専門科目」に該当する。

経営学概論

110

Principle of Business Management

この講義では、経営学の観点から、企業活動やビジネス

に関する基礎知識について解説する。企業は商品やサービスを生み出して人々に提供する生産者であり、現代社会を支える重要な存在である。企業の活動や仕組みを理解するために、この講義では、組織、戦略、ガバナンス、財務、知識・情報、社会的責任といった多様な切り口から、具体例を挙げながら解説する。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー4「商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論、芸術・工学的方法論という複眼的な方法論を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目を設定する」、ディプロマポリシー3「都市生活についての総合的・横断的な知識を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、それらを応用して魅力的で持続可能な都市生活の創造に導く構想力および実践力を身に付けている」と関連している。

都市計画(1)

111

Urban Planning(1)

この科目は、都市計画を初めて学ぶ若い学生諸君を対象に、都市計画に関する基礎知識をひととおり知るための講義である。講義では、具体的な事例を交えながら、都市計画図、建築規制、事業制度、策定プロセスなど、都市計画が現実はどうやって行われているのかを知るとともに、都市計画の歴史や、日本と欧米の制度の違いなど、都市計画を考える基礎的素養を身に着ける。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシーの「社会科学的方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連している。

都市の経済学

112

Urban Economics

この講義では、経済学の視点から、都市や地域をめぐる諸問題がどのように理解されるのかについて解説する。具体的なテーマは、地域間の人口移動、都市化、住宅価格、土地の利用方法、都市の規模、企業立地、混雑と渋滞、地方政府の役割と多岐にわたる。必要に応じて経済学の基本的な考え方についても解説するが、都市や地域をめぐる問題への応用を主な講義内容とする。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー4「商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論、芸術・工学的方法論という複眼的な方法論を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目を設定する」、ディプロマポリシー3「都市生活についての総合的・横断的な知識を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、それらを応用して魅力的で持続可能な都市生活の創造に導く構想力および実践力を身に付けている」と関連している。

専門基礎科目：基礎共通科目

世界の住まい

113

Housing Around the World

都市のデザインコースの入り口として、住居を世界の地理的、歴史的な視点から観る初歩的な方法を学ぶとともに、多様な住まいづくりの基礎的素養を身につける。

具体的には、まず現存する世界各地の気候風土、歴史文化の違いが生み出した多様な住居形態を具体的にレビューした後、主として産業革命以降の欧米で展開した近代から現代の生活・建築に関する時代思潮とともに、著名な建築家等によって構想・実現されてきた代表的な事例を通して、その概要について学ぶ。最後に現代の日本における多様な住宅を観察しながら、これからの「住まい像」を構想する視点について考察する。

本科目の内容は、将来、住宅の計画・設計だけではなく、住まいに関する営業やコーディネーション等の業務にも役立つような基礎的知識の涵養を骨子とする。

なお、この科目は、カリキュラムポリシー1、ディプロマポリシー1と関連している。

都市の文化・芸術

114

Urban Culture and Arts

ファッション、ブランド、エンターテインメント、レストラン、カフェ、出版、サロン、広場、大通り、商店街、モニュメント、ホテル、空港など、都市文化を生み出した歴史を考察。都市文化を生み出す多種多様な要素について学習する。なおこの科目は、カリキュラムポリシー1、ディプロマポリシー1に関連している。

世界の都市

115

Cities Around the World

この講義においては都市文化や都市経営を学ぶためにまちを観る視点を伝え、世界のまちづくりについて専門的な学習を開始するに当たっての基礎的素養を身につけさせることを目的とする。具体的には、世界各国の風土や歴史を代表する都市や街を対象に、各々のまちの創られてきた過程、特徴となる文化、社会、都市空間や建築、新しい街づくりの動きなどについて教授する。都市生活を学ぶうえでグローバルな視点を持ち、歴史や文化異なる世界の都市を理解するため重要な基礎的知識を養う重要な科目である。世界の都市の発達過程や、歴史文化的な特性や相違点を含め、総合的に学ぶ。

民法と商法

116

Civil Law and Commercial Law

民法とは、夫婦親子関係などの身分関係や生活必需品の取引関係を規律する私法の基礎法（一般法）をいう。営

業に関する組織や経済商取引を合理的かつ画一的に形成するための特別法として商法や会社法がある。「特別法は一般法に優先して適用される」という関係があるが、商事に関して商法や会社法に規定がない場合は、民法の規定が適用されるという関係にある。本講義では、私達の日常生活において適用される民法の重要事項を概観した後、民法と商法とで異なった扱いがなされている事項および経済商取引において中心的役割を担っている「会社」および「手形・小切手」に関する基本を学ぶ。なお、この科目は、カリキュラムポリシー1、ディプロマポリシー1と2に関連している。

会計学概論

117

Principle of Accounting

経営の一領域を占める会計分野について全体の概要を述べるとともに、その入門から意義、活用方法などについて段階的に講義する。また、それを活用した事業収支計画の作成について解説する。具体的には、基本である財務諸表の構造と意義を把握することで、財務諸表を「読み解く」ことができるようにする。また、事例分析を基に経営分析の考え方についても概観していく。後半ではそれらを利用して各自事業収支計画の作成をしてもらう。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシー4「商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論（中略）を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目」およびディプロマ・ポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に、社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に修得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」に対応している。

経営財務

118

Bookkeeping Theory

経営に関わる資金の働きについて学習する科目である。経営の基本的要素はよく「ヒト、モノ、カネ」と言われ、資金に関しては非常に重要な要素であるとされている。主として資金の調達、管理、運用が対象となるが、管理の部分は会計的な分野と共通するものである。都市の開発、運営においても財務の側面は必要不可欠であり、事業の成否を左右するものである。このため、経営だけでなく都市における資金の働きにもテーマを広げ、その調達、管理、運用の仕組みについて理解し、修得することを目指す。

なお、この科目は本学部カリキュラムポリシー4「商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論（中略）を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目」およびディプロマ・ポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に、社会科学的方法論と芸術・

工学的な方法論を複合的に修得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」に対応している。

統計と分析

119

Statistical Analysis

近年、ビックデータをはじめ、データサイエンスの可能性が広がっているなか、その根幹となる学問である統計およびデータ分析に関する基礎的知識が必然となっている。この科目では、情報の集計や分析のための基礎的手法および幅広い事例を学ぶため、社会経済研究に向けた知識を提供する。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー1と関連している。

専門基礎科目：演習領域

コンピュータ演習

120

Computer Practice

この演習では、情報社会の必須の文房具として、パーソナルコンピュータの基本操作をマスターし、大学の講義、演習、レポート作成などに対応する。まず、ワープロソフトによる文章の作成、表計算ソフトの操作スキルを習得する。さらに、プレゼンテーションソフトを使用したグラフィカルなスライドショー作成スキルを習得する。以上より、都市生活学分野での文書作成、統計解析、プレゼンテーションの一通りの基本を体得する。なおこの科目は、カリキュラムポリシー2とディプロマポリシーの1、2と関連が深い。

グラフィックデザイン演習

121

Graphic Design Practice

自分の伝えたい情報を文字だけでなく効果的な図版や写真を使ってグラフィカルに表現するスキルは、デザイン領域に限らずあらゆる分野で重要である。本演習では、デザインの現場で標準的に使用されているPhotoshop, Illustratorを用いて、分かりやすく洗練された情報伝達を行なうための基礎的な考え方やスキルを習得する。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーにおける「専門スキル向上のための演習型授業科目」に該当する。また、ディプロマポリシー2の中の「芸術・工学的な方法論」の一つに該当している。

まちの観察

122

Urban Observation

まちづくりのテーマを発見するため、都市空間に係わる問題課題の抽出、街の個性把握のための総合的な街の観

察方法を学ぶ。まちを観察するには、フィールドサーベイによる自然、空間、生活などについての五感的観察と、地図・統計・計画・規制などの資料を通しての客観的観察の二つの方法があるが、この授業では五感的観察の手法を中心に学ぶ。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーにおける「専門スキル向上のための演習型授業科目」に該当する。また、ディプロマポリシー2の中の「社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論の修得」に該当している。

プレゼンテーション

123

Presentation

まずプレゼンテーションの意義や価値を理解し、パブリックスピーチとコミュニケーションについての基礎的な知識を修得する。それと共に、与えられた時間内に伝えたい内容を比較的多数の人々の前で、発表する経験を積む。こうした人前で話す準備ができた後で、プレゼンテーションをどのように構成していくか、訴求力のあるビジュアル表現をどのように準備するのか、という知識を得た後、実際のプレゼンテーションコンテンツを作成する訓練を積む。最後に、提示された課題に関して、グループでプレゼンテーションコンテンツを作成し、クラス全体に対してプレゼンテーションを実施する。なお、この演習は本学部のカリキュラムポリシー5「リサーチスキル、デザインスキル、プレゼンテーションなどの専門スキル向上のための演習型授業科目を設定する」と関連している。

空間デザイン演習(1)

124

Space Design Practice(1)

第一に将来どの分野に進んでも、都市や街の主要構成要素である建築を見る目を養うことが重要であり、建築の良し悪しを判断できる感性・能力を養うために、建築と都市に関連する数多くスライドなどでレクチャーする。第二に「建築はどのように存在しているか」を空間を構成する方法や構造架構の原理や方法を、身体的に体感し学習する。そして、空間形態の可能性を考えてみる。第三にCADが主流の時代であるが、デザインワークの基礎はハンドワークのドローイングにあり、手で思考することが大事である。ドローイングの基本である線の引き方、道具の使い方、などを学習し、平面図・断面図・立面図・パーススケッチ・模型制作・写真撮影など立体を表現する方法を学ぶ。頭に描いたイメージを出来るだけ早く他人（社会）へ図や模型等を使用して説明・表現をする能力とスキルを高めるため、造形について深く考え、また、理想の住宅の課題を通じて、身体的な寸法と空間の関係を考えたりライフスタイルの提案を表現できるようにする。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー3.「特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得する」、ディプロマポリシー2.「社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している」と関連している。

空間デザイン演習(2)

125

Space Design Practice(2)

空間デザイン演習(1)を継続する形で演習と講義を平行して行う。引き続き、建築を見る眼、建築の良し悪しを判断できる感性・能力を養うために、名建築を数多くスライドなどでレクチャーする。

空間デザイン演習(1)で培った空間の形成方法や手書き表現スキルを前提に、この学年の能力に見合った内容、規模の美術館のデザイン(対象アーティストの理解・コンセプト・ドローイング・模型製作など)を通じて空間デザインスキルを習得する。

また、この空間デザイン演習は作品を仕上げることはもちろんだが、毎週時間内におけるデザインに関する教員と学生の対話における、幅広い建築や都市を構成する知識を理解し学習することが大変重要である。つまり、デザインを行うときのプロセスを非常に重要視する科目である。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー3.「特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得する」、ディプロマポリシー2.「社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している」と関連している。

空間デザイン演習(3)

126

Space Design Practice(3)

空間デザイン演習(1)と(2)を継続する形で演習と講義を平行して行う。引き続き、建築を見る眼、建築の良し悪しを判断できる感性・能力を養うために、名建築を数多くスライドなどでレクチャーする。

空間デザイン演習(1)と(2)で培った空間の形成方法や手書き表現スキルを前提に、この学年の能力に見合った内容、規模の集合住宅のデザイン(コンセプト・ドローイング・模型製作など)を通じて空間デザインスキルを習得する。そして、周辺の近隣状況を把握しながら集まって住むことの重要な意義をインテリアデザインも十分に考慮して建築空間の構成の方法を習得する。

また、この空間デザイン演習は作品を仕上げることはもちろんだが、毎週時間内におけるデザインに関する教員と学生の対話における、幅広い建築や都市を構成する知

識を理解し学習することが大変重要である。つまり、デザインを行うときのプロセスを非常に重要視する科目である。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー3.「特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得する」、ディプロマポリシー2.「社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している」と関連している。

空間デザイン演習(4)

127

Space Design Practice(4)

空間デザイン演習(1)、(2)、(3)を継続する形で演習と講義を平行して行う。商業空間を含む様々な機能や用途を含む複合建築の空間構築スキルを身につけさせる。

敷地状況、敷地周辺や街の状況、社会や将来における様々なテーマをリサーチしながら自ら探し出すことを重視して、機能や用途を複合化させた建築を設計作品にする。設計図書・模型のスキルを向上させつつ、手書きとCGを使用しながら、複合化する建築と近隣周辺との新しい関係性を見出しプレゼンテーションする能力を習得する。都市生活学部として他の授業内容を十分に理解し応用する形で、生活者と街との社会の関係性や、地域の防災を考慮するなど、様々な大きな視点を重要とするが、一方で、非常に身体的に近い建築のディテールや家具のデザインまで踏み込んでデザイン提案をする。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー3.「特定領域の専門知識を深めるとともに、独創性と問題の発見力および解決力を養い、専門知識を実社会に活かす構想力と実践力を修得する」、ディプロマポリシー2.「社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得している」と関連している。

都市デジタルシミュレーション(1)

128

Digital Urban Simulation(1)

本演習は、都市空間や建築、インテリアデザインに至るすべての設計業務をデジタル環境によって行う基礎技術を習得することを目的としている。従来型の2次元手書き図面の作成とは異なり、本演習では3次元仮想建物モデルをPC内に組み立て、必要な図面データやパースイメージなど、各種建物情報を取り出して扱う新しいタイプの3D-CAD(ArchiCAD)を用いて建築教育を行う。これは新世代3D-CADと呼ばれ、設計業務の現業においても、設計者や施工者、設備メーカーやクライアントなどの各関係者において必要な情報を共有し、生産性を向上させるBIM(Building Information Modeling)の方

法論に基づいたものである。

演習では、単純かつ基本的な床・柱・壁で構成される建物（3階建中規模 RC 造ビル建築）を組み立て、階段・出入口・家具など建物部位を配置するという順序で、建物の成り立ちを理解させると同時に、上記 BIM の特徴の理解と基礎的な操作を習得する。また当該 BIM システムにおける温熱環境シミュレーション機能を用い、各自が構築した建築物の性能評価について基礎的な理解を得る。

尚この科目は、本学部カリキュラムポリシーのうえで、空間のデザインに資する専門知識の習得を旨とし（CP-2）、かつ、ディプロマポリシーのうえで都市に関する特定領域の専門知識の習得を以て都市生活の価値創造に寄与する実践力を醸成する科目として位置付けられている（DP-3）。

129～

都市デジタルシミュレーション(2)～(3) 130

Digital Urban Simulation(2)

本演習は、通常の 3D-CAD とは異なる、空間を構成する部位・部材に様々な属性情報を付与し管理する BIM (Building Information Modeling) システムを用いて行う。都市・建築・インテリアの計画段階においては、この BIM の特性を生かした各種シミュレーションによって設計品質の向上が見込まれる。本演習では、都市・建築・インテリアのコース別に、BIM モデルをベースとしてデータ連携を行い、エネルギー評価による環境計画、人の行動特性に基づいた導線計画、光のバランスを配慮した照明計画、アルゴリズムを応用した 3D モデリング、景観計画などを行う。また都市・建築・インテリアの各コースではそれぞれ、都市景観デザイン、住戸デザイン、商業施設・内部空間デザインを主たる構築対象とし、演習を進める。

尚この科目は、本学部カリキュラムポリシーのうえで、空間のデザインに資する専門知識の習得を旨とし（CP-2）、かつディプロマポリシーのうえで都市に関する特定領域の専門知識の習得をもって、都市生活の価値創造に寄与する実践力を醸成する科目として位置付けられている（DP-3）。

マーケティングリサーチ演習(1) 131

Marketing Research Practice (1)

本科目は、企業や組織のマーケティング活動に必要な顧客関連データの収集・分析・報告に関する演習である。マーケティング活動とは、顧客・消費者のニーズを起点に価格、製品、プロモーション、チャネルなどを設計することを意味するが、マーケティングリサーチはその各々の局面で必要に応じて実施される。マーケティングリサーチ演習(1)においては、こうしたマーケティング

リサーチの意義、プロセス、ステップを理解したうえで、定量的な方法により具体的課題に対するリサーチを演習形式で行っていく。なおこの科目は本学部カリキュラムポリシー5「リサーチスキル（中略）などの専門スキル向上のための演習型授業科目」およびディプロマ・ポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に社会科学的方法論（中略）を複合的に修得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」に対応している。

マーケティングリサーチ演習(2) 132

Marketing Research Practice (2)

本科目は、マーケティングに活用できる質的調査の方法を習得する演習である。質的調査は、社会生活を営む人たちが、具体的に「どのように」行動しているか、「なぜ」そのように行動しているかといった個別の体験にフォーカスし、聞き取り調査や参与観察によって探る調査方法である。ここでは質的調査の基礎的な原理と方法を学んだ上で、実際に調査を行い、そのデータに基づいた事業企画を提案する。なおこの科目は本学部カリキュラムポリシー5「リサーチスキル（中略）などの専門スキル向上のための演習型授業科目」およびディプロマ・ポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に社会科学的方法論（中略）を複合的に修得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」に対応している。

マーケティングリサーチ演習(3) 133

Marketing Research Practice (3)

本科目は、市場や社会の動向を理解するための統計データの分析手法を学ぶ演習である。現代では、数々の統計やビッグデータなど、企業や組織のマーケティング戦略の立案に用いることのできるデータは膨大にあり、それらのデータの適切な分析を通じて価値ある方策を導き出すことのできる人材が求められている。ここでは、回帰分析や因子分析など複数のデータの間の関係性を統計的に明らかにする基本的な分析手法を身につける。なおこの科目は本学部カリキュラムポリシー5「リサーチスキル（中略）などの専門スキル向上のための演習型授業科目」およびディプロマ・ポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に社会科学的方法論（中略）を複合的に修得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」に対応している。

専門科目：都市のライフスタイル

都市の社会学

134

Urban Sociology

都市は、「多くの人々が相互に関わりあうことによって生じる社会的な現象」です。本講義ではこのように社会的な視点で都市を捉え、その結果浮き彫りになるさまざまな問題について議論します。「都市社会学」の体系を深く理解するというよりもむしろ、現代の都市をめぐるさまざまな「社会課題」を手掛かりに、都市という問題を「人と人との相互作用」として分析する力を身につけます。このため講義では、現代の都市をめぐる多様な問題を事例を挙げて紹介するとともに、事前レポートやディスカッションを通じて理解を深めます。これらを通じて、自ら課題を発見し解決方法を提案していくことのできる「実践的研究者」の基礎となる知識と思考習慣を身につけることを期待します。本科目はカリキュラムポリシー1、ディプロマポリシー1に関連しています。

経営戦略論

135

Strategic Management

経営戦略とは企業が生存し続けるための基本方針である。企業は、市場ニーズの変化や技術進歩といった環境変化に適応し、ライバルとの市場競争に勝ち続けなければ、繁栄や成長を維持することはできない。この講義では、企業がどのような指針（経営戦略）によって持続的な競争優位を構築できるのかについて学ぶために、経営戦略の基礎的な理論から最新の理論まで解説する。合わせて、それぞれの戦略理論の事例についても学ぶ。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー4「商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論、芸術・工学的的方法論という複眼的な方法論を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目を設定する」、ディプロマポリシー2「商学・経営学的な知識を基礎に、社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている」と関連している。

エリアマーケティング

136

Area Marketing

地域の価値を生み出す、エリアマーケティングという、日本発想の新たな地域経営術に関する基本的かつ理論的な知識について学び、エリアマーケティングの実現に向けた事例を学習する。エリアマーケティングの定義および領域は多様であるため、幅広い分野での活用事例を通じて実践的な知識を身につける。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2、ディプロマポリシー3と関連している。

都市の財政学

137

Urban Public Finance

本講義では、地方財政（特に都市財政）の歴史・制度を概観し、地方財政制度のフレームとその意味について解説する。その上で地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの歳入、社会保障や公共事業などの歳出などの個別制度の理解とその課題について修得する。

財政は社会を映す鏡であり、他方、社会は財政を映す鏡であると言われている。この格言を念頭に、都市そして社会を理解するために、基本的な講義を基礎に時事問題への言及や特定の事例に適時、解説して具体的に講義する。

本講義はカリキュラムポリシーの「1. ...社会...に関する広い教養を修得」、3. ...4 領域において...総合的・専門的に、実践的に学べる科目」、4. 社会科学的方法論...複眼的な方法論を獲得」、ディプロマポリシーの「1. 複雑化する国内外の社会を見通す広い教養」、2. 社会科学的方法論を...複合的に習得」と関連している。

集客観光学

138

Urban Tourism Planning

都市観光の概念自体は新しいものではないが、都市観光が我が国で本格化したのは、比較的近年のことである。年間 3000 万人ちかいインバウンドに関する関心が大きくなる以前は、我が国の集客観光にとって都市は送り手としての対象（発地）であったが、観光立国が前面に打ち出されてようになって以来、都市は着地ベースのツーリズムを受け入れる市場あるいは商品としての機能ももつようになったからである。本講義では、集客学の観点からツーリズムを学び、次いで都市における集客とツーリズム、観光戦略の関係について学ぶ。最後にそれら学んだことから都市におけるツーリズムの集客の企画・計画、波及計測等を通じてアクティブに学ぶという手順で授業を進める。本講義の特徴は、集客学の観点、歴史の視点、事例の視点、理論の視点、国際化の視点等を重視していることである。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市生活の関する 4 領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に習得するための専門科目」に該当する。

広告コミュニケーション

139

Advertising Communication

広告という「企業が生活者にメッセージを伝えるためのコミュニケーション」について、最新動向から歴史の振り返りまで、事例を交えながら学んでいく。また、後半には実際に広告表現を創るクリエイティブの演習も行う。

なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市

生活に係る4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するための専門科目」に該当する。

ブランド戦略

140

Branding Strategy

本科目は、「都市のライフスタイル」領域に属し、複眼的な方法論の獲得により、企画・業務の実践に活かす能力を活かすために習得するものである。私達の生活の中には「憧れのブランド」が存在する。また、小売店に行くと、商品が持っている機能は大差がないのに、値段が高く、値引きには応じないというブランドが存在する。企業の立場からすると、こうしたブランドは、単なる商品と比較すると、高めの利益を得ることができるため非常に魅力的である。また、「このブランド以外では、私は満足しない」と言う熱烈で、長期的なファンが存在することで、安定したビジネスを創ることができる。もちろん、こうしたブランドはモノに限らず、サービスでも、また、街や国にも存在する。本授業では、こうした強いブランドを創る考え方や方法について理論と事例を用いて学習する。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーの「都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するための専門科目」に該当する。

集客学

141

Human Attraction

「ひとをあつめる」をテーマに街づくりや集客空間、都市デザイン、観光資源、文化などを統合した「集客学」を、学際的に学ぶことをめざす。集客を科学的に捉え、実践的に考察をすること、デザイン的な展開や仕掛けづくり等を考えていくことを目的とする。人を多く集めることのできる商業施設、飲食店、イベントを戦略的につくることのできれば「にぎわい」や「活気」が生まれ、繁栄が生まれる。集客資源、集客技術、集客施設、集客マネジメントなど集客に関する基礎を学びながら学術・文化・科学技術の発展に貢献するための方策などを検討する。「集客」を考えることは「都市とは何か」、「都市のデザイン」にも関係し、集客戦略、経営や地域への波及としての経済的な視点、また文化芸術の分野も含む。また観光や経営学への応用も考えられるとともに、デザインやイメージ等の感性の部分も集客学の要素である。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するための専門科目」に該当する。

専門科目：都市のマネジメント

プロジェクトマネジメント

142

Project Management

前半は、プロジェクトマネジメントの基礎的なキーワードの理解から10の領域の主としてコミュニケーション、スケジュール、コスト、リスクや情報の管理、品質とデザインの各マネジメントの基礎的な内容を学ぶ。後半は、建築・都市開発分野にフォーカスする。様々な複合開発を事例として、投資家、開発者、設計者、施工者、地域住民、利用者、運営者など多くのステークホルダーが様々に関わる中で、全体を見据えつつ横断的統括的に業務をリードし、社会的経済的文化的価値を創造していくプロジェクトマネジメントの思想・プロセス・手法について実践的に学ぶ。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーの3と4及び6の導入、ディプロマポリシー2と3と関連している。

住宅と不動産

143

Housing and Real Estate

日本の住宅市場は人口減少、住宅余りの現象から転換期を迎えている。新築中心の時代からリノベーションや海外展開など住宅市場も多様化してきている。そこで変化の激しい住宅市場に着目して、現状と課題、プレーヤの多様化などについて解説する。本講義では、住宅市場の全体を理解するとともに、住宅と関連ビジネスを中心に学習する。また、リノベーションなど派生してきた住宅産業ビジネスについても解説する。

本科目は、カリキュラムポリシー「複雑化する社会の中で、社会人としての確かな獲得」に関連し、ディプロマポリシー「都市生活についての総合的・横断的な知識を応用し、魅力的な都市生活を想像する構想力」に関連している。

都市空間の演出

144

Production of Urban Space

既存、あるいは、新規都市開発や社会資本の再創造により生成される多様な「都市空間」を定義・分類し、空間特性、機能、都市との関係、社会的意義を検証する。そして、その空間に相応しい「演出」が、街の賑わいづくり、人の流れ創出、新しいビジネス機会の創出、文化情報発信等を喚起することを実例に即して検証・考察する。特徴的な「演出」により「都市空間」はより魅力的になり、都市の社会的経済的価値向上に繋がっていくことを学ぶ。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーの3及び1、4、ディプロマポリシー2と関連している。

都市開発プロジェクト

145

Urban Development Projects

都市開発の分野は日本の基幹産業の一つとして、独自の
方法論で人材・技術・ノウハウが統合されストックされて
きた。近年、多くの開発事業者や商業事業者が、開発、
アセット、マネジメントなどのかたちで自らの得意領域
を活かし特にアジアを中心に海外進出を加速させ、2020
年以降は重要な輸出産業になると考えられる。将来、国
内外を問わず、開発プロジェクト・メンバーとして活躍
するための、開発企画の組み立て、組織編制、事業推進
のプロセス、プロジェクトマネジメント、公共貢献等の
基礎知識を身に付けさせるを目的とすると同時に、実際
の海外プロジェクト経験者による体験談を効果的に加え、
海外事業立ち上げと運営に向けての基礎的な素養の
育成を目指す。なお、この科目はカリキュラムポリシー
3、ディプロマポリシー2に関連する。

不動産ビジネス

146

Real Estate Business

不動産ビジネスは転換期を迎えている。日本では従来か
ら、オフィス賃貸やマンション分譲がメインであったが、
人口減少、少子高齢化、国際化等の環境変化によって、
不動産ビジネスも多様化してきている。本講義では、不
動産市場の全体を理解するとともに、不動産投資ビジネ
スを中心に学習する。また、リノベーション、インフラ
など派生してきた不動産ビジネスについても解説する。
なおこの科目は本学部のカリキュラムポリシー3.「「都
市のマネジメント」、「都市のデザイン」、「都市のしくみ」
の4領域において企画・業務の遂行力の獲得をめざし、
総合的、専門的、実践的に学べる科目を設定する。」、デ
ュプロマポリシー3.都市生活についての総合的・横断
的な知識を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、
それらを応用して魅力的で持続可能な都市生活の創造
に導く構想力および実践力を身につけている」と関連し
ている。

商環境とホテルの企画

147

Planning of Commercial Environment and Hotels

都市の賑わいや、情報発信と交流、経済活動、観光に重
要な位置を占める、商環境とホテルの企画について、複
合施設を含め国内外の実例を題材として学ぶ。商業施設
開発の、市場と事例の調査分析、まちの文脈や敷地条件
の読み取りからはじめ、MD計画、企画の動機・目的・
過程・成果を学ぶ。そして、空間商品計画・ゾーニング・
プランニング・空間構成・動線・商環境デザインを学習
する。同時に、プロジェクトの進め方、テナントリー
シング、プロパティマネジメントの概要に触れ、事業
のしくみや手法の基礎を学ぶ。ホテルについては、ホテ

ルの歴史、運営と経営の仕組みから、企画の立て方まで
を学ぶ。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシ
ー3、4及び6の導入、ディプロマポリシー2、3と関連
している。

エリアマネジメント

148

Area Management

今日、社会資本の整備を中心としたこれまでの都市づく
り、すなわち「都市計画」から、社会関係資本の構築、
すなわちマネジメントを基礎とした都市づくり「エリア
マネジメント」への移行が顕著に見られる。そこで、そ
のような移行の必要性を示し、その実際を多くの事例に
即して紹介する。なお、この科目は本学部のディプロマ
ポリシー3「都市生活についての総合的・横断的な知識
を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、それら
を応用して魅力的で持続可能な都市生活の想像に導く
構想力および実践力を身に付けている」と関連している。

コミュニティマネジメント

149

Community Management

本格的な少子高齢社会に向かう現在、これからの社会に
ふさわしい現代的コミュニティの形成は喫緊の課題で
ある。そのため、コミュニティの現状を分析し、適切な
マネジメント計画を立案・実行するコミュニティマネジ
メントの必要性が高まっている。本科目では、コミュニ
ティの基礎的な概念と現代社会におけるコミュニティ
の課題を理解した上で、全国で取り組まれている多様な
コミュニティデザインプロジェクトの事例を学び、実際
にコミュニティマネジメント計画を立案する。人と人との
関わりによって生活の質を高めていくコミュニティ
のマネジメントは、建築や印刷物などと違い、目に見え
ない。それゆえ、関わりの中から起こる価値、できごと
やサービスを可視化し計画に仕上げていくための独自
の手法を必要とする。本科目では、デザイン思考やサー
ビスデザインの手法を取り入れたユーザー参加型のデ
ザインスキルを学び、地域から企業まで、これからの社
会で求められるコミュニティマネジメントの手法を身
につける。本科目は、カリキュラムポリシー3、ディプ
ロマポリシー2に関連している。

専門科目：都市のデザイン

都市デザイン

150

Urban Design

都市を構成する要素は、建築をはじめとして多種多様で
あり従来の都市計画から都市再生へ、または、都市活用
へと社会的要求が変化している。そもそも私たちが生活
している都市とは何か？、都市空間とは何か？、また、

それらはどのようにデザインされるのか？人の生活と密接に関係のある建築計画やデザイン、都市デザインの例から、今日までの基本的な捕らえ方を、建築家や都市計画家の思想とデザインを通じて、都市をデザインする計画手法や考え方、思想に関して学ぶ。本科目は都市計画や都市空間の演出等の科目と異なり、過去から現在、そして未来へと変わりゆく手法やデザインを体系的に捉えること、且つ、人・建築・都市・文化を総合的に理解することを目的としている。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2.「都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する」、ディプロマポリシー3.「都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を修得してい」と関連している。

建築空間論

151

Architectural Design

建築空間を創造、提案するということは、これまでにない新たな問いを立て、それに答えるということである。複雑な様相を示す社会に対して、よりよい空間を創造し、建築が持続可能な社会に貢献するということを考えたい。これまでも多くの都市や地域でこうした空間創造が行われ、継承されてきた。我々もまたこうした人間の永い取り組みの中の一つを担うのだということも含めて、建築空間について考えたい。そして、なにより生み出された空間はそこに生きる人びとのための空間であることを前提に授業を進める。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2およびディプロマポリシー3と関連している。

ランドスケープデザイン

152

Landscape Design

よりよい建築都市環境を創造していくうえでランドスケープデザインが注目され、建築、都市、地域の各レベルにおいてランドスケープデザインが展開されている。サステナブルな環境創造、グローバル時代の都市空間創造、豊かな都市生活の提供、などに寄与するランドスケープデザインの意義を理解し、海外の先進事例から知見を得ながら、わが国における今後の展開について考察する。なお、この科目は本学部のディプロマポリシー3「都市生活についての総合的・横断的な知識を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、それらを応用して魅力的で持続可能な都市生活の想像に導く構想力および実践力を身に付けている」と関連している。

都市の環境

153

Urban Environment

世界の人口の約半分が都市に居住している現在、生活基盤を支える環境を理解し、適切に保全し、次の世代に繋げていくことは我々に課せられた重要な責務である。本講義では、将来へと持続可能な社会を目指す建築・都市環境の視点に立ち、特に都市環境に関する諸問題とそれらの解決・低減に向けた対策・政策・マネジメント等を主なテーマとして採り上げ、国内外における具体的事例やプロジェクトを交えて解説する。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシーの「社会科学的な方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連している。

インテリアデザインと実務

154

Interior Design and Practice

身近な住まいからオフィス、公共建築、商業施設に至るまでそのインテリアには共通するデザイン要素が多い。インテリアデザインを決定する要素や手法を数多くの事例を基に学習する。また、インテリアデザインの潮流を学び、現在から将来に社会が求めるデザインを、建築計画・空間構成・空間心理・機能・設備環境・人体スケール等に連関させながら習得し、社会やクライアント、マーケットの求める快適な空間を包括的に提案できる素養を身につけることを本科目の目的とする。更にインテリアデザイナーや建築家、建築系コンサルタントが現業でどのような職能を発揮しているかを事例を通して理解し、関連資格取得とキャリアプランの具体化にも踏み込んで講義する。

尚この科目は、本学部カリキュラムポリシーのうえで、空間のデザインに資する専門知識の習得を旨とし（CP-2）、かつ、ディプロマポリシーのうえで社会科学的かつ実践的な方法論を複合的に学修し、業務実践に寄与するものと位置付けられている（DP-2）。

建築史

155

History of Architecture

古代から近世に至るまで、自然・社会・宗教・文化と関わりながら形成されてきた建築・都市の特徴を理解する。特に、技術的な専門用語をしっかりと習得し、欧米・日本の各地・各時代を比較しながら、その特徴を把握する。さらに、技術革新以降の近・現代の建築・都市について、日本を含む世界各地における課題とそれに対する建築家の取り組み、新たな創造などを概観し理解する。それによって、技術・思想がいかに発展し、伝統がどのように解釈されて現在までの建築・都市が創り上げられてき

たかを、広い視野をもって考察する。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2、ディプロマポリシー3と関連している。

住宅計画

156

Housing Design

これまでの日本の住宅の在り方を理解し、これからの日本の住宅の在り方を考える。対象として戸建住宅と共同住宅の両方を扱い、多角的な視点から住宅を考える。最初にライフスタイルと空間の関係を理解する。比較対象として海外の事例も紹介する。シェアハウスなど新しい共同生活の在り方についても考える。次にその空間の計画の仕方を理解する。住宅全体の骨格、外観や室内に使われる素材や色彩、部分の詳細、そして家具や庭のデザインなど、さまざまな計画項目とその関連性、扱い方を把握する。新築のみならず既存ストックを活用したリフォーム・リノベーションや、住宅の施工の仕方についても取り上げる。続けて、住宅自体の取得方法、住宅に関連する法律・税制・金融など、住宅計画に影響を与える仕組みについて理解する。最後に環境対応、安全安心、都市景観など現時点で重要視されている社会的価値の視点から住宅の価値の在り方を考える。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2およびディプロマポリシー2と関連している。

リノベーションとコンバージョン

157

Renovation and Conversion

これからも増加する傾向にあるオフィスビルや住宅のストックの有効な再利用方法を具体的なケーススタディを通して理解する。この授業では、リノベーションをデザイン、不動産、ビジネスモデル、コミュニティ、まちづくりなどが総合的にとらえ、まち再生事例、コミュニティと連動したモデル、不動産投資を活用した事例など、具体的なケーススタディを使って方法論を伝える。また実際に街中に現存する具体的なストックをモデルケースとしながら、それを有効再生するための手法のシミュレーションなどを行い、実践的なノウハウを学ぶ。なお、この科目はカリキュラムポリシー3、ディプロマポリシー2に関連する。

専門科目：都市のしくみ

都市政策

158

Urban Policies

この講義は、都市の暮らし、活力、魅力を対象とする公共政策について、現代の多様な事象に関する基礎知識を習得するとともに、都市問題を地域や立場の違いから多面的に理解し、それらの解決に向けた政策の組み立て方

を筋道だてて考える視座を養うことを目指している。扱うテーマが毎回異なり、全体として今日的话题に幅広く触れる。

なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシーの「社会科学的な方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連している。

都市と交通

159

Urban Transport

この科目では、都市における交通をTransportation(輸送; 計画者の視点)とMobility(移動; 生活者の視点)の両側面から捉え、機能的な都市づくりと、誰もが安心して暮らせる都市生活という2つの観点を中心に、都市交通政策の基礎と先端技術が拓く近未来の都市生活の展望を多角的に学習する。

なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシーの「社会科学的な方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に対応するものである。

ユニバーサルデザイン

160

Universal Design

近年、高齢者の増加や障がい者の増加に伴い、誰もが快適に過ごせるようなデザインを最初から行うユニバーサルデザインが注目され、世界的にもそれをスタンダードにする動きがある。この科目では、色々な身体障がいを意識しながら、誰もが快適に使える最大公約数的なユニバーサルデザインの基礎を学ぶ。ユニバーサルデザインと一言で言っても、駅や空港などのハードのユニバーサルデザインもあれば、お店での人的サービスに代表されるソフト面でのユニバーサルデザインもあり、対象領域はかなりの多岐に亘る。それらを網羅しながらユニバーサルデザインを学び、就職後にも役立つような知識を提供する。なおこの科目は、カリキュラムポリシーの2とディプロマポリシーの2、3と関連が深い。

都市の開発と経済

161

Urban Development and Economy

都市生活は「下部構造」たるインフラストラクチャーによって支えられている。本講義では「インフラストラクチャー」について、「ハードインフラとソフトインフラ」、「都市の発展段階」及び「歴史的時間軸」の観点から、その役割と整備にあたっての視点、及び今後望まれる対応について検討する。ここでハードインフラとは道路、鉄道、橋梁等の構造物や、上下水道サービス、通信等の物

理的サービスを指し、ソフトインフラとは各種法令・法規・規制・制度と組織マネジメントを指し、これらのあり方や課題は、都市の発展段階や、時代背景たる歴史的時間軸に依拠する。更に、現在は IT 技術等の革新により、都市のあり方も大きな転換点にあることから、これからの都市インフラのあり方を考えるための論点を提供する。本講義では受講者がこれらの基礎的知識と視点を獲得することを目的とし、国内のインフラだけではなく海外プロジェクトも取り上げる。

住まいの構法・生産・流通 162

Building System, Production and Distribution of Housing

現代の日本における住まいのつくり方、すなわち住宅の構法は極めて多様なものになっている。代表的なものとして、多数のストックを保持している「在来木造住宅」、通称プレハブ住宅と呼ばれている「工業化住宅」、そして鉄筋コンクリート造による集合住宅等があり、これらは 20 世紀後半の社会的変化や需要を背景に生み出され、淘汰されてきた。

構法は時代を反映するものであり、これからも変化していく。そこで、本講では代表的な構法を対象に、生まれてきた社会背景や変化を学習し、これからの持続可能型社会における住まいのあり方について考える。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー1. ディプロマポリシー3. と関連している。

まちの防災 163

Urban Disaster Prevention

大規模地震や局所的集中豪雨の発生が危惧される中、災害に強いまちづくり、人づくりの推進が求められている。本講義では、災害に対する事前の備えと、発災時の緊急対応、その後の復旧・復興に至るまでの一連のプロセスを対象とし、各種災害の特徴と防災対策の枠組み、人間の心理・行動、安全・安心のまちづくり事例などについて学ぶ。自然災害だけではなく、犯罪や日常災害についても取り上げ、都市の安全性を向上させるための方策を考える。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシーの「都市のマネジメント領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」、およびディプロマポリシーの「社会科学的方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得」に関連している。

住まいと環境 164

Housing and Environment

安全・健康で快適な暮らしを实践するためには、人と環境の関係や建築と環境の関係を理解する必要がある。建

築空間の環境性能は、音環境、熱環境、光・視環境、空気環境に分類されるが、ここではその各々についての基礎知識を修得する。快適な住まいを作るうえで、これらの環境に配慮したデザインが不可欠であり、また地域性や住まいの構造・形態がどのように影響しているかを学び、さらにエコロジカルなデザインのための基礎知識、要素技術、その手法を修得する。

なお、この科目は本学部カリキュラムポリシー 2 の「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシー 2 の「社会科学的方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連している。

都市計画(2) 165

Urban Planning(2)

この科目は、都市計画の基礎知識をひとまず学習した皆さんを対象にしている。都市計画は、都市の環境を今よりも望ましい状態にしていこうとする積極的な意思を持った取り組みであるが、その実現手段となる法律制度には、恣意性のある行為を抑制する法令固有の原則があり、両者は相反する側面がある。そこで、都市計画・まちづくり関連の行政法規の全体像を確認するとともに、それらの背景をなす法理と、実用の場面で工夫を考えるにあたってポイントとなる知識の習得を目指す。なお、この科目は本学部カリキュラムポリシーの「都市のしくみ領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得」および、ディプロマポリシーの「社会科学的方法論を習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連している。

専門科目：建築士対応科目

建築法規 166

Building Law and Regulation

国民の「生命・健康・財産の保護」と「公共の福祉の増進」を目的に定められた建築基準法を中心に、建築設計をする上で関係する主要な法文の読解や、法規間の関連性に関して解説する。ここでは、建築物を集団的に規制する集団規定と、個別の建築物に適用する単体規定の二つの基準を前半と後半に分けて取り上げる。建築基準法は、社会情勢や時代背景に影響を受けながら度々改正され、今後も変化していくと考えられる。この変化を捉え、上記の目的を実現するためにはどうすれば良いか学習する。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー 1. とディプロマポリシー3. と関連している。

建築材料

167

Building Materials

建物は建築材料で構成されている。建築材料は無機材料と有機材料に分類され、材料の性質により、建物を支える構造材料や建物を保護する仕上材料として用いられる。また、建築材料はほとんどが人工材料であるが、古代より使われている木材や石材・土・漆などの天然材料もある。本科目では、構造材料や仕上材料を含む各種建築材料の歴史や特徴を理解し、建物での使われ方について学習する。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー1. ディプロマポリシー3. と関連している。

建築構造

168

Building Structure

本来、建築から構造を分離して建築は成立し得ず、完成した建築物にあっては建築と構造は一体で不可分のものである。

けれども、建築の計画段階や設計段階、また施工や維持管理段階の各過程においては、構造はその工学技術体系に根ざした経験と知識に基づき、建築とは別の次元の可能性と必然性、つまり構造的な性能（安全性能、居住性能、施工性能など）が追及されることになる。

そうした建築における構造の本質的な重要性、機能と社会的位置について、きちんと認識できるようになるには、力学や数学・科学などの自然科学に対する知識とともに、構造全般に対する包括的で俯瞰した知識が必須である。本科目では、さまざまな素材、構造骨組、そして構造技術全般の講義を通して、建築構造の重要性、機能と社会的位置について包括的に捉えられるようになることを目指す。

また建築物に作用する様々な自然条件、特に常時の静的な荷重や非常時の動的な外乱要因等についても、それらに対する各構造形式の特徴と役割、また法規上の取り扱いについて、基本的内容を理解することを目指す。

あわせて、構造骨組の模型を各自実際に製作し荷重を与えて破壊する（耐荷重を計測する）ことを通し、素材と構造形式の特徴と力学的仕組みを体験的に把握することを目指す。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2、ディプロマポリシー3 と関連している。

構造力学(1) 及び演習

169

Architectural Structures(1)

建築物は人が生活したり働いたりする、いわゆる人と関わる構造物であることに特徴を有している。したがって、建築物には様々な荷重が作用するが、第一にその荷重に耐える構造安全性が求められる。構造力学は構造物の安全性の観点から、様々な荷重が構造物に作用した時に各部材がどのような力を受け、どのように変形し、そして

どのように壊れるのかを科学し、工学的な知見を得る学問である。構造力学(1)では建築を学ぶ上で必要な力学の入門として、建築物と荷重をいかにモデル化して数式表現するかを学び、特に静定構造物（釣り合い式で全ての反力を求めることができる構造物）が様々な荷重を受けた時に生じる応力（軸方向力、せん断力、曲げモーメント）を力の釣り合いから求める方法を理解し、講義と演習により基礎力を養う。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2. 「経営的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して演習科目を設置するとともに、都市生活に関する4種類の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に習得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する」、ディプロマポリシー3. 「都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を習得している」に関連している。

構造力学(2) 及び演習

170

Architectural Structures(2)

構造力学(1)でも述べたように、構造力学の基本は静定構造物の応力を求めることにある。構造力学(2)では「構造力学(1) 及び演習」に引き続き、まず「力の釣り合い条件」の概念を復習する意味で、静定構造物の反力と応力の求め方を、静定梁とトラス構造物を対象として取り上げる。次に構造設計に必要なとなる構造力学の例として「梁の変形」と「梁の応力度」について断面の性質を用い、剛性と強度の観点から学習する。次に、釣り合い式のみでは全ての反力が求められない構造物の例として、不静定梁の応力の求め方について述べ、その他、構造設計で考慮しなければならない力学現象である振動や座屈についても演習を交えて学習する。最後に、大地震時の構造物の状態を許容する塑性力学についても基本事項を修得する。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2. 「経営的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して演習科目を設置するとともに、都市生活に関する4種類の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に習得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する」、ディプロマポリシー3. 「都市に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を習得している」に関連している。

鉄筋コンクリート構造

171

Reinforced Concrete Structures

鉄筋コンクリート構造は木質構造や鉄骨構造と並んで代表的な構造形式である。コンクリートの圧縮強度は構造的に期待できるが、引張り強度は全く期待できないことから鉄筋を用いることになる。また、我が国の構造設計では鉄筋コンクリート構造にも靱性（粘る特性）が求められることから、圧縮側にも鉄筋を用いる。このように、コンクリートと鉄筋の複合材からなる鉄筋コンクリート構造を梁、柱および耐力壁の役割を中心に構造設計の観点から解説する。とくに、各部材の特性に基づく各種鉄筋の配筋の仕方について学ぶ。また、地震国であるわが国の鉄筋コンクリートの柱と耐力壁の役割について理解する。

なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー2.「経営的な調査分析と空間のデザインという二面の実践能力を併せ持つ人材の育成を目指して演習科目を設置するとともに、都市生活に関する4種類の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に習得するために「専門基礎科目」および「専門科目」を設置する」、ディプロマポリシー3.「都市関に関する総合的・横断的な知識と、特定領域の深い専門知識を持ち、それらを応用して都市生活の価値創造に寄与する構想力および実践力を習得している」に関連している。

環境と設備

172

Building Equipment for Environment

建築計画における、人体快適、建築物における熱伝達、湿気と結露、換気と通風、室内空気質、音環境、人工照明と昼光利用について学ぶ。特に、断熱、窓・ドア性能、気密性と換気、日射取得と日射遮蔽といった建築形態が居住者快適性とエネルギー消費に与える影響について理解する。建築環境は室内と住居単位からビルディング、街、都市単位まで学問領域を広げ、近年は温暖化で代表される地球環境までを網羅するようになった。建築環境工学は、快適で健康な建築空間、効率のよい建物と設備システム及び都市環境に関わる物理現象を扱う学問である。本講義はカリキュラムポリシー「都市生活に関する4領域の専門知識と方法論を体系的かつ多角的に修得する」専門科目で、ディプロマポリシー「社会科学的な方法論と芸術・工学的な方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を修得」に関連する。

専門科目：総合領域1

フレッシュャーズゼミ

173

Seminar for Fresher

全員対象の集合授業と15名程度のクラス別授業の2種類で実施する。この2つの方式にて第1に大学生活のオリエンテーションを行い、第2に各自の大学4年間の学業、サークル活動、自己啓発活動の目標を盛り込んだキャンパスライフプランを作成する。また第3に個別課題に基づくレポート作成、意見発表を行い、大学の授業に対応するための基礎的能力を培っていく。

より実りのあるキャンパスライフの構築をサポートするため、このようなプログラムにて総合的コーディネートを行う。

キャリアデザイン(1)

174

Career Design(1)

「キャリアデザイン」を通して、人生の働く期間を対象とするワークキャリアについて基本的な知識と実践的な方法を身につける。これにより長期にわたって自分のワークキャリアを見定めることができるようになる。また、ポートフォリオ視点で自分を客観視するとともに、会社の仕組みの学習、インターンシップ経験者からの経験談などを通じて、企業への理解を深める。最終的には、自分自身をアピールするための具体的な方法としてエントリーシートの基礎について学ぶ。また、自分の知識の現状を知る。なお、この科目はカリキュラム・ポリシーの1「複雑化する都市社会の中で確かな価値を見抜く力」、ディプロマ・ポリシー1「責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している」に関連している。

キャリアデザイン(2)

175

Career Design(2)

「キャリアデザイン」を通して、人生の働く期間を対象とするワークキャリアについて基本的な知識と実践的な方法を身につけることで、長期にわたって自分のワークキャリアを見定めることができるようにしていく。この授業では、キャリアデザイン(1)からの継続として、社会或は企業と自分自身との適合について考え、自分自身を表現する準備を始める。その為に、ポートフォリオ視点で自分を客観視し、会社の仕組みの学習や、インターンシップ経験者からの経験談を通じて、企業への理解を深める。最終的には、企業に自分自身をアピールするための具体的な行動としてエントリーシートの基礎について学ぶ。また、SPIの模試を受けることで自分自身の現状を知り、スコア改善の準備を始める。なお、この科目はカリキュラム・ポリシーの1「複雑化する都市社会の中で確かな価値を見抜く力」、ディプロマ・ポリシー1「責任ある社会人として活躍できる基礎能力を修得している」に関連している。

キャリアデザイン(3)

176

Career Design(3)

人の働く期間を対象とするワーク・キャリアについて基本的な知識と手法を身につけることで、就業力を身につける。具体的には、キャリア理論の体系的な知識習得に始まり、4年生の成功体験、価値観、欲求、強み・弱み等の分析に基づき各自キャリア・ビジョンを描く。また、長期的なキャリア形成の選択肢について各産業分野で活躍する講師から学び、各自のビジョンとの適合を図り、実現シナリオを創る。最後にグループ内ディスカッションを通じて、結論に至るまでの議論への関わり方を学習する。成績は、各自のキャリア・ビジョンを表現した期末レポートで評価を行う。集合授業とプロジェクト演習別授業の2種類を組合せ、集合授業では体系的な知識を講師の講義により学習する。プロジェクト演習別授業では、学生が個別課題として構築していく長期的なキャリアプランに対して、きめ細やかな指導やトレーニングを行い、学生生活全体をサポートする。なお、この科目は本学部のカリキュラムポリシー1. ディプロマポリシー1と関連している。

プロジェクト演習(1)

177

Project Based Learning (1)

これまで学んできた教養・専門に関わる知識と、演習を通して身につけた専門スキルを駆使して、専門分野毎にテーマが設定された研究室にてプロジェクト単位の課題に取り組む。ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式などテーマによって異なった演習形式により、学生が自ら考え、成果をまとめる力を身につける。本授業は、本学部カリキュラムポリシー6に関連し、ディプロマポリシー2に対応している。

プロジェクト演習(2)

178

Project Based Learning (2)

専門分野の教員毎にカリキュラムの内容に関連する専門性の高い演習テーマを設定し、学生は作品、小論文などの成果としてまとめプレゼンテーションする。卒業研究においては、プロジェクト演習(2)で学んだ専門分野をより深めて研究をおこなう。実施に当たっては、教員一人当たり12名程度の学生を担当し、ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式などテーマに合った演習形式により、学生が自ら考え、成果をまとめる力を身につけさせる。また、卒業研究への導入として位置づける。複数の教員によるテーマ設定も可能とするが、その場合も教員一人あたりの配属学生数は同じとする。

専門科目：総合領域2

海外研修(1)～(2)

179～180

Oversea Training Program (1)～(2)

1年次選択必修科目「世界の都市」および「世界の住まい」等で学んだ内容に関連し、ヨーロッパ圏やアジア圏などを訪問して本物の都市や住まいを実体験することによって、都市生活に関わる学修・研究の源泉となる生きた知見を獲得する。具体的には、各都市の専門博物館や行政機関・大学などで、都市空間・建築物・都市文化について見学・受講・学修するとともに、学生自身によるフィールドサーベイを行う。

インターンシップ(1)～(2)

181～182

Internship(1)～(2)

在学中に企業、設計事務所、研究所などで就業体験をすることで、自分の将来を見つめ、自己の適正を知り、将来の進路計画に役立てる有意義な機会とする。大学における講義は、実社会で役立つことを想定して計画しているが、実際の産業界における価値観や要求されることを具体的に体得する機会ともなる。

2週間以上の実習を行い、実習先の証明書及び本人の実習報告書を提出することで単位とするが、その前後には、個別またはグループでの指導を行う。このように、産業界での経験を踏まえて、より実践的な指導を行う。

卒業研究(1)～(2)

183～184

Graduation Studies

4年時に進級してきた学生が前年度のプロジェクト演習のテーマをもとに大学における専門分野の一つに絞り込むのがこの卒業研究である。

専門分野の教員毎にカリキュラムの内容に関連する研究フィールドを設定し、合計10～15程度の研究フィールドの中から、学生は希望する分野を通期として1分野選択し、その中から研究テーマを探索し設定する。文献研究、各種調査、観察、実験、分析などの研究活動を通じて作品、論文などの成果としてまとめ、プレゼンテーションする。

この経験をもとに学生は大学生活において学びとった知識とスキルをプロジェクトの企画、実施、成果品の作成、伝達という一連の体験の中で統合的に習得し、プロジェクトマネジメントの実践力を身につけて社会に巣立っていく。

実施にあたっては、教員一人当たり10名程度の学生を配分し、ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式など研究フィールドに合った演習形式により学生を指導する。複数の教員によるテーマ設定も可能とするが、その場合も、教員1人あたりの配属学生数は同じとする。

まちづくり演習(1)～(3)

185～187

Urban life studies (1)～(3)

年度により、特別な演習を行うことがある。実施詳細はその都度紹介する。

特別講義(1)～(3)

188～190

Special Lecture(1)～(3)

年度により、特別な講義を行うことがある。実施詳細はその都度紹介する。

2019 年度実施予定

特別講義 東急グループの都市創造

東急グループとの連携による寄付講座として行う。
東急グループの各社（交通・不動産・流通・レジャー・サービス・メディアなど）からの解説により、東急グループの街づくり、生活創造に関わる多岐に渡る企業活動を通じて、都市創造が現実にとどのように行われているのかの具体的事例を理解し、これらの分野の事業戦略のあり方を学ぶ。